

# ねやがわし の環境

平成21年度版  
(平成20年度報告)

寝屋川市環境部

# 寝屋川市民憲章

(昭和48年5月3日制定)

(前文)

わたくしたちは、河内平野にひろがり歴史と伝統をもつ寝屋川市の市民です。

わたくしたちは、明るく豊かに生きがいのあるまちをつくるために、日本国憲法の精神にしたがい、その崇高な理想のもとにこの憲章を定めます。

これによって、わたくしたち市民の自治精神が強化され、お互いの連帯意識が高められ、寝屋川市が急激な市街化による弊害から守られて、さらに繁栄することを、わたくしたちは期待します。

(本文)

- 1 わたくしたちは、誇りと責任をもって恒久の平和を愛し、寝屋川市を愛します。
- 1 わたくしたちは、教養をふかめ、教育と文化との香り高いまちづくりにつとめます。
- 1 わたくしたちは、お互いの人権を尊重し、よく話しあい、理解しあい、譲りあってうるおいのあるまちづくりにつとめます。
- 1 わたくしたちは、老人を敬愛し、子どもを大切に、青少年がすこやかに夢と希望をのぼしうる暖かいまちづくりにつとめます。
- 1 わたくしたちは、お互いに公共心をやしない、美しい緑と水をとりもどし、公害のない清潔なまちづくりにつとめます。

# 目 次

## 第1章 市の概要

第1節	位置・地勢	1
第2節	気 候	2
第3節	人 口	3
第4節	産 業	4
第5節	道路・交通	5
第6節	都市計画区域の割合	6

## 第2章 環境行政の概要

第1節	環境行政機構図	7
第2節	環境行政のあゆみ	8
第3節	公害測定機器一覧	13

## 第3章 大気汚染・悪臭

第1節	大気汚染に係る環境基準	15
第2節	大気汚染の現状	
1.	大気汚染の概要	16
2.	硫黄酸化物	19
3.	窒素酸化物	19
4.	浮遊粒子状物質	19
5.	一酸化炭素	19
6.	非メタン炭化水素	19
7.	有害大気汚染物質	20
第3節	自動車排ガス対策	
1.	低公害車の公用車導入	20
2.	アイドリング・ストップ	20
第4節	光化学スモッグ	21
第5節	酸性雨	23
第6節	大気汚染防止対策	
1.	法律・条例に基づく規制	24
第7節	悪 臭	
1.	悪臭の現状	30
2.	悪臭の対策	30

## 第4章 水質汚濁

第1節 水質汚濁に係る環境基準	31
第2節 水質汚濁の現状	
1. 市内の河川・水路	34
2. 河川・水路の水質調査	35
3. 水質汚濁物質測定調査	37
4. 年度別水質汚濁の経年変化	42
第3節 水質汚濁の対策	
1. 法律・条例に基づく規制	44
2. 生活排水対策	50

## 第5章 騒音・振動

第1節 騒音・振動に係る環境基準	
1. 騒音・振動に係る環境基準	51
2. 環境騒音	52
第2節 騒音・振動苦情の現状	61
第3節 法律・条例による規制	63

## 第6章 地盤環境

第1節 地盤沈下	
1. 地盤沈下の現状	71
2. 寝屋川市の地盤沈下	73
第2節 地下水汚染	76
第3節 土壌汚染	76

## 第7章 公害の苦情・陳情

第1節 苦情・陳情状況	79
-------------	----

## 第8章 環境啓発

第1節 環境啓発と環境学習	
1. 環境美化推進	81
2. エコ・フェスタ	83
3. 水辺の観察会「親子で見る自然散策と水辺の生物観察会」	84
4. こどもエコ・クラブ	84
5. 自然環境教室	85
6. 出前講座	88
第2節 公害防止融資	
1. 利用資格	89
2. 資金使途	89
3. 融資条件	89
4. 寝屋川市公害防止融資あっせん状況	89



## 第9章 廃棄物（ごみ・し尿）

第1節 ごみの現状と取り組み	
1. ごみ処理事業の沿革	91
2. ごみ減量・資源化の推進	95
3. 具体的な取り組み	96
4. ごみ処理の状況	99
5. クリーンセンターの現状	101
6. 北河内4市リサイクルプラザ	102
第2節 し尿	105

## 第10章 地球環境

第1節 地球環境問題	111
第2節 地球温暖化防止	
1. 地球温暖化	111
2. 地球温暖化防止対策について	112
3. 第2期寝屋川市役所温暖化対策実行計画温室効果ガス排出量調査結果	112
第3節 オゾン層の破壊	
1. オゾン層の破壊	114
2. オゾン層の保護対策	114
第4節 環境保全の取組	
1. 環境基本計画	115
2. 環境基本計画の策定	115

## 第11章 化学物質

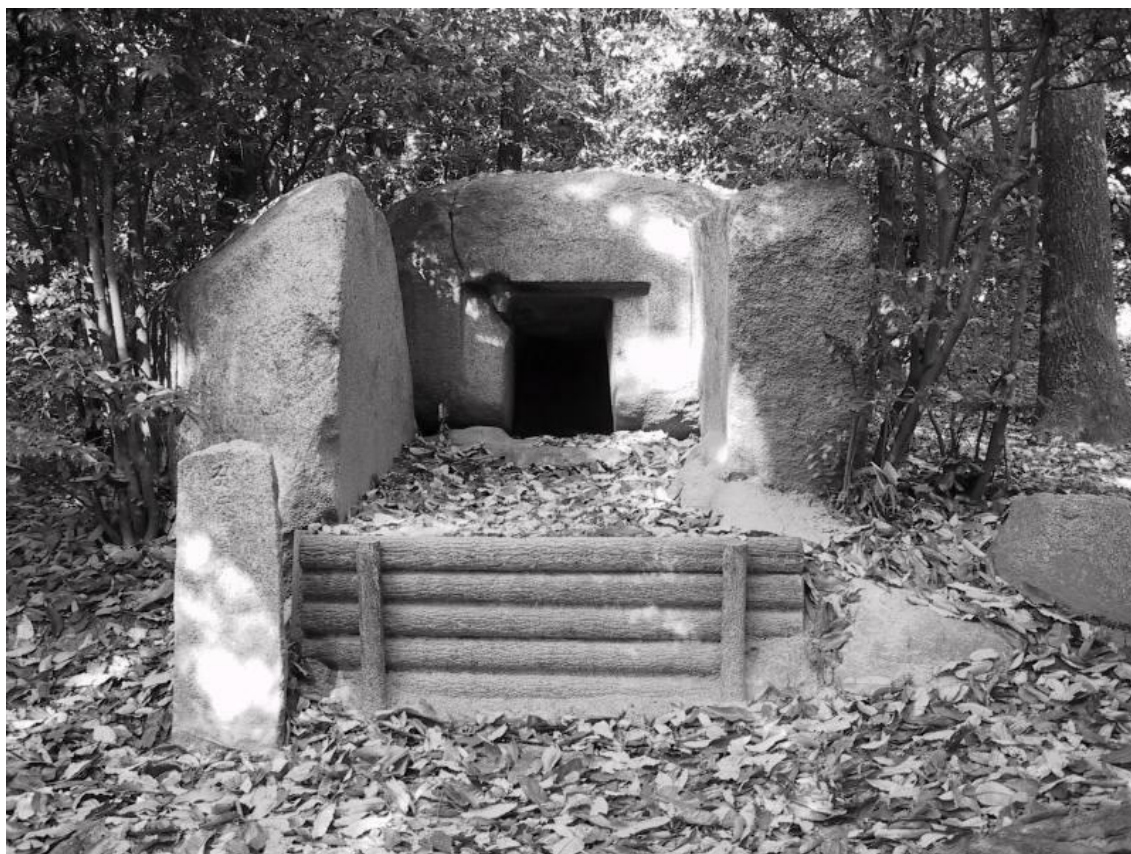
第1節 ダイオキシン類	
1. 発生源対策	117
2. ダイオキシン類調査	118
第2節 アスベスト	119

## 資 料

公害用語の解説	121
---------	-----



# 第1章 市の概要



## ◇石宝殿古墳

生駒山地からのびる丘陵に築かれた古墳で、巨大な花崗岩をくり抜いて墓室を構成した7世紀の古墳で、長さ3m、幅1.5mの石を底に敷き、その上に直径3m、高さ1.5mの内部をくり抜いた石を乗せた横口式石槨と呼ばれる古墳時代終末期の非常に珍しい石室をもつ古墳です。昭和48年5月10日に国の「史跡」に指定されています。



# 第1章 市の概要

## 第1節 位置・地勢

寝屋川市は、大阪府の東北部、淀川左岸に位置し、大阪市中心より15km、京都市域の中心より35kmの距離にあります。

寝屋川市の東部は交野市、西部は淀川を境として高槻市、摂津市に接し、北河内地域の中心部を占めています。

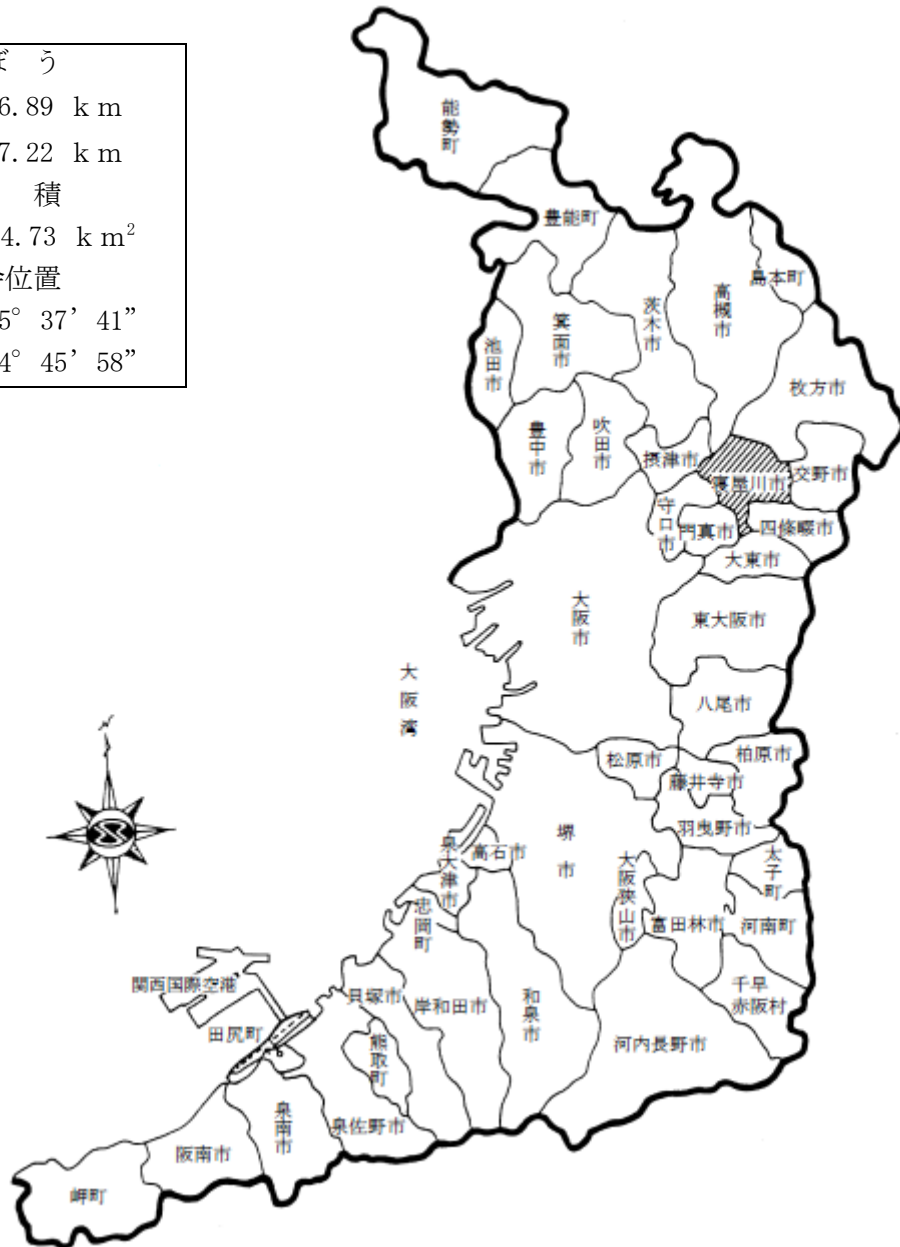
寝屋川市の地勢は、東部丘陵地と西部平坦地帯の二つに大別されます。

丘陵地帯は、生駒山系の一部をなし海拔50m前後で、最高点は市東端部高良神社のある山で約109.6mです。

一方、平坦部は主として沖積層からなる海拔2～3mの平地で俗に北河内の低湿地帯と呼ばれています。

(図一概-1)

広 ぼ う	
東西	6.89 km
南北	7.22 km
面 積	
	24.73 km <sup>2</sup>
市庁舎位置	
東 経	135° 37' 41"
北 緯	34° 45' 58"

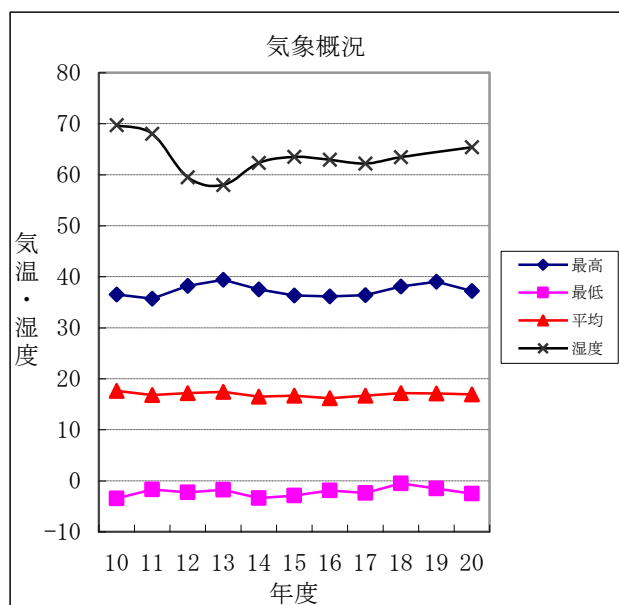


## 第2節 気 候

淀川流域を中心とした平坦地で、北摂の山々と生駒山地に囲まれているため、寒冷を防ぎ比較的温和で四季おだやかな瀬戸内式気候に恵まれています。

(表一概-1) 気象概況

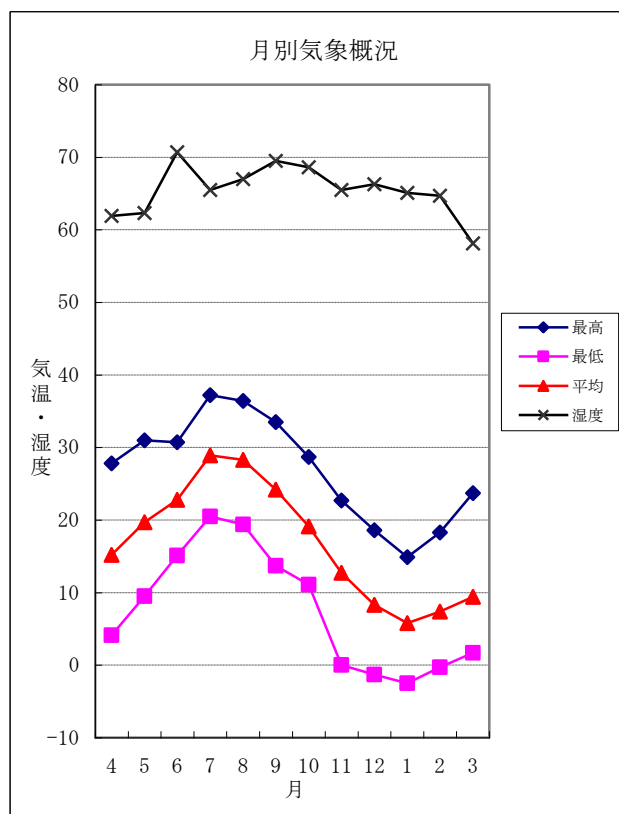
年 度 (平成)	気 温 (°C)			湿度(%) 平 均
	最 高	最 低	平 均	
11	35.7	-1.7	16.8	68.0
12	38.2	-2.3	17.2	59.5
13	39.4	-1.8	17.4	58.0
14	37.5	-3.4	16.5	62.3
15	36.3	-2.9	16.7	63.5
16	36.1	-1.9	16.2	62.9
17	36.4	-2.4	16.7	62.2
18	38.1	-0.5	17.2	63.4
19	39.0	-1.5	17.1	—
20	37.2	-2.5	16.9	65.4



※H19の湿度は湿度計故障のため未測定

(表一概-2) 月別気象概況

月 別	気 温 (°C)			湿度(%) 平 均
	最 高	最 低	平 均	
4	27.8	4.1	15.2	61.9
5	31.0	9.5	19.7	62.3
6	30.7	15.1	22.8	70.7
7	37.2	20.5	28.9	65.5
8	36.4	19.4	28.3	67.0
9	33.5	13.7	24.2	69.5
10	28.7	11.1	19.1	68.6
11	22.7	0.0	12.7	65.5
12	18.6	-1.3	8.3	66.3
1	14.9	-2.5	5.8	65.1
2	18.3	-0.3	7.4	64.7
3	23.7	1.7	9.4	58.1



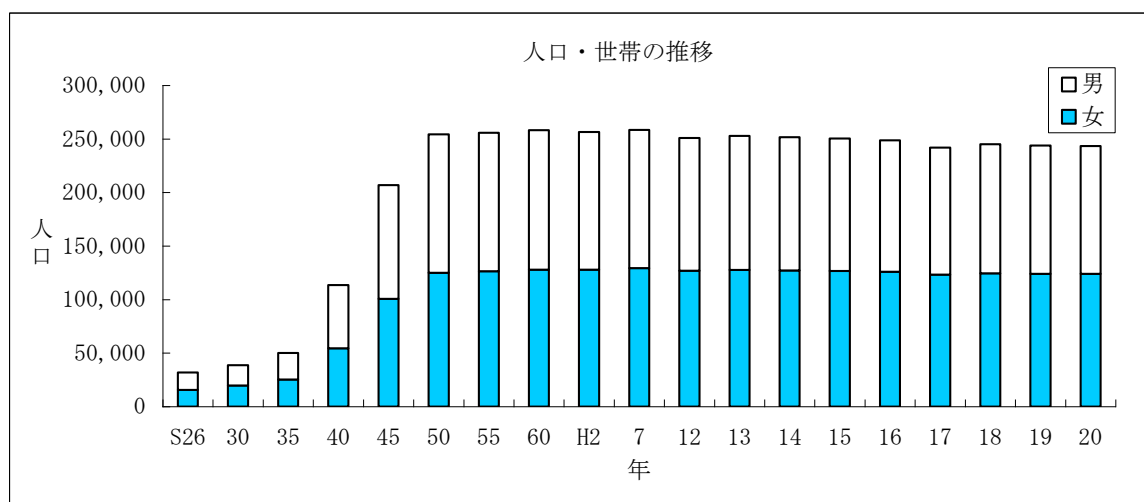
### 第3節 人 口

本市の人口は、昭和26年の市政施行当時31,887人、世帯数7,125世帯でしたが、平成20年10月1日現在の人口は、243,428人、世帯数104,995世帯です。

この著しい増加は、昭和35年から50年にかけて、高度成長を背景にした社会増であり、50年以降は、ほぼ横ばいの状態でした。現在は徐々に人口が減少しております。

(表一概-3) 人 口 ・ 世 帯 の 推 移

年	面積	世帯数	人 口			人口密度 (1k㎡ 当たり)	摘 要
			総 数	男	女		
昭和26年	20.72	7,125	31,887	16,436	15,451	1,539	4月1日現在
30	20.72	8,262	38,668	19,082	19,586	1,866	第8回国勢調査
35	20.72	12,011	50,188	24,991	25,197	2,422	第9回国勢調査
40	24.01	31,810	113,576	59,068	54,508	4,730	第10回国勢調査
45	24.00	62,336	206,961	106,430	100,531	8,623	第11回国勢調査
50	24.00	79,835	254,311	129,285	125,026	10,596	第12回国勢調査
55	24.00	83,701	255,859	129,369	126,490	10,661	第13回国勢調査
60	24.00	85,369	258,228	130,254	127,974	10,760	第14回国勢調査
平成2年	24.73	88,396	256,524	128,553	127,971	10,373	第15回国勢調査
7	24.73	94,345	258,443	129,136	129,307	10,451	第16回国勢調査
12	24.73	95,313	250,806	123,918	126,888	10,142	第17回国勢調査
13	24.73	100,580	252,867	125,299	127,568	10,225	10月1日現在
14	24.73	101,257	251,682	124,507	127,175	10,177	10月1日現在
15	24.73	101,911	250,324	123,729	126,595	10,122	10月1日現在
16	24.73	102,523	248,613	122,704	125,909	10,053	10月1日現在
17	24.73	95,896	241,816	118,593	123,223	9,778	第18回国勢調査
18	24.73	103,500	245,096	120,544	124,552	9,911	10月1日現在
19	24.73	104,069	243,844	119,791	124,053	9,860	10月1日現在
20	24.73	104,995	243,428	119,514	123,914	9,843	10月1日現在



#### 第4節 産 業

平成19年12月31日現在の工業統計調査(表一概-4)によると、従業員4人以上の事業所数は371社、従業者数10,322人、製品出荷額等22,297,405万円となっています。

業種別事業所数では、一般機械器具製造業が1位(75社)です。以下、金属製品製造業、プラスチック製品製造業と続いています。

次に、業種別製品出荷額等では輸送用機械器具製造業(3,764,485万円)で第1位です。以下食料品製造業、プラスチック製品製造業となっています。

(表一概-4)

分 類	事業所数	従業者数 (人)	製品出荷額等 (万円)
食料品製造業	12	1,277	3,004,269
飲料・たばこ・飼料製造業	-	-	-
繊維工業(衣料・その他繊維製品を除く)	3	23	X
衣服・その他の繊維製品製造業	23	230	154,891
木材・木製品製造業(家具を除く)	-	-	-
家具・装備品製造業	12	526	1,708,210
パルプ・紙・紙加工品製造業	7	278	1,228,814
印刷・同関連業	25	535	1,220,315
化学工業	13	443	1,373,763
石油製品・石炭製品製造業	3	44	358,608
プラスチック製品製造業	34	754	2,112,043
ゴム製品製造業	4	91	88,351
なめし革・同製品・毛皮製造業	1	5	X
窯業・土石製品製造業	5	56	157,565
鉄鋼業	3	29	17,360
非鉄金属製造業	4	88	351,352
金属製品製造業	65	1,317	2,477,954
一般機械器具製造業	75	1,138	2,006,572
電気機械器具製造業	26	620	551,834
情報通信機械器具製造業	7	194	138,444
電子部品・デバイス製造業	14	323	515,654
輸送用機械器具製造業	12	1,859	3,764,485
精密機械器具製造業	8	113	273,086
その他の製造業	15	379	568,959
計	371	10,322	22,297,405

資料：工業統計調査(大阪府集計)

(表一概-5)

年 度	事業所数	従業者数	製品出荷額(万円)
10	535	12,652	25,984,844
11	471	12,336	27,482,409
12	469	11,433	25,332,562
13	419	11,403	24,581,547
14	385	10,642	23,210,590
15	401	10,347	23,188,420
16	370	10,102	21,012,733
17	379	9,915	22,048,563
18	354	9,716	21,868,837
19	371	10,322	22,297,405

注) 従業者4人以上の事業所について

資料：工業統計調査(大阪府集計)

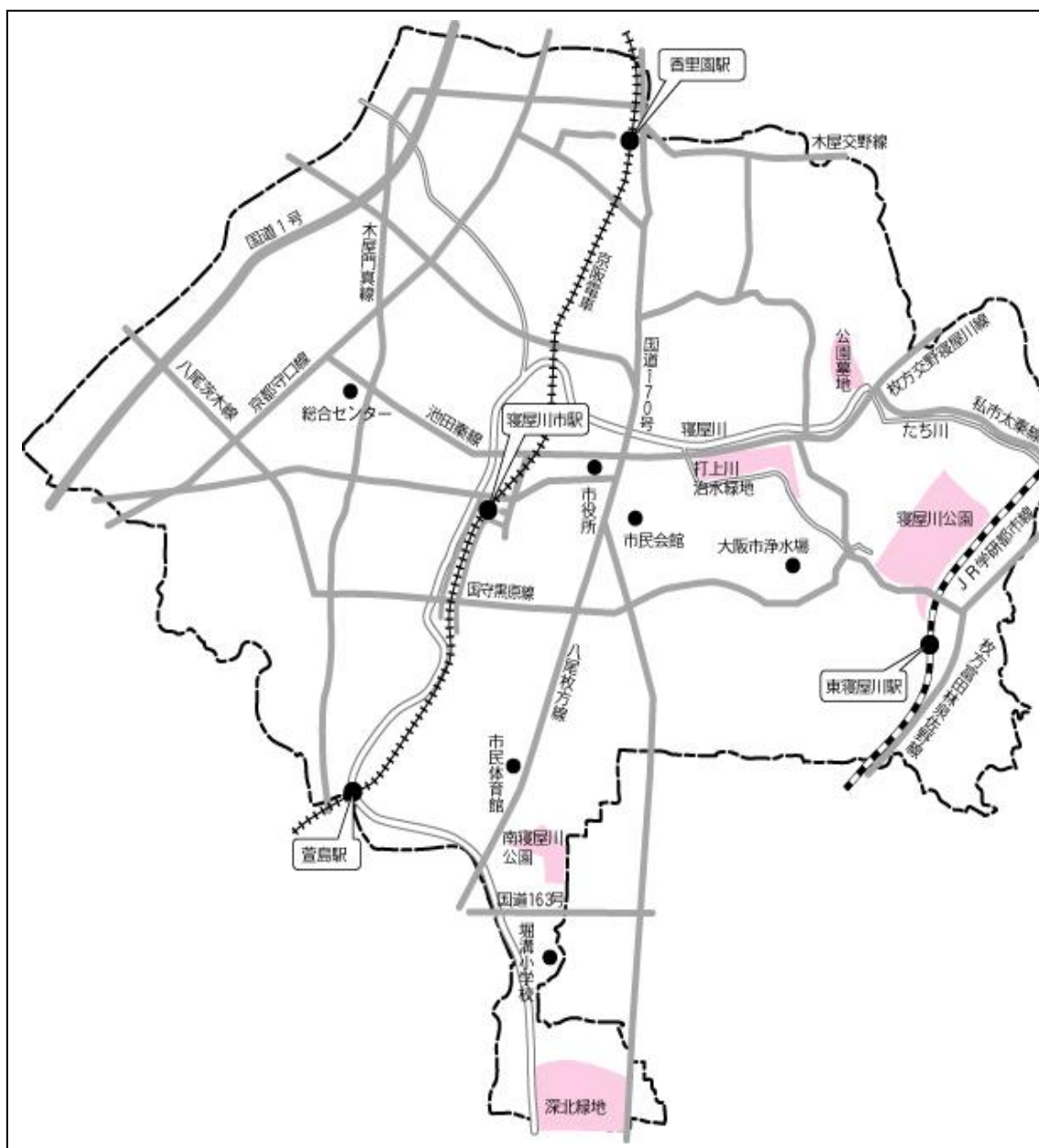


## 第5節 道路・交通

本市の交通網は、本市を縦断する西部平坦地帯の中心部の京阪電鉄及び東部丘陵地帯のJR学研都市線の2本の鉄軌道と、これらの各駅からのバス路線網であり、市域内の大量輸送機関として重要な地位を占めています。

また、主要道路網は、本市の西端部を流れる淀川沿いに国道1号及び国道1号に平行して府道京都守口線、さらに国道170号が高槻市から淀川を越えて国道1号と交差して大東市へと続いています。

(図一概-2)



## 第6節 都市計画区域用途地域の割合

都市には、静かな住宅地としてふさわしいところ、商業地としてにぎやかなところ、また工業地帯など、それぞれの地域に適した建築物の用途があり、もしこれらの地域の特徴を無視して、建築主の勝手きままな土地利用を認めると、無秩序な街がつけられ社会における良好な共同生活の場が保たれなくなります。

たとえば、静かな住宅地に工場が出来たりすると、騒音・振動、粉じん、ばい煙、悪臭、水質汚濁などにより住宅地としての環境を害するばかりでなく付近住民にも迷惑がかかります。

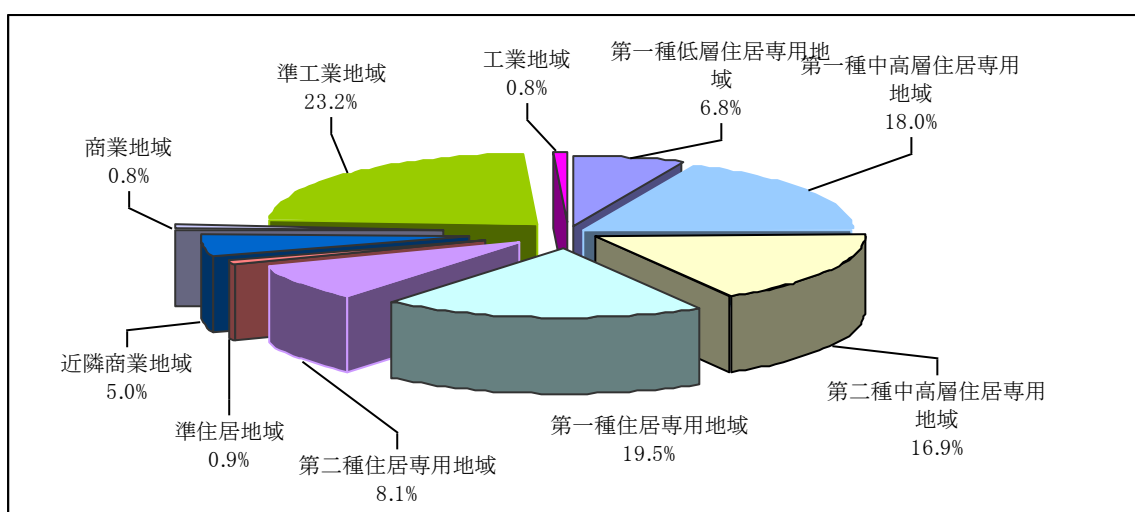
こうしたことを防ぎ、土地を有効に利用するため、それぞれの土地に応じた建築物の用途を規制することが必要となり、そのため都市計画法により用途地域を定め、建築基準法により、各用途地域に応じた具体的な建築物の用途の制限を行い、明るい、健康で活気ある都市づくりをめざしています。

寝屋川市の種別ごとの地域、面積、その他の割合については、下記に示すとおりとなっています。

(表一概－6) 都市計画区域用途地域の割合

地 域	面 積 (h a)	比 率 (%)
第一種低層住居専用地域	143	6.8
第一種中高層住居専用地域	378	18.0
第二種中高層住居専用地域	355	16.9
第一種住居専用地域	410	19.5
第二種住居専用地域	170	8.1
準住居地域	19	0.9
近隣商業地域	105	5.0
商業地域	17	0.8
準工業地域	486	23.2
工業地域	17	0.8
計	2,100	100.0
市街化調整地域	373	—
合 計	2,473	—

※上記数値は概数値です



## 第2章 環境行政の概要



### ◇寝屋古墳

寝屋川公園の北側の一角に横穴式の石室の入口が開いている寝屋古墳があります。直径22m、高さ5mの円墳で、横穴式の石室の大きさは北河内地域では最大規模のものであります。

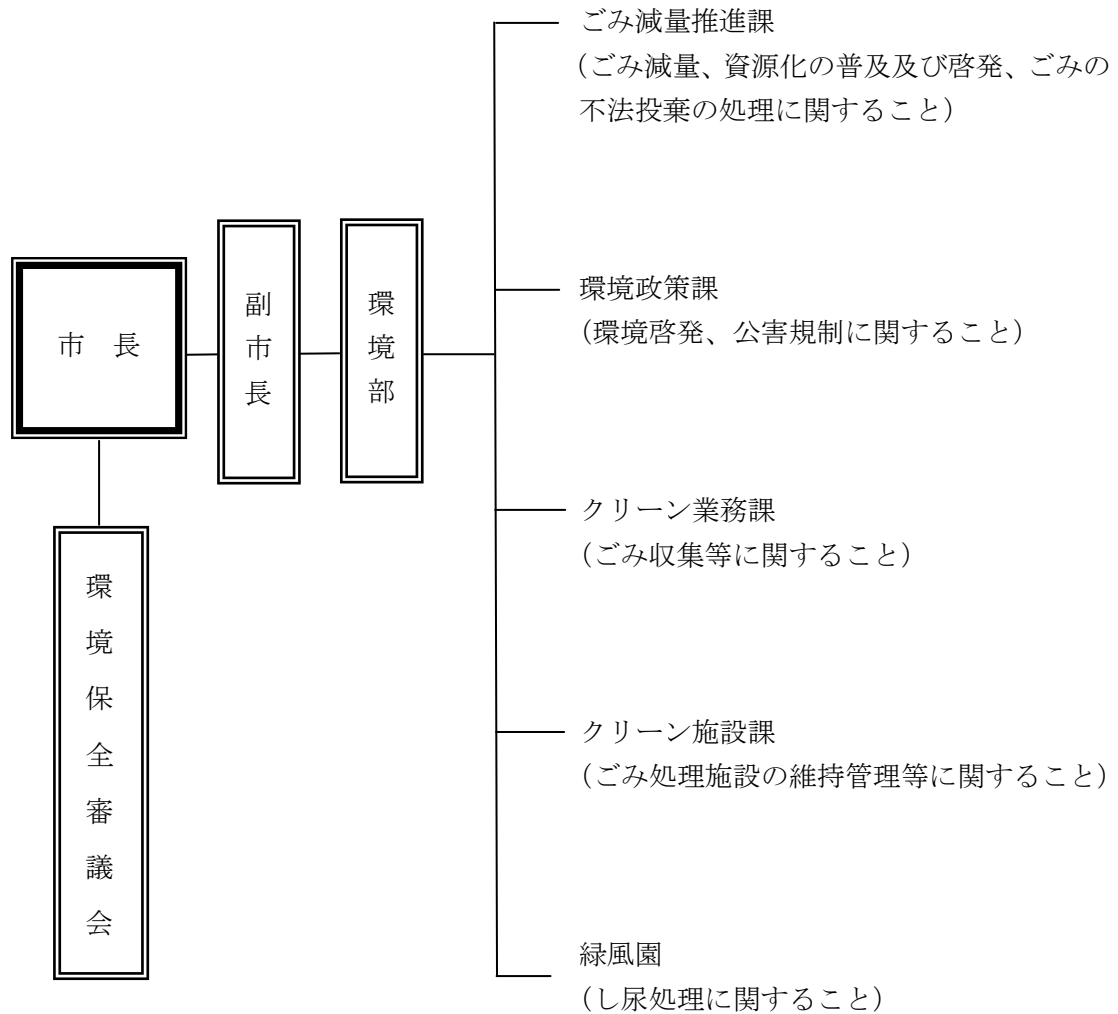
古墳時代後期に築かれたものと考えられ、大阪府の史跡に指定されています。



## 第2章 環境行政の概要

### 第1節 環境行政機構図

(平成21年4月1日現在)



## 第2節 環境行政のあゆみ

年 月	主 要 事 項
S43. 4	公害関係事務が産業課商工係所管となる
S43. 4	二酸化鉛法による硫黄酸化物濃度の測定開始（市内6地点）
4	公害対策基本法制定
S43. 5	東大阪地域地盤沈下総合対策連絡協議会結成・参加
6	大気汚染防止法・騒音規制法制定
S44. 1	第1回環境騒音測定開始（市内20地点）
4	騒音・振動関係事務が事務委任される
5	公害関係事務が産業課庶務係所管となる
5	産業課に公害対策係が発足する
S45. 3	河北7市で河北公害行政研究協議会結成・参加
4	民生部公害対策室が発足
4	市議会に公害対策特別委員会設置
4	大阪府公害防止条例制定
12	大阪府大気固定監視局設置（市役所屋上）
12	水質汚濁防止法制定
S46. 5	寝屋川市公害対策連絡協議会設置
6	機構改革により総務部公害対策課となり、対策係と調査指導係設置
S47. 4	寝屋川市公害モニター設置
5	機構改革により生活環境部公害対策課となる
5	市内河川水路の環境基準項目の測定開始（年4回）
5	悪臭防止法が施行され、事務委任される
6	寝屋川市光化学スモッグ発生時対策実施要綱制定
12	大阪地域公害防止計画（第1次）策定
S48. 7	公害観測車「あおぞら号」による観測開始
9	大阪府環境管理計画（BIG PLAN）策定
10	瀬戸内海環境保全臨時措置法制定
S49. 4	寝屋川市公害防止に関する指導要綱制定
4	寝屋川市公害防止資金融資制度実施

年 月	主 要 事 項
S49. 11	大阪府「水質汚濁負荷量削減計画」策定
S50. 1	大阪府「全固定発生源に対する窒素酸化物削減実施計画」策定
S51. 6	振動規制法制定
S52. 9	大阪府硫黄酸化物総量削減計画策定
S53. 3	大阪地域公害防止計画（第2次）策定
S55. 4	寝屋川市環境美化条例制定
4	大阪府「化学的酸素要求量に係る総量削減計画」策定
S57. 10	大阪府公害防止条例一部改正（カラオケ騒音等規制追加）
10	大阪府「大気汚染防止法に基づく窒素酸化物総量削減計画」策定
12	大阪府環境総合計画（STEP21）策定
S58. 3	大阪地域公害防止計画（第3次）策定
S59. 4	大阪府環境影響評価要綱施行
5	機構改革により市民生活部公害室となる
5	生活環境審議会が設置される
S60. 3	寝屋川市公害監視モニターを廃止し、市政モニターとして移管
S61. 6	市民生活部環境保全課となる
6	生活環境審議会が廃止され、環境保全審議会となる
6	ラブホテル建築規制条例が所管となる
10	公害観測車「あおぞら号」を廃止し固定観測局を設置する
S62. 5	大阪府「化学的酸素要求量に係る総量削減計画」策定
S63. 3	大阪地域公害防止計画（第4次）策定
4	大阪府生活排水対策推進要綱施行
H1. 1	固定型内燃機関等に係る窒素酸化物削減指導要綱策定
H2. 4	悪臭防止法施行令一部改正（新たに4物質追加）
6	大阪府ゴルフ場農薬適正使用等指導要綱制定
7	「寝屋川市の環境保全のあり方」策定
H3. 5	機構改革により公害規制係から公害対策係となる
5	カラオケボックス指導要綱が所管となる
H4. 12	「自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法」施行

年 月	主 要 事 項
H5. 3	大阪地域公害防止計画（第5次）策定
3	水質汚濁に係る環境基準健康項目追加（23項目）要監視項目の設定
6	悪臭防止法施行令の改正（有機溶剤等10物質の追加）
8	電気自動車（公害パトロール車）導入
11	「環境基本法」の公布・施行
H6. 2	土壌の汚染に係る環境基準の一部改正（環境基準15項目の追加）
3	大阪府環境基本条例制定
3	大阪府生活環境の保全等に関する条例制定
4	大阪府環境基本条例施行
11	大阪府生活環境の保全等に関する条例施行
H7. 4	悪臭防止法一部改正（悪臭指数を用いた規制基準の導入等）
4	環境庁のこどもエコ・クラブ事業へ参加
H8. 4	機構改革により環境部環境保全課となり、環境衛生係が新設され環境保全係、公害対策係の3係となる
5	水質汚濁防止法の一部改正（汚染された地下水の浄化制度、油に係る事故時の措置）
5	「大気汚染防止法」の一部改正（有害大気汚染物質の推進）
H9. 6	「環境影響評価法」制定
8	大気汚染防止法施行令の一部改正（指定物質「ダイオキシン類」の追加）
H10. 4	「大阪府環境影響評価条例」制定
6	水環境保全に向けた取組のため、要調査項目（300物質）を設定
9	騒音に係る環境基準の評価方法が騒音レベル中央値から等価騒音レベルに変更（H11. 4より施行）
10	「地球温暖化対策推進に関する法律」制定
12	水質汚濁防止法施行令の一部改正により寝屋川市が水質事務委任市となる（H11. 4より施行）
H11. 2	水質汚濁に係る環境基準傾向項目追加（要監視項目から3項目格上）
7	「騒音規制法」の一部改正
7	「ダイオキシン類対策特別措置法」制定（H12. 1より施行）
H12. 3	「水質汚濁防止法」の一部改正（ジクロロメタン洗浄施設及び蒸留施設をそれぞれ特定施設に追加）



年 月	主 要 事 項
H12. 4	機構改革により環境部環境政策課となる
4	自動車騒音の要請限度等価騒音レベルによる評価手法に改正
5	「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」公布
H12. 5	「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」公布
6	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」一部改正
6	「産業廃棄物の処理に係る特定施設の整備の促進に関する法律」一部改正
6	「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」公布
6	「資源の有効な利用の促進に関する法律」公布
H13. 2	寝屋川市役所温暖化防止実行計画策定
3	「土壌の汚染に係る環境基準」一部改正（ふっ素及びほう素が追加）
4	特例市に移行するのに伴い、騒音規正法、振動規正法及び悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の策定
6	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」公布
H14. 2	寝屋川市環境基本計画の策定
6	「寝屋川市下水道条例」の一部改正（ふっ素、ほう素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の追加）
H15. 2	「土壌汚染対策法」の施行
2	寝屋川市グリーン調達方針策定
H16. 1	「大阪府生活環境の保全に関する条例」（土壌汚染対策に関する規制等）全面施行
H17. 2	京都議定書発効
3	本庁舎においてISO14001を認証取得
10	「大阪府生活環境の保全に関する条例」（アスベストに関する規制等）の改正（H18. 1より施行）
12	「大気汚染防止法施行令」および「大気汚染防止法施行規則」の改正（H18. 3より施行）
H18. 2	「石綿による健康等に係る被害の防止のための大気汚染防止法の一部を改正する法律」の制定（H18. 10より施行） （大気汚染防止法：工作物の解体等作業の飛散防止対策）
7	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」の改正（H18. 10より施行） （石綿含有率0.1%超の廃棄物（廃石綿等を除く）を「石綿含有廃棄物」と定義）
8	「労働安全衛生法施行令及び石綿障害予防規則」の改正（H18. 9より施行） （アスベストの製造禁止等：対象を石綿含有率0.1%超に拡大） （作業者のばく露防止措置の充実、封じ込め、囲い込み作業に係る措置）

年 月	主 要 事 項
9	「大阪府生活環境の保全等に関する条例」の改正（H18.10より施行） （規制対象の拡大：石綿含有率0.1%超に拡大）
H19. 3	「大阪府生活環境の保全等に関する条例」の改正（H20. 4より施行） （揮発性有機化合物対策：ガソリンスタンドにおけるペーパーリターン設備の使用等） （化学物質の適正な管理）
10	「大阪府生活環境の保全等に関する条例」の改正（H21. 1より施行） （流入車の規制：車種規制適合車や適合車等標章の表示等）
H20. 2	北河内4市リサイクルプラザ「かざぐるま」稼働開始

### 第3節 公害測定機器一覧

	品名	型式
騒音・振動関係	普通騒音計	リオン NA-20
	積分型普通騒音計	リオン NL-21
	騒音・振動レベル処理器	リオン SV-73
	騒音・振動レベル処理器	リオン SV-76
	1/3-オクターブ分析器	リオン SA-27
	レベルレコーダ	リオン LR-20
	データレコーダ	SONY PC-204
	振動レベル計	リオン VN-52
大気関係	SO <sub>2</sub> 自動測定装置	DKK-GRH-72M
	NO <sub>x</sub> 自動測定装置	DKK-GLN-154
	CO自動測定装置	CA-650
	O <sub>x</sub> 自動測定装置	DKK-GUX-153
	大気汚染データ処理装置	データログ
	SPM自動測定装置	SPM-613
	気象計	日本エレクトリック・インスルメント
	自動車排ガス測定器	堀場 MEXA-554J
水質関係	分光光度計	日立 U-2010
	自動採水器	ISCO 6700型
	pH測定器	堀場製作所
	オートクレーブ	サンヨー MLS-3020
	遠心分離器	KUBOTA 5200
	インキュベーター	サンヨー MIR552
	低温恒温水槽	トーマス科学 T-23Z
	オートスチル	ヤマト WG221型



## 第3章 大気汚染・悪臭



### ◇高宮廃寺跡

高宮廃寺跡は、7世紀後半の白鳳時代に創建された北河内屈指の古代寺院で、東塔の基壇、塔心礎をはじめ、金堂の基壇、中門、回廊などの伽藍跡が調査で確認されています。

なかでも東塔の中心礎石は、直径40cm、深さ10cmの円形ホゾ穴が掘られ、壮大な塔を忍ばせます。金堂の前面東西に配置したと推定される伽藍形式は、曲型的な薬師寺様式として知られています。昭和55年5月13日に国の「史跡」に指定されています。



### 第3章 大気汚染・悪臭

#### 第1節 大気汚染に係る環境基準

大気汚染に係る環境基準は、環境基本法（平成5年法律第91号）第16条第1項の規定に基づき、大気の汚染に係る環境上の条件について「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として、主要な大気汚染物質である二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、二酸化窒素及び光化学オキシダント（昭和48年5月8日環境庁告示第25号、昭和53年7月11日環境庁告示第38号）、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼン（平成9年2月4日環境庁告示第4号）ジクロロメタン（平成13年4月20日環境省告示第30号）について、（表一六―1）のとおり環境基準が定められました。

また、ダイオキシン類についてもダイオキシン類対策特別措置法（平成12年1月15日施行）により環境基準値が定められました。

（表一六―1）大気汚染に係る環境基準

物 質	環 境 上 の 条 件
二酸化硫黄（SO <sub>2</sub> ）	1時間値の1日平均値 0.04 ppm 以下であり、かつ1時間値が 0.1 ppm 以下であること。
二酸化窒素（NO <sub>2</sub> ）	1時間値の1日平均値 0.04 ppm から 0.06 ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。
浮遊粒子状物質（SPM）	1時間値の1日平均値 0.10 mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ1時間値が 0.20 mg/m <sup>3</sup> であること。
一酸化炭素（CO）	1時間値の平均値 10 ppm 以下でありかつ1時間値の8時間平均値が 20 ppm 以下であること。
光化学オキシダント（O <sub>x</sub> ）	1時間値が 0.06 ppm 以下であること。
テトラクロロエチレン	1年平均値が 0.2 mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
トリクロロエチレン	1年平均値が 0.2 mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
ベンゼン	1年平均値が 0.003 mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
ジクロロメタン	1年平均値が 0.15 mg/m <sup>3</sup> 以下であること。
ダイオキシン類	1年平均値が 0.6 pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下であること。

#### 評価方法

##### ① 短期的評価

測定を行った日についての1日平均値、8時間平均値又は各1時間値を環境基準と比較して評価を行う。1日平均値の評価に当たっては、1時間値の欠測が24時間のうち4時間を越える場合は評価対象としない。

##### ② 長期的評価

- ・二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子物質の場合

年間の1日平均値のうち、高い方から2%の範囲内にあるものを除外して評価する。但し1日平均値について環境基準を超える日が2日以上連続した場合には、このような扱いはしない。

- ・ 二酸化窒素の場合

年間の1日平均値のうち、低い方から98%に相当する値を環境基準と比較して評価する。

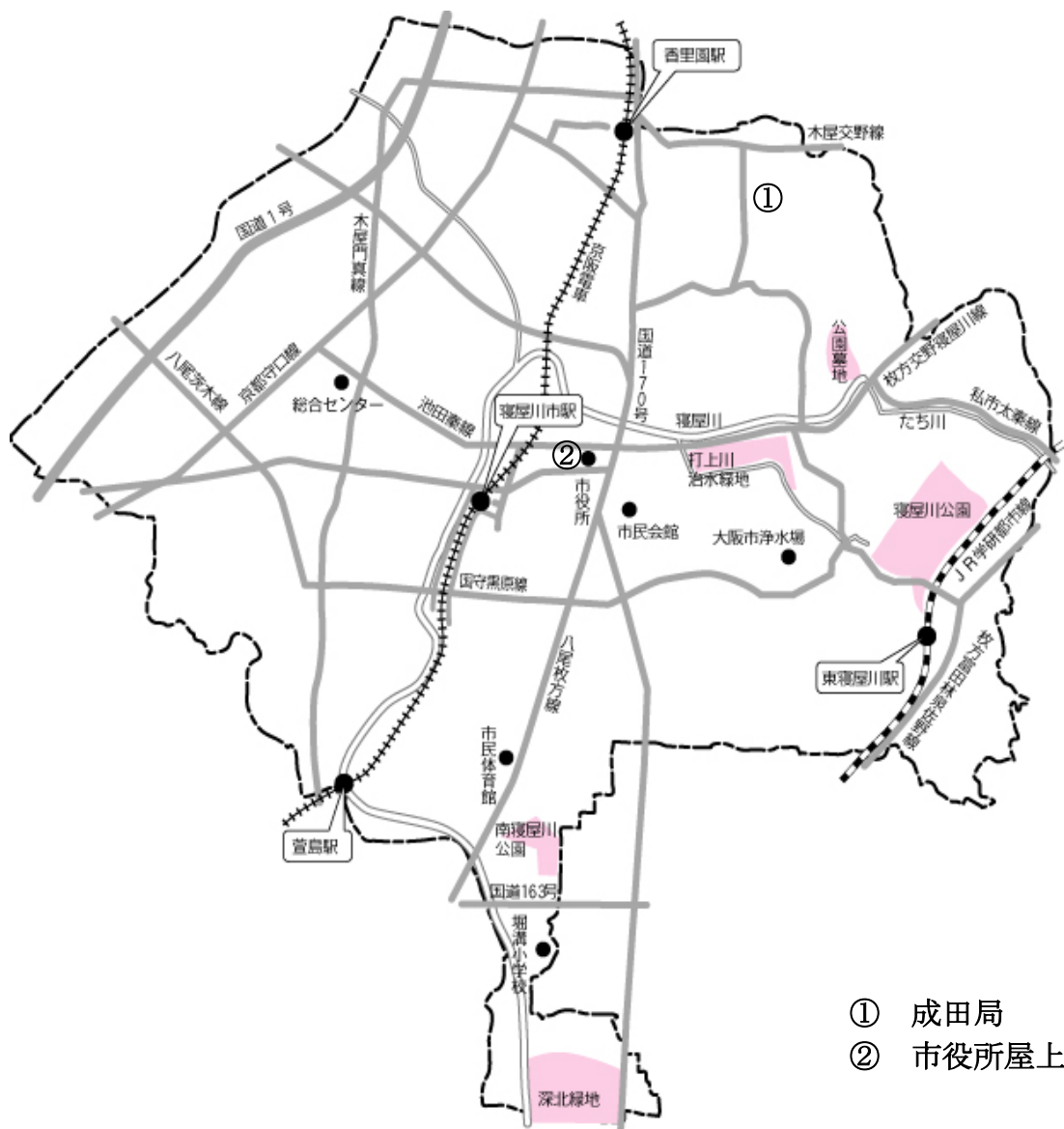
## 第2節 大気汚染の現状

### 1. 大気汚染の概要

市域における大気汚染の測定は、市役所屋上及び中央高齢者福祉センター内の固定局（成田町）において実施しています。測定地点は（図一大-1）のとおりです。

固定局における大気汚染の現状を汚染物質の経年変化でみると（表一大-2、3）のとおり、各項目とも概ね横ばい傾向にあります。

（図一大-1）

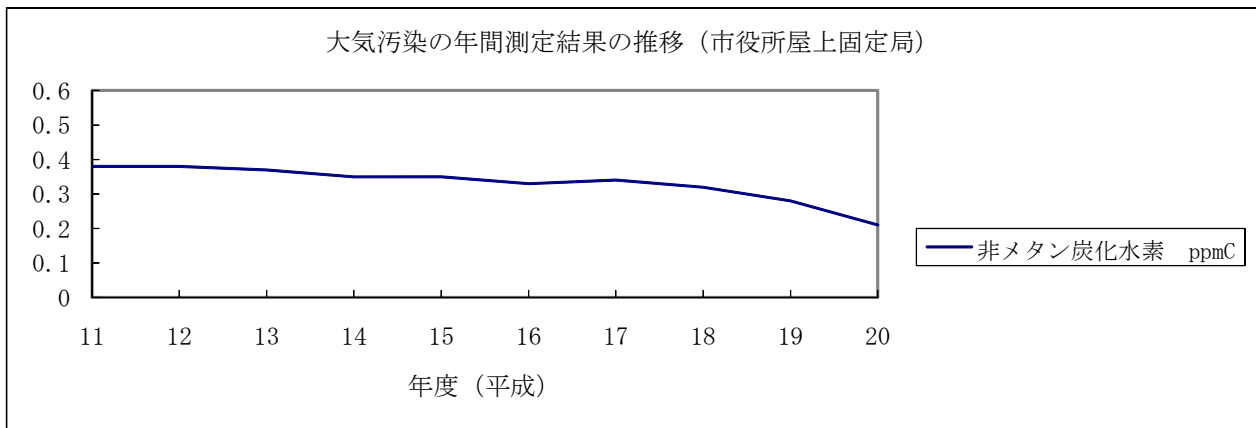
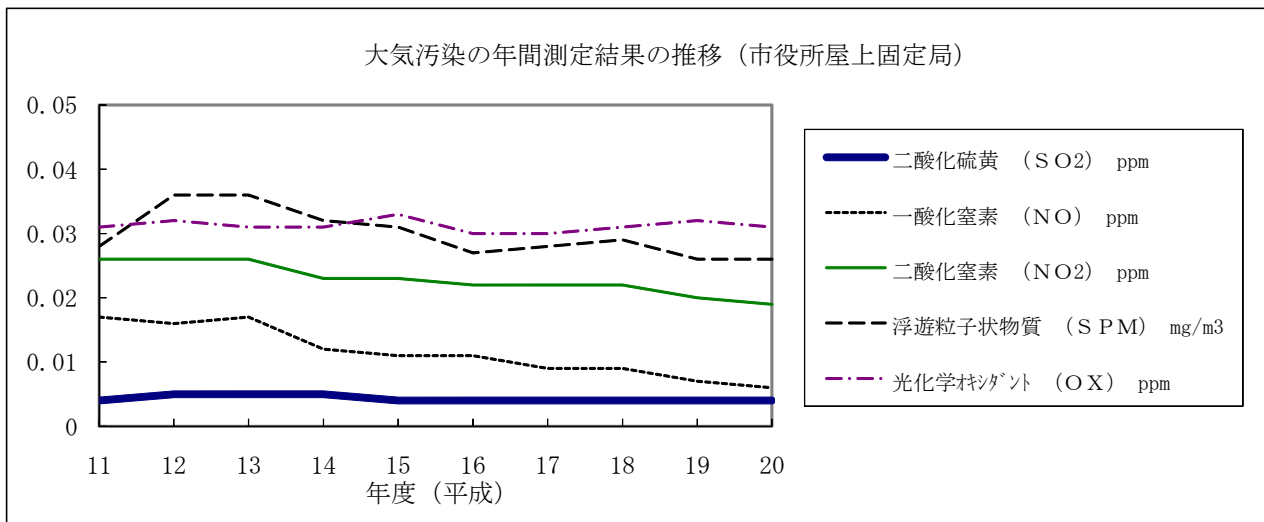




大気汚染の測定状況（市役所屋上固定局）

（表一―大―2）大気汚染の年間測定結果と推移

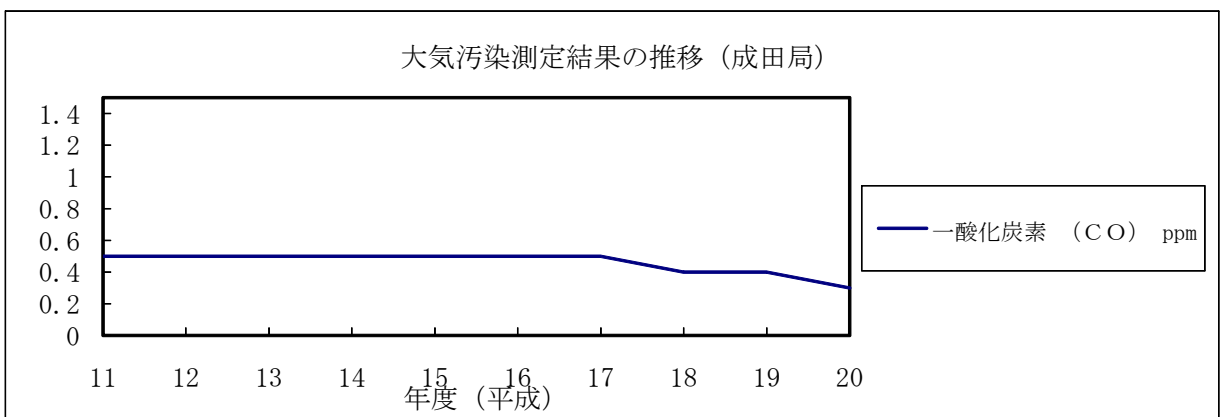
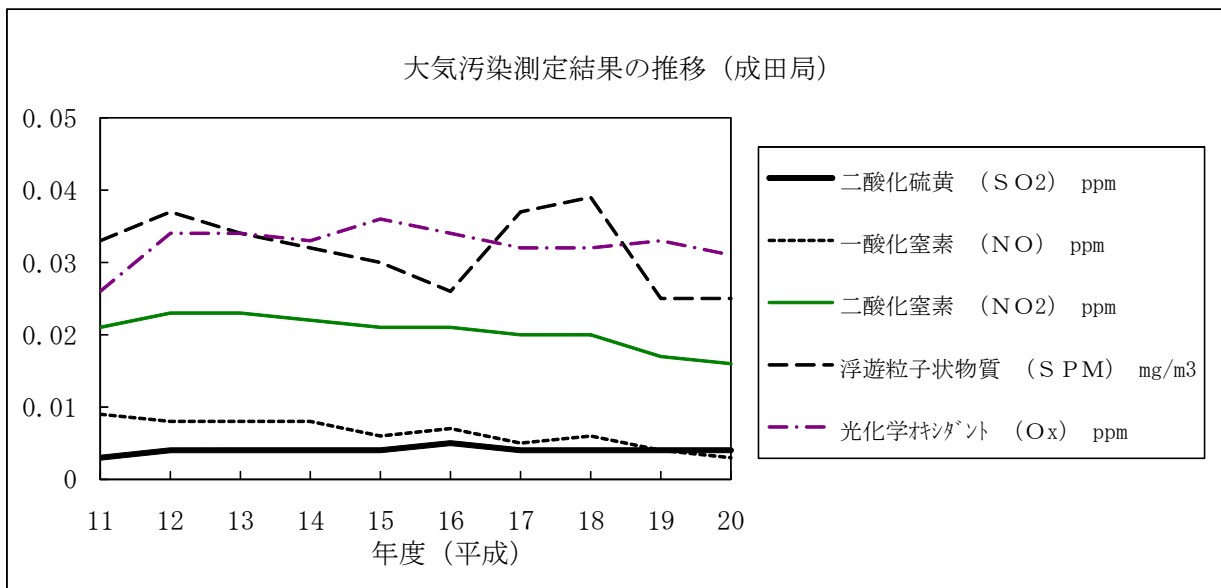
年度	二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> ) ppm	一酸化窒素 (NO) ppm	二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> ) ppm	日平均値の 年間98%値	浮遊粒子状物質 (SPM) mg/m <sup>3</sup>	非メタン炭化水素 (午前6時から午前9時) ppmC	光化学オキシダント (O <sub>x</sub> ) ppm
11	0.004	0.017	0.026	0.051	0.028	0.38	0.031
12	0.005	0.016	0.026	0.050	0.036	0.38	0.032
13	0.005	0.017	0.026	0.050	0.036	0.37	0.031
14	0.005	0.012	0.023	0.046	0.032	0.35	0.031
15	0.004	0.011	0.023	0.043	0.031	0.35	0.033
16	0.004	0.011	0.022	0.042	0.027	0.33	0.030
17	0.004	0.009	0.022	0.040	0.028	0.34	0.030
18	0.004	0.009	0.022	0.041	0.029	0.32	0.031
19	0.004	0.007	0.020	0.037	0.026	0.28	0.032
20	0.004	0.006	0.019	0.037	0.026	0.21	0.031



大気汚染の測定状況（成田局）

（表一 大-3）大気汚染の測定結果と推移

年度	二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	一酸化窒素 (NO)	二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	日平均値の 年間98%値	浮遊粒子状物質 (SPM)	一酸化炭素 (CO)	光化学オキシダント (O <sub>x</sub> )
	ppm	ppm	ppm				
11	0.003	0.009	0.021	0.045	0.033	0.50	0.026
12	0.004	0.008	0.023	0.046	0.037	0.50	0.034
13	0.004	0.008	0.023	0.048	0.034	0.50	0.034
14	0.004	0.008	0.022	0.049	0.032	0.50	0.033
15	0.004	0.006	0.021	0.043	0.030	0.50	0.036
16	0.005	0.007	0.021	0.042	0.026	0.50	0.034
17	0.004	0.005	0.020	0.039	0.037	0.50	0.032
18	0.004	0.006	0.020	0.042	0.039	0.40	0.032
19	0.004	0.004	0.017	0.036	0.025	0.40	0.033
20	0.004	0.003	0.016	0.034	0.025	0.30	0.031



## 2. 硫黄酸化物 (SO<sub>x</sub>)

### ◇二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)

硫黄酸化物 (SO<sub>x</sub>) は、主として石油中の硫黄分が燃焼することによって大気中に排出され、主なものとしては二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>) や無水硫酸 (SO<sub>3</sub>) 等がありますが、大気汚染で問題となるものの大部分は二酸化硫黄です。

平成 20 年度の二酸化硫黄の測定結果は、2 局とも環境基準「1 時間値の 1 日平均値 0.04 ppm 以下」を達成しました。

過去 10 年間の濃度の推移は、おおむね横ばいの傾向にあります。

## 3. 窒素酸化物 (NO<sub>x</sub>)

一般に一酸化窒素と二酸化窒素を総称して窒素酸化物 (NO<sub>x</sub>) といい、窒素酸化物に係る環境基準は二酸化窒素について定められています。

その主な発生源は、工場・事業場のボイラー等の固定発生源と自動車等の移動発生源であり、人の健康に影響を与えるだけでなく光化学スモッグの原因物質のひとつであることから、大気汚染防止対策の重要な課題となっています。

### ◇二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

平成 20 年度の二酸化窒素の測定結果は、長期的評価「日平均値の年間 98% 値」において、2 局とも環境基準「0.04 ppm から 0.06 ppm までのゾーン内又はそれ以下」を達成しました。過去 10 年間の濃度の推移も横ばいの傾向にあります。

### ◇一酸化窒素 (NO)

一酸化窒素については、環境基準が定められていません。

過去 10 年間の濃度の推移は、やや減少傾向にあります。

## 4. 浮遊粒子状物質 (SPM)

浮遊粒子状物質 (SPM) とは、大気中に浮遊する粒径 10 マイクロメートル以下の粒子状物質をいいます。

これらの微粒子は、気道から肺に侵入・沈着し、呼吸器に悪影響を与えることが知られており、環境基準が定められています。

平成 20 年度の浮遊粒子状物質の測定結果は、2 局とも環境基準を達成しました。

## 5. 一酸化炭素 (CO)

一酸化炭素 (CO) は、物質の不完全燃焼に伴って発生する無色、無臭の気体で、その主な発生源は自動車の排気ガスです。

平成 20 年度一酸化炭素の測定結果は、環境基準「10 ppm」以下を達成しました。過去 10 年間の濃度の推移は、おおむね横ばいの傾向にあります。

## 6. 非メタン炭化水素

炭化水素類には環境基準は設定されていませんが、炭化水素中の非メタン炭化水素は光化学オキシダントの発生と関係があります。

人為的な発生源は印刷や塗装などの溶剤の使用や貯蔵施設、自動車などがあります。

## 7. 有害大気汚染物質

近年、発ガン性等の有害性が問題とされる物質が大気中から検出されており、その長期暴露による健康評価が懸念されています。そのような健康影響を未然に防止するため有害大気汚染物質が求められるようになり、有害大気汚染物質に該当する可能性のある234物質、アクリロニトリルをはじめとする優先的に取組むべき22物質（優先取組物質）、トリクロロエチレンをはじめとする早急に取組むべき3物質（指定物質）が定められました。

平成20年度には、モニタリングを実施している有害大気汚染物質（19物質）のうち、環境保全目標が設定されているベンゼンは府域全34地点（道路沿道13地点、一般環境17地点、固定発生源周辺4地点）で、トリクロロエチレン・テトラクロロエチレン・ジクロロメタンに関しては、府域全26地点で環境保全目標を達成しました。

（平成21年度版大阪府環境白書抜粋）

優先取組物質リスト（22物質）

1	アクリロニトリル	12	テトラクロロエチレン
2	アセトアルデヒド	13	トリクロロエチレン
3	塩化ビニルモノマー	14	ニッケル化合物
4	クロロホルム	15	ヒ素及びその化合物
5	クロロメチルメチルエーテル	16	1,3-ブタジエン
6	酸化エチレン	17	ベリリウム及びその化合物
7	1,2-ジクロロエタン	18	ベンゼン
8	ジクロロメタン	19	ベンゾ[a]ピレン
9	水銀及びその化合物	20	ホルムアルデヒド
10	タルク（アスベスト様繊維含）	21	マンガン及びその化合物
11	ダイオキシシン類	22	六価クロム化合物

### 第3節 自動車排出ガス対策

#### 1. 低公害車の公用車導入

寝屋川市では、平成20年3月31日時点で、82台の低公害車を所有しております（水道局所有分を含む）。内訳は、天然ガス自動車3台、超小型電気自動車1台、ハイブリッド車5台、平成17年基準の低排出ガス車43台、平成13年基準の低排出ガス車2台、平成12年基準の低排出ガス車28台です。

#### 2. アイドリング・ストップ

アイドリングは大気汚染や騒音の発生だけでなく、地球温暖化の原因でもあります。平成10年7月1日から「大阪府生活環境の保全等に関する条例」により、駐車時におけるアイドリングは禁止されています。

- ①ドライバーは駐車時にはアイドリングを停止してください。
- ②事業者は、従業員に対してアイドリングを停止するよう指導してください。
- ③駐車場管理者は、利用者に対して、アイドリングの停止の指導に努めてください。

#### 第4節 光化学スモッグ

光化学オキシダント（ $O_x$ ）は、光化学反応により生成されるため、その濃度は日射量、気温、風速等の気象条件の影響を強く受け、特に夏季の昼間に高濃度になりやすくなります。光化学オキシダントに係る環境基準は、1時間値について評価を行うものとされています。平成20年度の光化学オキシダントの測定結果では、環境基準「1時間値が0.06ppm以下」を達成していません。

##### ○光化学スモッグ発令状況

光化学スモッグは、工場や自動車から排出された窒素酸化物や炭化水素等が太陽光線中の紫外線により光化学反応をおこし、その結果生じる光化学オキシダントが原因で発生するといわれており、特に夏の日差しが強く、気温が高い風の弱い日の日中に発生しやすくなります。

寝屋川市では、大阪府より光化学スモッグ予報等の発令通知を受けた場合は、寝屋川市防災行政無線により一斉通報を行います。

光化学スモッグの予報等発令は、オキシダント濃度測定点（図一大一1）の濃度測定値により発令基準（表一大一4）に基づいて、大阪府域を7つの地域（表一大一5）に分けて発令されます。

寝屋川市は、東大阪地域（3の地域）に属するため、当該地域10ヶ所の基準観測定点の内、1測定点のオキシダント濃度が基準に達した時点で発令されます。

平成20年度の発令回数は、大阪府域については、予報発令8回（東大阪地域4回）注意報発令7回（東大阪地域1回）でした（表一大一6）。

（表一大一4）オキシダント緊急時発令基準

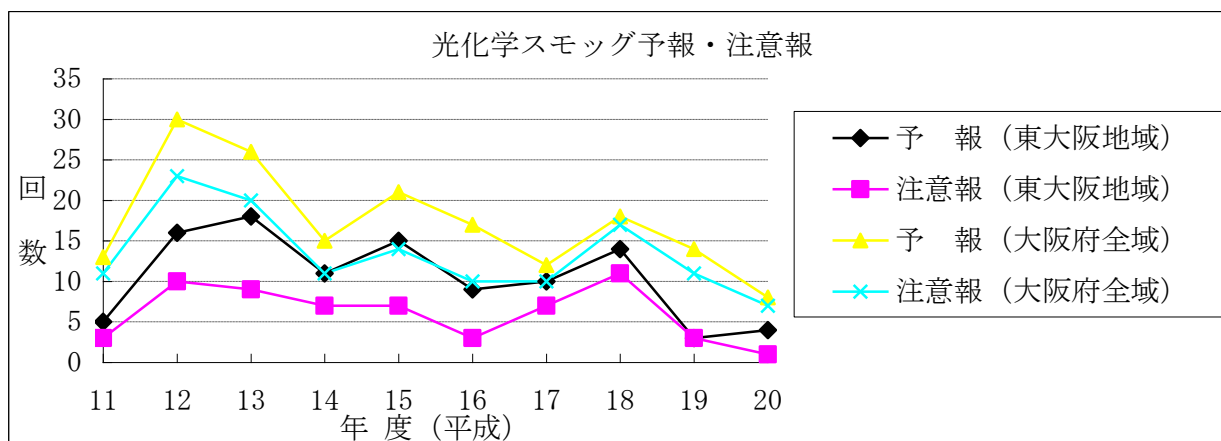
区分	発令基準	解除等の基準
予報	当該地域の測定点のうち、1点以上のオキシダント濃度が0.08 ppm以上である大気汚染の状態になった場合で、かつ気象条件からみて注意報の発令に至ると認めるとき。	大気汚染の状態が回復したとき、又は気象条件からみて当該大気汚染の状態が回復すると認めるとき。
注意報	当該地域の測定点のうち、1点以上のオキシダント濃度が0.12 ppm以上である大気汚染の状態になった場合で、かつ気象条件からみて当該大気汚染の状態が継続すると認めるとき。	大気汚染の状態が回復したとき、又は気象条件からみて当該大気汚染の状態が回復すると認めるとき、なお、この解除は予報の解除を含むものとする。
警報	当該地域の測定点のうち、1点以上のオキシダント濃度が0.24 ppm以上である大気汚染の状態になった場合で、かつ気象条件からみて当該大気汚染の状態が継続すると認められるとき。	大気汚染の状態が回復したとき、又は気象条件からみて当該大気汚染の状態が回復すると認めるとき。
重大緊急警報	当該地域の測定点のうち、1点以上のオキシダント濃度が0.40 ppm以上である大気汚染状態になった場合で、かつ気象条件からみて当該大気汚染の状態が継続すると認めるとき。	大気汚染の状態が回復したとき、又は気象条件からみて当該大気汚染の状態が回復すると認めるとき。

(表一六-5) オキシダント緊急時等発令地域区分

地域の区分		市 区 町 村
略 称		
1の地域	大阪市中心部の地域	大阪市北区,都島区,福島区,此花区,中央区,西区,港区,大正区,天王寺区,浪速区,東成区,生野区,阿倍野区及び西成区
2の地域	大阪市北部及びその周辺地域	大阪市西淀川区,淀川区及び東淀川区並びに豊中市,吹田市及び摂津市
3の地域	東大阪地域	大阪市旭区,城東区及び鶴見区並びに守口市,八尾市,寝屋川市,大東市,柏原市,門真市,東大阪市,四条畷市及び交野市
4の地域	堺市及びその周辺地域	大阪市住之江区,住吉区,東住吉区,及び平野区並びに堺市,泉大津市,松原市,和泉市,羽曳野市,高石市,藤井寺市及び忠岡町
5の地域	北大阪地域	池田市,高槻市,枚方市,茨木市,箕面市,島本町,豊能町及び能勢町
6の地域	南河内地域	富田林市,河内長野市,大阪狭山市,太子町,河南町,美原町及び千早赤阪村
7の地域	泉南地域	岸和田市,貝塚市,泉佐野市,泉南市,阪南市,熊取町,田尻町及び岬町

(表一六-6) 年度別光化学スモッグ予報・注意報経年変化

年 度	寝屋川市 (東大阪地域)		大阪府全域	
	予 報	注意報	予 報	注意報
11	5	3	13	11
12	16	10	30	23
13	18	9	26	20
14	11	7	15	11
15	15	7	21	14
16	9	3	17	10
17	10	7	12	10
18	14	11	18	17
19	3	3	14	11
20	4	1	8	7



## 第5節 酸性雨

酸性雨を表す指標にpH（水素イオン濃度）が使われます。中性はpH7で、pHが7より小さいと酸性、大きいとアルカリ性です。雨のpHは、二酸化炭素以外の酸性物質の影響を受けない場合、大気中の二酸化炭素で飽和され、およそpH5.6となりますので、通常pH5.6以下の雨を酸性雨といいます。

酸性雨の原因物質は、主として石油、石炭の化石燃料の焼却により、大気中に放出された二酸化硫黄や窒素酸化物等と考えられています。これらは、大気中や雨水中で酸化され硫酸や硝酸となり、雨のpHを低下させることとなります。

大阪府では、府内市町村と共同して「大阪府酸性雨調査連絡会（APSN）」を結成し、共同調査を開始しています。平成20年度は、前年に引き続き秋期（平成20年9月27日～10月27日まで）の調査を実施し、その結果は（表一六―7）のとおりです。なお平成20年度の梅雨期は、実施していません。

（表一六―7）

年 度	梅 雨 期	降 水 量 (mm)	p H
15	6/2～6/16	22.6 (42.0)	4.57 (4.90)
	6/16～6/30	131.5 (127.5)	4.78 (4.86)
16	5/31～6/14	68.5 (77.1)	4.67 (4.75)
	6/14～6/28	76.4 (74.9)	5.33 (5.39)
17	5/30～6/13	21.8 (26.5)	6.40 (5.75)
	6/13～6/27	27.1 (28.5)	5.15 (5.30)
18	5/29～7/3	158.0 (200.8)	5.05 (5.08)
19	5/28～7/2	129.9 (154.7)	4.70 (4.80)
20	実施していません		

年 度	秋 期	降 水 量 (mm)	p H
15	9/29～10/20	33.4 (52.7)	6.01 (5.99)
	10/20～11/4	43.6 (58.5)	4.58 (5.04)
16	9/27～10/18	133.4 (159.3)	5.69 (5.21)
	10/18～11/1	174.5 (217.0)	5.06 (5.22)
17	10/3～10/17	145.2 (122.1)	4.71 (4.76)
	10/17～10/31	37.4 (49.1)	5.19 (5.12)
18	10/2～10/30	57.0 (65.9)	5.48 (5.30)
19	10/1～10/29	121.7 (99.5)	4.65 (4.94)
20	9/29～10/27	77.2 (95.9)	4.56 (4.90)

（ ）の値は、大阪府酸性雨調査連絡会における府内の調査参加市町村の加重平均値です。平成18年度より1ヶ月間連続採取による調査結果です

## 第6節 大気汚染防止対策

### 1. 法律・条例に基づく規制

#### (1) 規制の概要

##### ① 大気汚染防止法による規制

大気汚染防止法は、工場及び事業場における事業活動に伴って発生するばい煙の排出等を規制し、有害大気汚染物質対策の実施を推進し、並びに自動車排出ガスに係る許容限度を定めること等により、国民の健康を保護するとともに生活環境の保全を図ることを目的としています。

同法は、硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん及び有害物質を発生するボイラー等のばい煙発生施設、粉じんを発生するベルトコンベア等の一般粉じん発生施設及び石綿を排出する紡績用機械等の特定粉じん発生施設を規制対象としています。

このうち、ばい煙発生施設については、施設ごとの排出基準をさらに一定規模以上の工場・事業場から排出される硫黄酸化物及び窒素酸化物については、総量規制基準を定めています。

また、一般粉じん発生施設については、構造・使用管理に関する基準、特定粉じん発生施設を設置する工場等には、敷地境界線における石綿濃度の許容限度を定めています。

最近、発ガン性等の有害性が問題とされる物質が大気中から検出されており、その長期暴露による健康影響が懸念されています。

そのような健康影響を未然に防止するための有害大気汚染物質対策が求められるようになり、平成8年5月には有害大気汚染物質対策の実施を推進するため、大気汚染防止法が改正されました。

有害大気汚染物質に該当する可能性のある234物質、優先的に取り組むべき22物質及びトリクロロエチレンをはじめとし、早急に抑制すべき3物質（指定物質）が定められました。

また、平成9年8月の大気汚染防止法施行令改正により、ダイオキシン類が指定物質に追加指定されました。そして、平成12年1月にダイオキシン類対策特別措置法が施行されました。

アスベストの規制については、平成17年より規制が強化されました。大気汚染防止法施行令および施行規則の改正が平成18年3月に施行され、特定建築材料の追加、作業基準の強化等が定められました。

現在、大気汚染防止法と、大阪府の条例の両方でアスベストを規制しています。

大気汚染の状況がまだまだ深刻な浮遊粒子状物質及び光化学オキシダントの原因には様々なものがありますが、揮発性有機化合物（VOC）もその1つで排出規制が平成18年4月1日より開始されました。

VOCの排出を抑制するため自動車からの炭化水素の排出規制に加え、工場・事業場に設置されVOCの排出量が多く特に規制が必要な「VOC排出施設」も定められました。



② 大阪府生活環境の保全等に関する条例による規制

平成6年3月に制定された「大阪府生活環境の保全等に関する条例」では、大気汚染防止法に基づく規制に加え、ばい煙（ばいじん、有害物質、炭化水素）及び粉じん（一般粉じん、特定粉じん）を規制物質と定め、それらを排出する施設に対し、排出基準、設備、構造、使用、管理基準、原料使用基準を定めています。

光化学スモッグ発生の原因物質のひとつである炭化水素類の排出を抑制するため、給油施設、ドライクリーニング、塗装施設、印刷施設等の施設に対しては、設備基準、原料使用基準を定めています。特に大規模塗装工場に対する炭化水素類の排出に関しては施設ごとの基準に換えて、工場全体の許容排出量を定めています。

アスベストに関しては、大阪府生活環境の保全等に関する条例の改正が平成18年1月に施行され、届出対象の拡大、事前調査の義務付け、作業実施基準の強化が定められました。

③ その他

窒素酸化物については、大気汚染防止法による総量規制に加えて「固定発生源窒素酸化物総量削減指導要綱」に基づき、燃料の良質化等排出量削減の指導を行っています。また、「大阪府低NO<sub>x</sub>機器普及促進方針」に基づき、工場・事業場に対し低NO<sub>x</sub>機器の導入による窒素酸化物排出量削減の指導を行っています。

(2) 施設の届出の現状

平成20年度における大気汚染防止法、ダイオキシン法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく届出状況は（表一六-8）のとおりです。

炭化水素類の規制に伴い、燃料小売業、洗濯業等一定規模以上の施設を有する事業場が新たに規制対象となりました。

（表一六-8）平成20年度工場・事業場に係る届出経由件数

①大気汚染防止法

届出種類	区分	ばい煙	粉じん		VOC	合計
			一般	特定		
設置		4				4
使用						0
構造等変更						0
氏名等変更						3
使用廃止		3				3
承継		2				2
排出等作業実施						0
合計		9	0	0	0	12

②ダイオキシン法

届出種類	区分	大気基準適用施設
設置		0
使用		0
構造等変更		0
氏名等変更		0
使用廃止		1
承継		0
合計		1

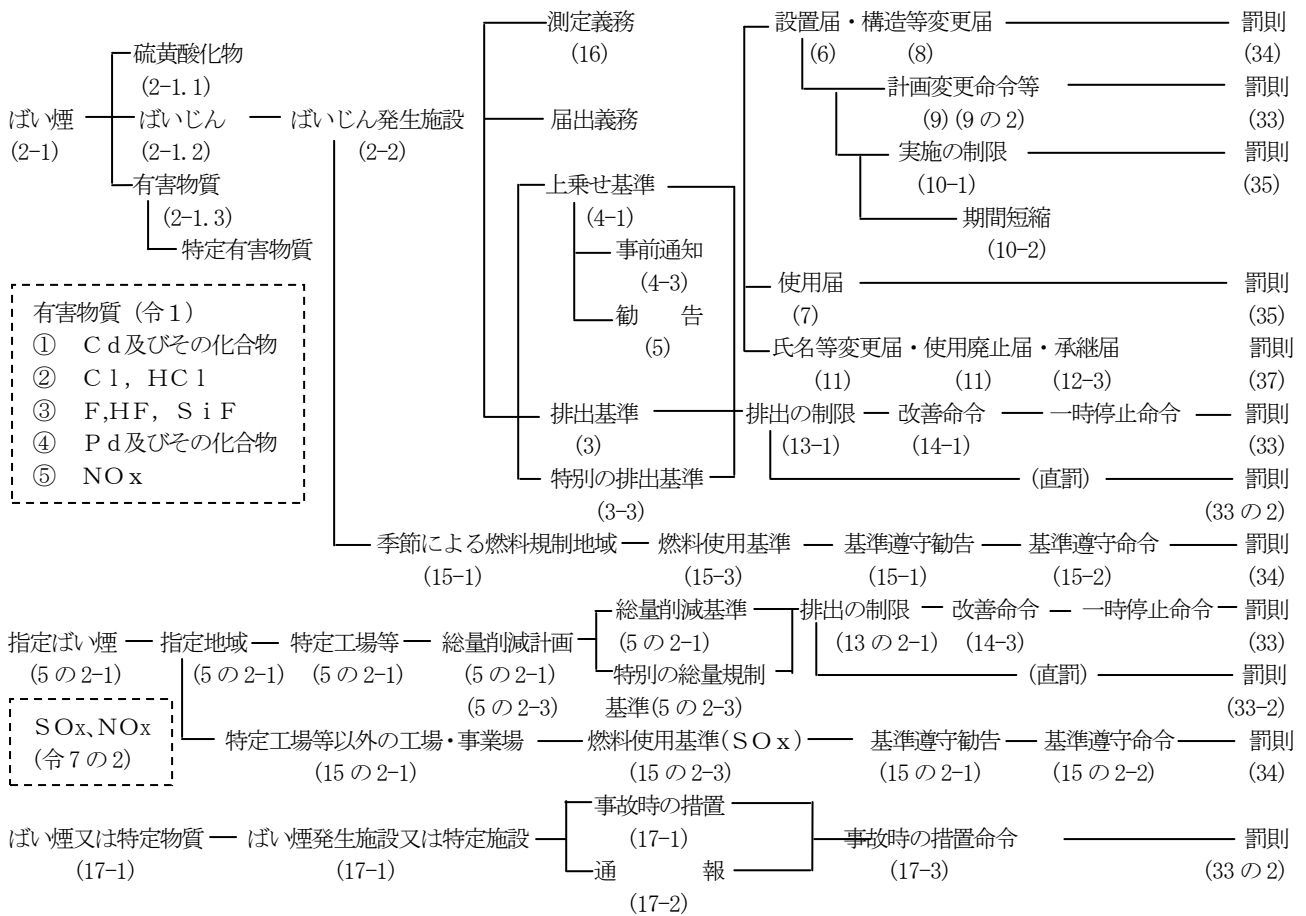
③大阪府生活環境の保全等に関する条例

届出種類	区分	ばい煙			粉じん		合計
		ばいじん 届出施設	有害物質 届出施設	揮発性有機化合物 届出施設	揮発性有機化合物 届出工場等	一般 届出施設	
設置				1		3	4
使用							0
構造等変更				1			1
氏名等変更							0
使用廃止			1	2		1	4
承継		1		1		2	4
排出等作業実施							0
合計		1	1	5		6	13

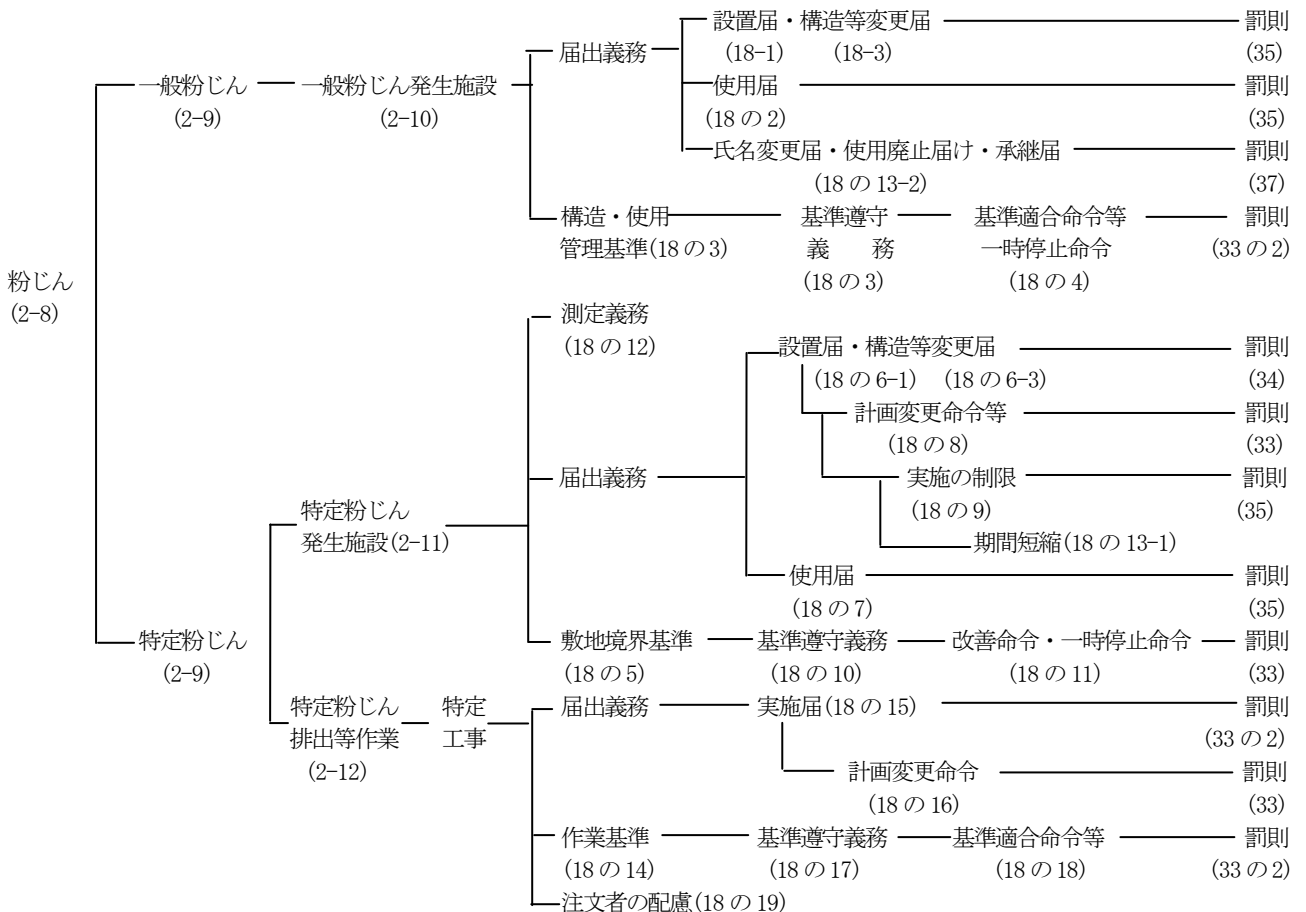
\*複数の区分に係る届出があるため届出合計件数が一致しない場合があります。

# 大気汚染防止法の体系図

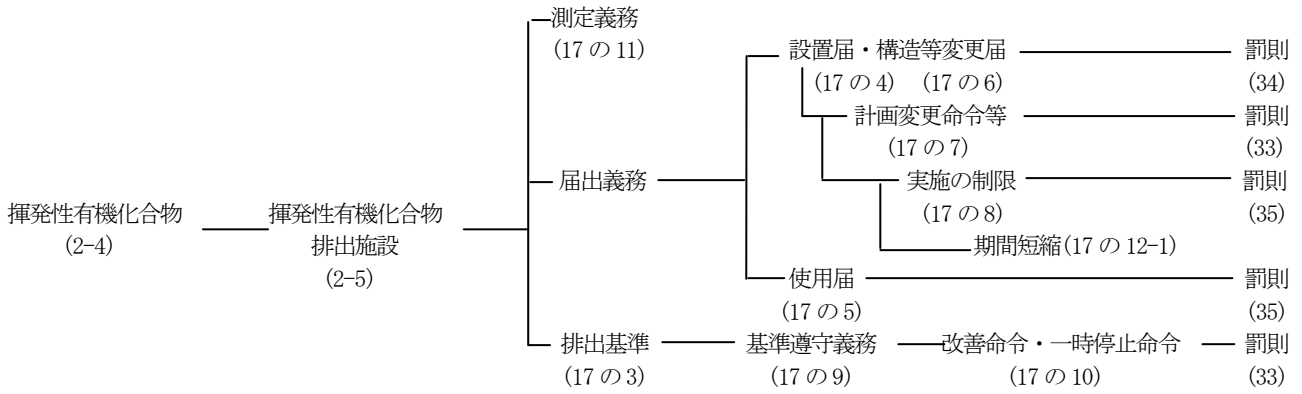
## 1. ばい煙の排出規制等



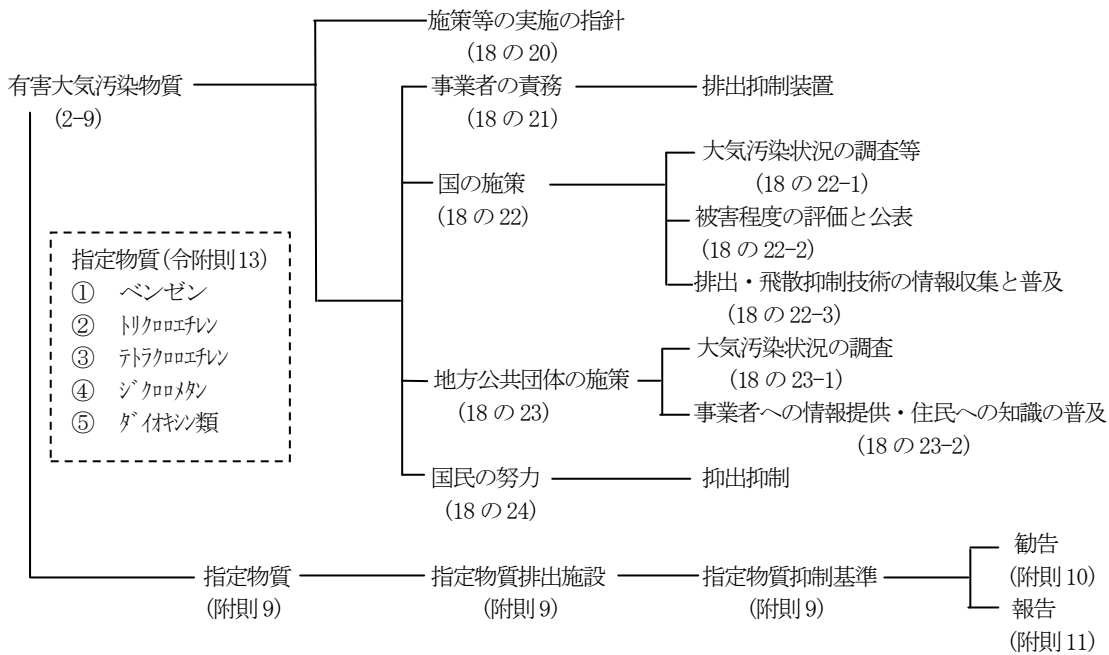
## 2. 粉じんに関する規制等



3. 揮発性有機化合物に関する規制等



4. 有害大気汚染物質対策の推進



4. 自動車排出ガスに係る許容限度等 (19・20・21 略)

5. 大気汚染の状況監視等 (22・23・24 略)

6. 損害賠償 (25 略)

7. 附則 (26・28・29・30 略)

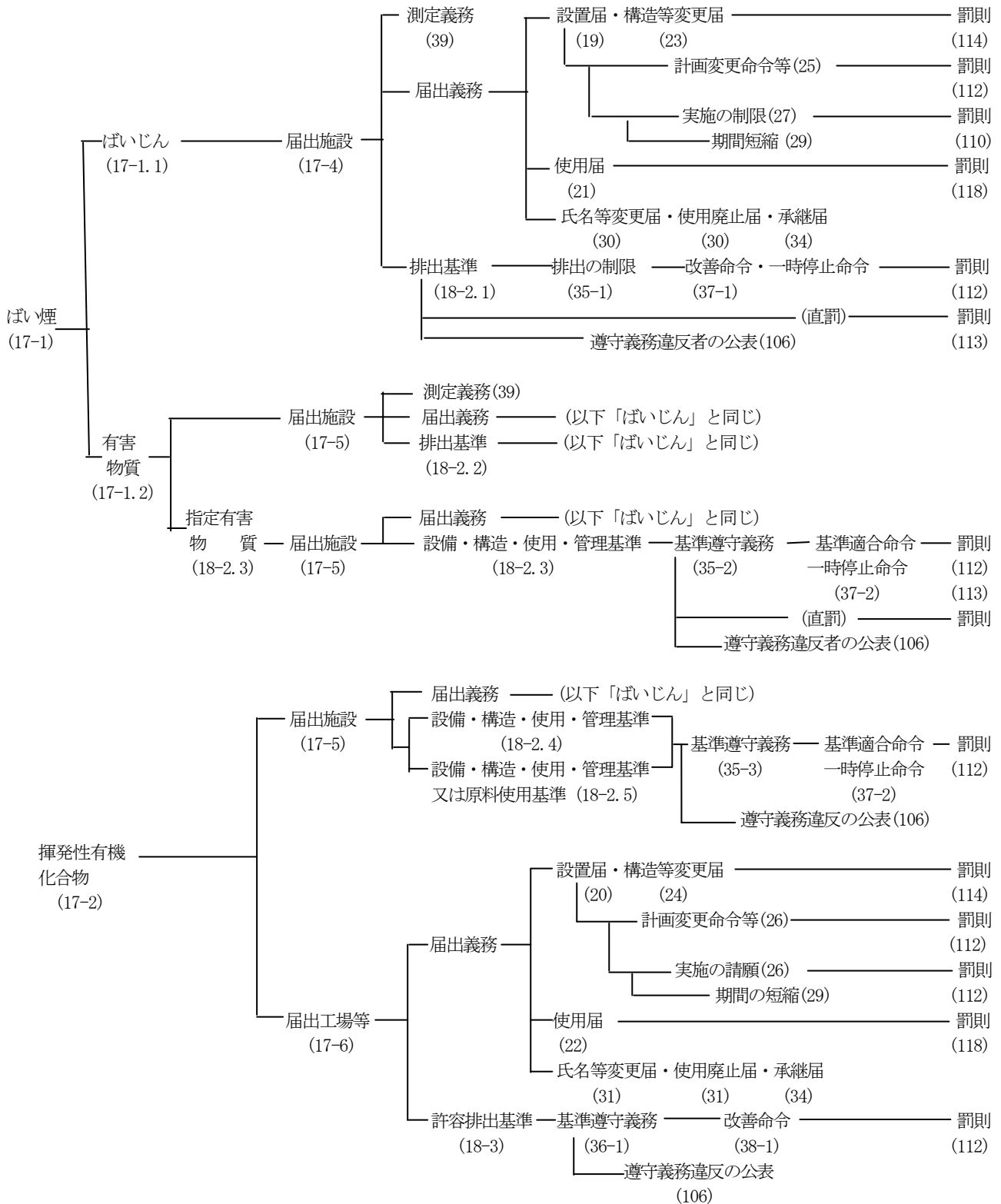
8. 適用除外

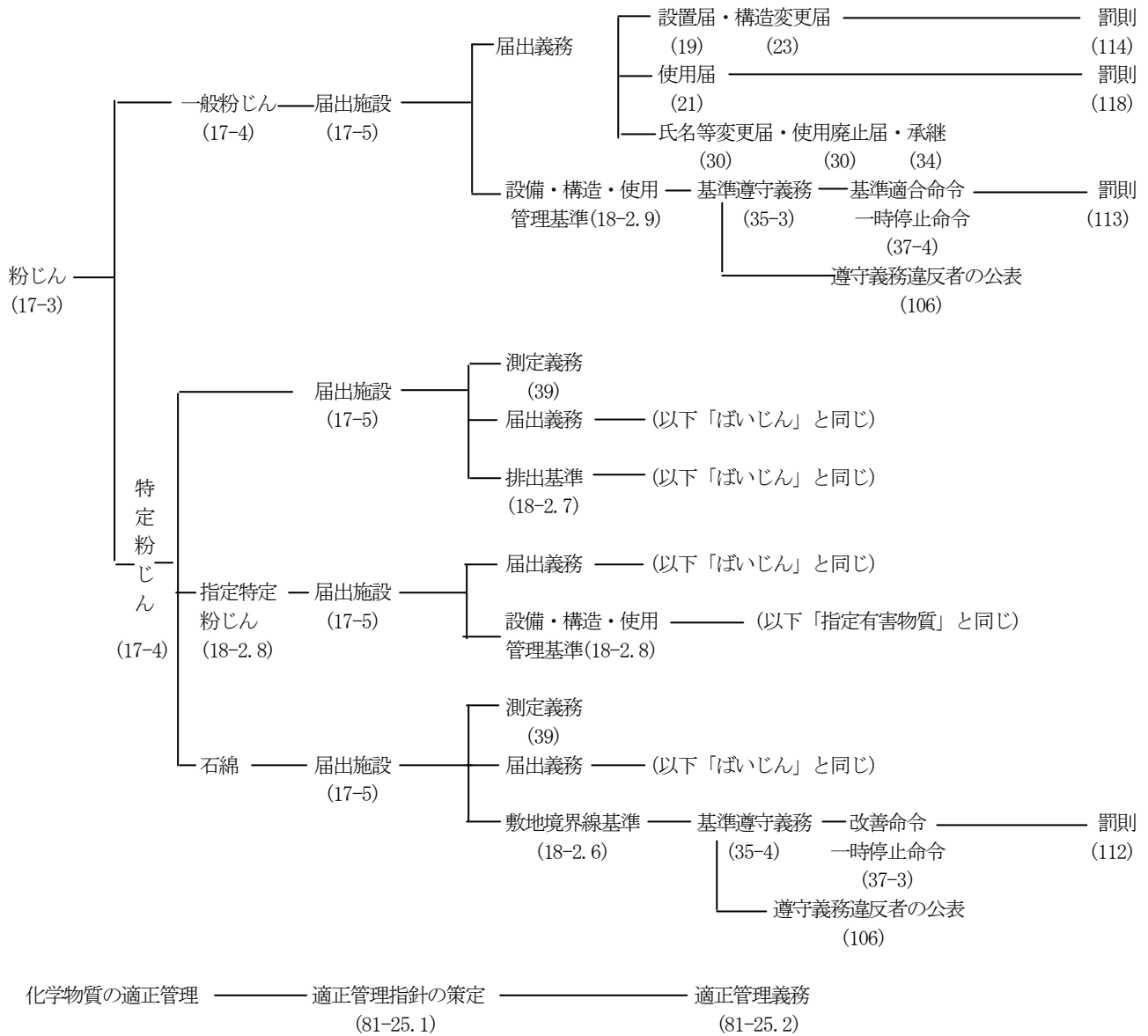
	適用除外する規定
放射性物質による大気汚染 (27-1)	全て
鉱山 (2-2)	25-1～6 を除くすべて。ただし鉱業法 (昭和 25 年法律第 299 号) の適用があるときは、同法の定めるところによる。
電気事業法 (昭和 39 年法律第 170 号) に規定する電気工作物 (27-2)	6・7・8・9・10・11・12・14-1・14-3・17-2・17-3・18-1・18 の 2・18 の 4・18 の 13-2
ガス事業法 (昭和 29 年法律第 51 号) に規定するガス工作物 (27-2)	ただし、ばい煙発生施設、特定施設及び一般粉じん発生施設に限る。

注) 図中の ( ) は条項である。  
 例えば、2-1.1 は  
 法第 2 条第 1 項第 1 号を意味する。

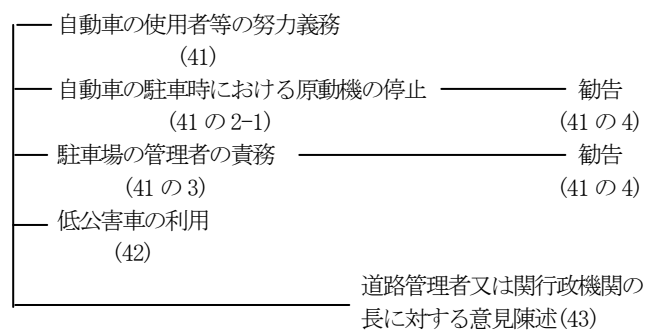
大阪府生活環境の保全等に関する条例（大気の保全に関する規制等に係る）体系図

1. ばい煙の排出規制等

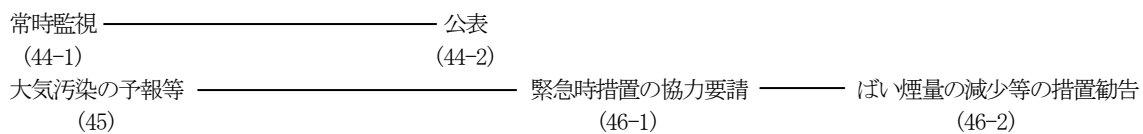




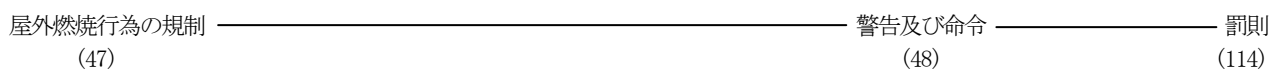
## 2. 自動車排出ガス対策の推進



## 3. 大気汚染状況の監視等



## 4. 屋外燃焼行為に関する規則



## 第7節 悪 臭

### 1. 悪臭の現状

悪臭は、人の感覚に直接作用し、嫌悪感を与える物質として、快適さを求める家庭生活に支障を生じさせるものです。また、その感じ方は、その時の天候、気温、湿度あるいは感じる人の気分・体調等により大きく左右され、相当個人差があります。

### 2. 悪臭の対策

悪臭の規制については、不快な臭いの原因となり、生活環境を損なう恐れのある悪臭物質（アンモニア等の22物質）を悪臭防止法に基づき指定し、事業活動に伴って発生するこれらの悪臭物質の排出を規制しています。

寝屋川市は、事業場の敷地境界線における規制基準を（表一悪一）のとおり定め、市内全域を規制対象として指定しています。また、悪臭問題の解決のため、法令等に基づく規制のほか発生工場、事業場に立入検査を行い改善指導に努めています。

（表一悪一）

	悪臭物質の種類	規制基準 (ppm)	臭いの種類	主な発生事業所
1	アンモニア	1	し尿のような臭い	畜産事業場、し尿処理場等
2	メチルメルカプタン	0.002	腐った玉ねぎのような臭い	し尿処理場、ゴミ処理場等
3	硫化水素	0.02	腐った卵のような臭い	畜産事業場、し尿処理場等
4	硫化メチル	0.01	腐ったキャベツのような臭い	し尿処理場
5	二硫化メチル	0.009	腐ったキャベツのような臭い	し尿処理場
6	トリメチルアミン	0.005	腐った魚のような臭い	畜産事業場、水産食料品製造工場等
7	アセトアルデヒド	0.05	刺激的な青くさい臭い	石油系化学工場
8	プロピオンアルデヒド	0.05	刺激的な甘酸っぱいこげた臭い	焼付、塗装工程を有する事業所等
9	ノルマルブチルアルデヒド	0.009	刺激的な甘酸っぱいこげた臭い	焼付、塗装工程を有する事業所等
10	イソブチルアルデヒド	0.02	刺激的な甘酸っぱいこげた臭い	焼付、塗装工程を有する事業所等
11	ノルマルバレールアルデヒド	0.009	むせるような甘酸っぱい臭い	焼付、塗装工程を有する事業所等
12	イソバレールアルデヒド	0.003	むせるような甘酸っぱい臭い	焼付、塗装工程を有する事業所等
13	イソブタノール	0.9	刺激的な醗酵した臭い	焼付、塗装、印刷工程を有する事業所等
14	酢酸エチル	3	刺激的なシンナーのような臭い	塗装、印刷工程を有する事業所等
15	メチルイソブチルケトン	1	刺激的なシンナーのような臭い	塗装、印刷工程を有する事業所等
16	トルエン	10	ガソリンのような臭い	塗装、印刷工程を有する事業所等
17	スチレン	0.4	都市ガスのような臭い	FRP製品製造工場、化学合板製造等
18	キシレン	1	ガソリンのような臭い	塗装、印刷工程を有する事業所等
19	プロピオン酸	0.03	刺激的な酸っぱい臭い	染色工場
20	ノルマル酪酸	0.001	汗くさい臭い	畜産事業場等
21	ノルマル吉草酸	0.0009	むれた靴下のような臭い	畜産事業場、畜産食品製造工場等
22	イソ吉草酸	0.001	むれた靴下のような臭い	畜産事業場等

## 第4章 水質汚濁



### ◇茨田親王塚・長栄寺

交野街道の北側にある長栄寺境内に茨田親王の墓と伝えられる塚があり、昭和14年6月に境内で火葬骨を入れた蔵骨器（骨壺）が出土しました。

茨田親王は、「日本書紀」に茨田皇子と記され、用明天皇と穴穂部間人皇女（あなほべのはしひとのひめみこ）とのあいだに生まれ、聖徳太子の弟といわれています。





## 第4章 水質汚濁

### 第1節 水質汚濁に係る環境基準

水質汚濁に係る環境基準は、水質保全の目標として、公共用水域の水質について達成し維持することが望ましい基準を定めたものであり、国は環境基本法第16条に基づき、水質汚濁について、人の健康の保護に関する環境基準（以下「健康項目」という）と生活環境の保全に関する環境基準（以下「生活環境項目」という）の二つを定めています。

前者の健康項目は、原則的に全公共用水域及び地下水につき一律に定められていますが、後者の生活環境項目は、河川、湖沼、海域ごとの利用目的に応じた水域類型を設けてそれぞれ基準値を定め、各公共用水域について水域類型の指定を行うことにより水域の環境基準が具体的に示されています。

#### ◇ 人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

水質汚濁に係る環境基準のうち健康項目については、カドミウム、鉛等の重金属類、トリクロロエチレン等の有機塩素系化合物、シマジン等の農薬など26項目が設定されています。これらの物質は、ある一定濃度を超えると慢性あるいは急性の毒性が強く、人の健康を害する物質です。（表一水一）

#### ◇ 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）

水質汚濁に係る環境基準のうち、河川における生活環境項目については、pH、DO、BOD、SS、大腸菌群数等9項目が設定されています。（表一水二）

##### ・ pH（水素イオン濃度）

水質の酸性またはアルカリ性の程度を示す指標であり、pH7が中性、7以上がアルカリ性、7以下が酸性です。

河川水等は、中性（pH7）付近の値で、水道水として望ましい値は、pH6.5 から8.5までの範囲です。

##### ・ DO（溶存酸素量）

水中に溶けている酸素量のことであり、水中の微生物やバクテリアなどの水中生物に不可欠なものです。きれいな水ほど酸素は多く含まれています。

##### ・ BOD（生物化学的酸素要求量）

微生物が河川水中の汚濁物質（有機物）を分解し、無機化あるいはガスに変えるときに必要とする酸素量のことです。この数値が大きければその河川の水中には汚濁物質が多く、水が汚濁されていることを意味します。

##### ・ SS（浮遊物質）

水に溶けずに、水中に浮遊している粒子で2mm以下のものをいい、数値が大きいほど水質汚濁が著しいことを示しています。

##### ・ 大腸菌群数

大腸菌が存在することは、人間、家畜のし尿等で汚染されている可能性を示しています。

#### ◇ 要監視項目（表一水三）

人の健康に関連しているが、公共用水域等における検出状況からみて現時点では直ちに環境基準健康項目とせず、今後健康項目への移行を検討する物質で、29項目が設定されています。

(表一水一) 人の健康の保護に関する環境基準 (健康項目)

項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カドミウム	0.01mg/L以下	1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L以下
全シアン	検出されないこと	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下
鉛	0.01mg/L以下	トリクロロエチレン	0.03mg/L以下
六価クロム	0.05mg/L以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下
砒素	0.01mg/L以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下
総水銀	0.0005mg/L以下	チウラム	0.006mg/L以下
アルキル水銀	検出されないこと	シマジン	0.003mg/L以下
P C B	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02mg/L以下
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	ベンゼン	0.01mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下	セレン	0.01mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.02mg/L以下	ふっ素	0.8mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	ほう素	1mg/L以下

(注) 1 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

2 「検出されないこと」とは定量限界値未満をいう。

(表一水二) 生活環境の保全に関する環境基準 (生活環境項目)

河川 (湖沼を除く)

類 型		AA	A	B	C	D	E
項 目	利用目的 の適応性	水道1級 自然環境保 全及びA以 下の欄に掲 げるもの	水道2級 水産1級 水浴及びB 以下の欄に掲 げるもの	水道3級 水産2級 及びC以下 の欄に掲げ るもの	水産3級 工業用水1 級及びD以 下の欄に掲 げるもの	工業用水2 級、農業用 水及びEの 欄にかかげ るもの	工業用水3 級、環境保 全
	基準値・ 目標値	水素イオン濃度 (pH) 6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.0以上 8.5以下
	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	1 mg/L 以下	2 mg/L 以下	3 mg/L 以下	5 mg/L 以下	8 mg/L 以下	10 mg/L 以下
	浮遊物質 量 (SS)	25 mg/L 以下	25 mg/L 以下	25 mg/L 以下	50 mg/L 以下	100 mg/L 以下	ごみ等の浮 遊が認めら れないこと
	溶存酸素量 (DO)	7.5 mg/L 以上	7.5 mg/L 以上	5 mg/L 以上	5 mg/L 以上	2 mg/L 以上	2 mg/L 以上
	大腸菌群数	50MPN / 100ml 以下	1000MPN / 100ml 以下	5000MPN / 100ml 以下	—	—	—

(注) 1 基準値 (目標値) は、日間平均値とする。

2 農業利用水点については、水素イオン濃度 6.0 以上 7.5 以下、溶存酸素量 5 mg/L 以上とする。

※ 寝屋川、古川については、D類型に指定。(平成 21 年 3 月 31 日現在)

項 目	水 域	類 型	水生生物の生息状況の適応性	基 準 値
全亜鉛	河川及び湖沼	生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下
		生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下
		生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下
		生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下

(注) 1 基準値は、年平均値とする。

2 平成 15 年 11 月 5 日に水生生物の保全に係る生活環境項目として全亜鉛が追加されましたが、寝屋川は類型指定されていません。(平成 21 年 3 月 31 日現在)

(表-水-3) 要監視項目及び指針値

①

項 目	指 針 値	項 目	指 針 値
クロロホルム	0.06mg/L以下	イプロベンホス	0.008mg/L以下
トランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	クロルニトロフェン	—
1,2-ジクロロプロパン	0.06mg/L以下	トルエン	0.6mg/L以下
p-ジクロロベンゼン	0.2mg/L以下	キシレン	0.4mg/L以下
イソキサチオン	0.008mg/L以下	フタル酸ジエチルヘキシル	0.06mg/L以下
ダイアジノン	0.005mg/L以下	ニッケル	—
フェントロチオン	0.003mg/L以下	モリブデン	0.07mg/L以下
イソプロチオラン	0.04mg/L以下	アンチモン	0.02mg/L以下
オキシ銅	0.04mg/L以下	塩化ビニルモノマー	0.002mg/L以下
クロロタロニル	0.05mg/L以下	エピクロロヒドリン	0.0004mg/L以下
プロピザミド	0.008mg/L以下	1,4-ジオキサン	0.05mg/L以下
E P N	0.006mg/L以下	全マンガン	0.2mg/L以下
ジクロロボス	0.008mg/L以下	ウラン	0.002mg/L以下
フェノブカルブ	0.03mg/L以下		

②

項 目	水 域	類 型	指 針 値
クロロホルム	河川及び湖沼	生物A	0.7mg/L以下
		生物特A	0.006mg/L以下
		生物B	3mg/L以下
		生物特B	3mg/L以下
フェノール	河川及び湖沼	生物A	0.05mg/L以下
		生物特A	0.01mg/L以下
		生物B	0.08mg/L以下
		生物特B	0.01mg/L以下
ホルムアルデヒド	河川及び湖沼	生物A	1mg/L以下
		生物特A	1mg/L以下
		生物B	1mg/L以下
		生物特B	1mg/L以下

## 第2節 水質汚濁の現状

### 1. 市内の河川・水路

寝屋川市には、市名のごとく代表的な河川として寝屋川があり、その他に古川等が流れています。また、大小さまざまな水路は、かつては農業用水路として縦横に流れており、身近な水辺として親しまれていましたが、宅地や工場の増加、農地の減少とともに、工場排水や生活排水による汚濁が進み、悪臭が発生し、そのため下水溝のようになってしまったものや暗渠になってしまったものもあります。

以前は、水質汚濁の大部分は工場からの排水が占め住宅街の中を流れる小さな水路などはコンクリートで囲われているところが多いため自然浄化能力が減少し、水質汚濁に拍車をかけていましたが、工場・事業所に対する規制の強化や公共下水道の普及にともなって河川や水路の水質は大幅に改善されてきています。

同時に生活排水等が下水管に流されるため、水路等の水量が減少してきており、本来の水辺としての役割を果たさなくなってきましたが、一部の水路や河川ではコイやフナ、そのほかの水生生物が見られるようになってきました。

#### (1) 寝屋川

寝屋川市から門真市、大東市を経て大阪市へと流れています。市では、水質汚濁調査を平成6年度まで2ヶ所で、平成7年度から3ヶ所、平成11年度に水質汚濁防止法政令市となったのに伴い萱島橋で年12回、清水橋で年4回行っています。

萱島橋（環境基準点）では、毎月、水質分析調査と流量調査を行っており、平成20年度の結果は、D類型の生活環境項目及び健康項目について全て環境基準以下でした。清水橋（準環境基準点）については、pHを除く生活環境項目及び健康項目について環境基準以下でした。

伊之内橋から清水橋の間は水量が少ないが、萱島橋では水量が増加している理由は、清水橋の下流にある国土交通省の寝屋川浄化ポンプ場で淀川からの水を寝屋川導水路から定期的に引き入れているためと、清水橋下流に隣接して、寝屋川の浄化及び水量の確保の目的で渚処理場の処理水を平成11年4月から流入しているためです。

#### (2) 古川水路及び古川

寝屋川市から門真市を経て大阪市に入り寝屋川と合流します。平成20年度の結果は、D類型の生活環境項目及び健康項目については全て環境基準以下でした。

#### (3) 幹線水路

農業用水などとして使用するため、淀川より水を引き入れています。この水路に排出する工場・事業場は少なく、水質は良く、下流は守口市を経て大阪市に至りません。

#### (4) 友呂岐水路

曲型的な都市型水路で、周辺に住宅も多く、下水道の整備が他の地域に比べて遅れているため、工場排水より生活排水による汚濁が際立っており、本市南端で寝屋川に合流します。

## 2. 河川・水路の水質調査

昭和45年4月21日に水質汚濁に係る環境基準が閣議決定され、同年9月1日には淀川、大和川、寝屋川等府内の主要20河川について、水域の類型指定が行われ、本市では、この環境基準の設定に伴い、その後の水質の改善状況をみるため、昭和46年度より水質汚濁防止法第15条の規定に準じ水質汚濁調査を行っています。

また、寝屋川市は平成11年4月に水質汚濁防止法の政令市となり、さらに詳細な調査を行っています。

### (1) 平成20年度における河川水路の水質汚濁調査

平成20年度は次のとおり公共用水域の調査を実施しました。河川水路の水質汚濁調査結果は、(表-水-4)のとおりです。

#### ① 調査期間

平成20年4月～平成21年3月

#### ② 調査地点(17ヶ所)

(図-水-1)のとおり

#### ③ 調査回数

3(萱島橋) 年12回で1日に6時間ごとに4回採水

7(清水橋) 年4回(5・8・11・2月)で1日に6時間ごとに4回採水

その他の地点 年4回(5・8・11・2月)で1日に1回採水

#### 1. 人の健康の保護に関する項目(健康項目)

カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン等26項目

#### 2. 生活環境の保全に関する項目(生活環境項目)

水素イオン濃度、溶存酸素量、生物学的酸素要求量、化学的酸素要求量、浮遊物質、大腸菌群数、全窒素、全りん、全亜鉛の9項目

#### 3. 特殊項目

ノルマルヘキサン抽出物質、フェノール類、銅、溶解性鉄、溶解性マンガン、全クロム、陰イオン界面活性剤、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素等11項目

#### 4. 要監視項目

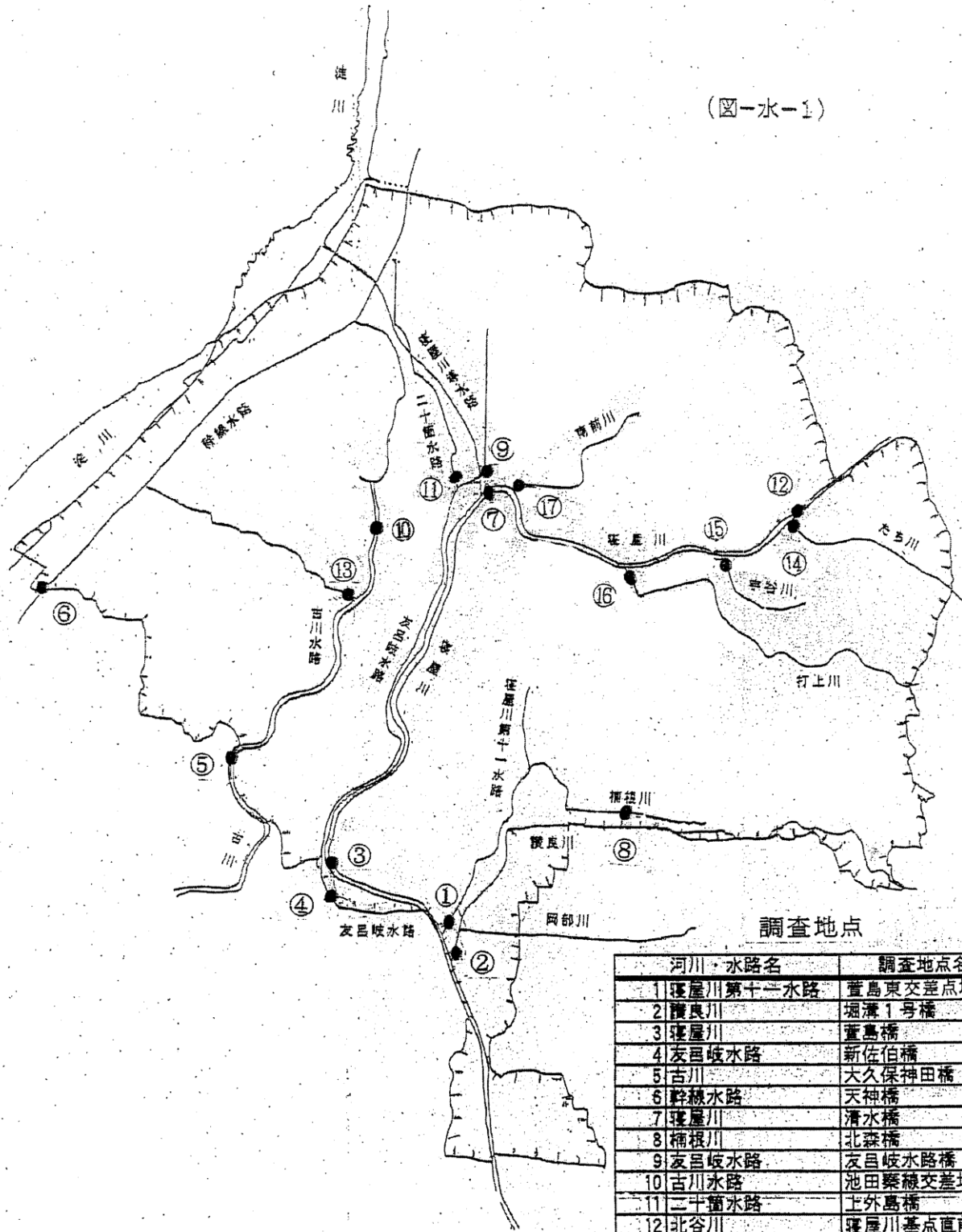
クロロホルム、トランス-1,2-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロプロパン、*p*-ジクロロベンゼン、イソキサチオン、ダイアジノン等29項目

### (2) 河川水路水質汚濁の経年変化

平成11年度より平成20年度まで過去10年間の各河川・水路における水質汚濁の経年変化については(表-水-5)のとおりです。

各河川水路における水質汚濁については、工場・事業場等の排水規制や公共下水道の普及に伴い、改善の傾向です。生活様式の変化に伴い、公共下水道整備区域外での生活排水による河川、水路の汚濁防止対策が今後の課題となっています。

(図-水-1)



調査地点

河川・水路名	調査地点名
1 寝屋川第十一水路	菅島東交差点地点
2 横良川	畑澤1号橋
3 寝屋川	菅島橋
4 友呂岐水路	新佐伯橋
5 古川	大久保神田橋
6 鞍越水路	天神橋
7 寝屋川	清水橋
8 桶根川	北森橋
9 友呂岐水路	友呂岐水路橋
10 古川水路	池田鞍越交差点地点
11 二十箇水路	土外島橋
12 北谷川	寝屋川基点直前
13 寝屋川第五水路	古川水路合流直前
14 太古川	寝屋下橋
15 宇谷川	寝屋川合流直前
16 打上川	観音橋
17 南前川	桜幸橋

3. 水質汚濁物質測定調査(表一水-4)

(1)平成20年度公共用水域水質測定調査結果(生活環境項目)

河川水路名	採水地点	項目	水素イオン濃度 (指数)			生物化学的酸素要求量 (mg/L)					化学的酸素要求量 COD (mg/L)	
			pH	m/n	平均	BOD		75%値	判定	最小~最大	平均	
						最小~最大	m/n					
1 寝屋川 第11水路	萱島東交差点地点		7.5			2.6					7.3	
	讀良西町		~ 8.9	1/4	8.1	~ 4.8	0/4	3.5	3.3	○	~ 9	8.1
2 讀良川	堀溝一号橋		7.6			0.8					4.7	
	堀溝一丁目		~ 10	1/4	8.4	~ 4.2	0/4	2.5	3.3	○	~ 9.1	6.5
3 寝屋川	萱島橋		6.7			0.5					5.9	
	萱島本町		~ 8.5	0/48	7.4	~ 1.7	0/12	1.0	1.2	○	~ 7.6	6.8
4 友呂岐水路	新佐伯橋		7.2			1.4					4.5	
	南水苑町		~ 7.9	0/4	7.6	~ 3.8	0/4	2.3	2.5	○	~ 6.8	5.2
5 古川	大久保神田橋		7.2			1					4.2	
	上神田二丁目		~ 7.8	0/4	7.6	~ 1.7	0/4	1.3	1.5	○	~ 4.9	4.7
6 幹線水路	天神橋		7.7			0.9					3.6	
	仁和寺本町		~ 7.8	0/4	7.8	~ 1.3	0/4	1.1	1.1	○	~ 4.5	4.1
7 寝屋川	清水橋		6.7			2.1					5.9	
	平池町		~ 9.7	3/16	7.8	~ 2.5	0/4	2.3	2.4	○	~ 9.4	7.2
8 楠根川	北森橋		7.6			1.5					2.8	
	小路		~ 7.9	0/4	7.7	~ 5.3	0/4	3.7	4.9	○	~ 10	7.1
9 友呂岐水路	友呂岐水路橋		7.2			1.3					4.8	
	石津南町		~ 7.7	0/4	7.4	~ 8.5	0/4	5.9	8.3	○	~ 11	8.1
10 古川水路	池田秦線交差点		7.7			1.4					4.0	
	池田本町		~ 8.1	0/4	7.9	~ 2	0/4	1.7	2.0	○	~ 5	4.5
11 二十箇水路	上外島橋		7.7			1.5					4.3	
	池田一丁目		~ 8.4	0/4	8.0	~ 5.6	0/4	3.0	2.9	○	~ 7.8	5.4
12 北谷川	寝屋川基点直前		8.2			1.5					5.1	
	池の瀬町		~ 10	3/4	9.3	~ 15	1/4	5.1	2.0	○	~ 11	7.4
13 寝屋川 第五水路	古川水路合流直前		7.6			2.1					5.7	
	高柳一丁目		~ 7.9	0/4	7.8	~ 14	1/4	5.9	4.3	○	~ 11	7.2
14 たち川	寝屋下橋		8.2			1.3					4.1	
	池の瀬町		~ 9.1	2/4	8.7	~ 1.8	0/4	1.6	1.7	○	~ 7.4	6.0
15 宇谷川	寝屋川合流直前		8			2.2					7.5	
	太秦桜が丘		~ 9.2	2/4	8.6	~ 46	3/4	17	11	×	~ 18	13
16 打上川	観音橋		8.8			0.9					4.4	
	太秦桜が丘		~ 11	4/4	9.7	~ 1.5	0/4	1.2	1.2	○	~ 5.6	5.0
17 南前川	桜幸橋		8			2.6					5.6	
	幸町		~ 9.5	3/4	9.1	~ 3.8	0/4	3.0	2.7	○	~ 9.4	7.3

(備考) m: 環境基準を超える検体数(寝屋川・古川以外は、仮にD類型と比較した場合。)

n: 総検体数

平均: 日間平均値の年平均値

判定の欄で、○は環境基準達成、×は環境基準未達成を示します。

判定は、BODの75%値が環境基準以下の場合に達成しているものとしている。

75%値とは、n個の測定値を小さいものから順に並べた時に、n×0.75番目にあたる測定値をいいます。

(例) 年間12回測定した場合 12×0.75=9 測定値の小さいものから9番目が75%値です。

## (2)平成20年度公共用水域水質測定調査結果(生活環境項目)

項 目	浮遊物質 (mg/L)			溶存酸素 (mg/L)			大腸菌群数 (MPN/100mL)		全窒素 (mg/L)		全リン (mg/L)	
	SS		平均	DO		平均	最小～最大	平均	T-N		T-P	
	最小～最大	m/n		最小～最大	m/n				最小～最大	平均	最小～最大	平均
1	13 ～ 15	0/4	14	3.2 ～ 8.3	0/4	6.0	17000 ～ 240000	106000	2.0 ～ 3.5	2.6	0.11 ～ 0.17	0.14
2	2 ～ 7	0/4	4	8.4 ～ 16	0/4	10.6	330 ～ 17000	6700	1.5 ～ 8.8	4.1	0.12 ～ 0.4	0.23
3	1 ～ 5	0/12	2	8.8 ～ 11	0/12	10.1	4900 ～ 49000	8400	4.4 ～ 11	8.0	0.53 ～ 2.5	1.17
4	2 ～ 8	0/4	5	3.9 ～ 8.9	0/4	6.5	13000 ～ 49000	27000	1.7 ～ 3.7	2.4	0.11 ～ 0.16	0.13
5	2 ～ 13	0/4	7	6.8 ～ 9.1	0/4	8.2	13000 ～ 240000	79000	2.2 ～ 3.4	2.5	0.09 ～ 0.29	0.17
6	3 ～ 15	0/4	10	7.4 ～ 10	0/4	9.0	3300 ～ 49000	23000	1.5 ～ 1.8	1.7	0.07 ～ 0.14	0.11
7	4 ～ 13	0/4	7	8 ～ 12	0/4	10	3300 ～ 170000	76000	1.7 ～ 2.8	2.2	0.13 ～ 0.20	0.16
8	2 ～ 17	0/4	6	7.2 ～ 9.9	0/4	8.2	4900 ～ 70000	43000	1.3 ～ 3.5	2.5	0.15 ～ 0.28	0.20
9	3 ～ 7	0/4	6	<0.5 ～ 6.8	2/4	3.0	330000 ～ 4900000	2550000	1.9 ～ 9.4	4.6	0.19 ～ 0.39	0.27
10	2 ～ 13	0/4	8	8.0 ～ 11	0/4	9.4	7900 ～ 79000	49000	1.7 ～ 2.1	1.9	0.10 ～ 0.17	0.14
11	6 ～ 9	0/4	7	8.2 ～ 10	0/4	9.4	4900 ～ 33000	19000	1.6 ～ 2.1	1.9	0.09 ～ 0.19	0.14
12	1 ～ 6	0/4	4	9.5 ～ 16	0/4	13	330 ～ 490000	127000	1.9 ～ 5.9	3.0	0.08 ～ 0.35	0.19
13	4 ～ 14	0/4	9	7.0 ～ 10	0/4	8.4	22000 ～ 240000	91000	1.9 ～ 2.4	2.2	0.12 ～ 0.18	0.16
14	1 ～ 95	0/4	25	11.0 ～ 11	0/4	11	790 ～ 49000	22000	0.8 ～ 2.2	1.4	0.10 ～ 0.41	0.22
15	4 ～ 20	0/4	12	8.5 ～ 11	0/4	10	24000 ～ 130000	66000	11.0 ～ 23	17	1.2 ～ 1.9	1.6
16	5 ～ 5	0/4	5	8 ～ 19	0/4	14	3300 ～ 33000	14000	0.9 ～ 2	1.3	0.02 ～ 0.10	0.06
17	1 ～ 5	0/4	3	9.8 ～ 15	0/4	12	490 ～ 13000	5600	1.1 ～ 2.7	1.7	0.10 ～ 0.14	0.12

(備考) m: 環境基準を超える検体数(寝屋川・古川以外は、仮にD類型と比較した場合。)

n: 総検体数

平均: 日間平均値の年平均値



## (3)平成20年度公共用水域水質測定調査結果(健康項目)

項 目	カドミウム Cd (mg/L)		シアン CN (mg/L)		鉛 Pb (mg/L)		六価クロム Cr <sup>VI</sup> (mg/L)		ヒ素 As (mg/L)		総水銀 T-Hg (mg/L)		PCB (mg/L)		ジクロロメタン (mg/L)	
	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値
1	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
2	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
3	0/4	<0.001	0/4	<0.1	0/4	<0.005	0/4	<0.02	0/4	<0.005	0/4	<0.0005	0/4	<0.0005	0/4	<0.002
4	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
5	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
6	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
7	0/2	<0.001	0/2	<0.1	0/2	<0.005	0/2	<0.02	0/2	<0.005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.002
8	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
9	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
10	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
11	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
12	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
13	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
14	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	0.006	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
15	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
16	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002
17	0/1	<0.001	0/1	<0.1	0/1	<0.005	0/1	<0.02	0/1	<0.005	0/1	<0.0005	0/1	<0.0005	0/1	<0.002

(備考) m : 環境基準を超える検体数  
n : 総検体数

## (4)平成20年度公共用水域水質測定調査結果(健康項目)

項目	四塩化炭素 (mg/L)		1,2-ジクロロ エタン (mg/L)		1,1-ジクロロ エチレン (mg/L)		シス-1,2-ジクロロ エチレン (mg/L)		1,1,1-トリクロロ エタン (mg/L)		1,1,2-トリクロロ エタン (mg/L)		トリクロロエチレン (mg/L)		テトラクロロエチレン (mg/L)	
	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値
1	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
2	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
3	0/4	<0.0002	0/4	<0.0004	0/4	<0.002	0/4	<0.004	0/4	<0.0005	0/4	<0.0006	0/4	<0.002	0/4	<0.0005
4	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
5	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
6	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
7	0/2	<0.0002	0/2	<0.0004	0/2	<0.002	0/2	<0.004	0/2	<0.0005	0/2	<0.0006	0/2	<0.002	0/2	<0.0005
8	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
9	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
10	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
11	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
12	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
13	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
14	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
15	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
16	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005
17	0/1	<0.0002	0/1	<0.0004	0/1	<0.002	0/1	<0.004	0/1	<0.0005	0/1	<0.0006	0/1	<0.002	0/1	<0.0005

(備考) m : 環境基準を超える検体数  
n : 総検体数

## (5)平成20年度公共用水域水質測定調査結果(健康項目)

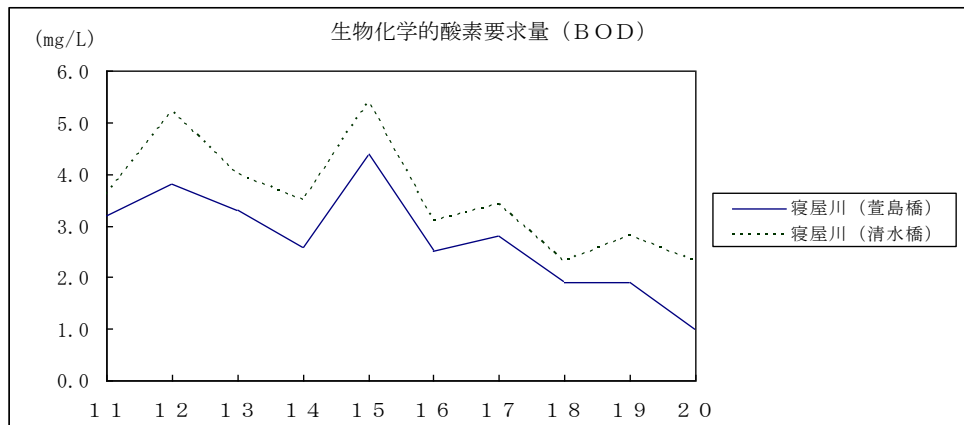
項目	1,3-ジクロロ プロペン(mg/L)		チウラム (mg/L)		シマジン (mg/L)		チオベンカルブ (mg/L)		ベンゼン (mg/L)		セレン (mg/L)		亜硝酸性窒素及び硝酸性 窒素 (mg/L)		フッ素 (mg/L)		ホウ素 (mg/L)	
	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値	m/n	最大値
1	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.74	0/1	0.43	0/1	0.05
2	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.58	0/1	0.27	0/1	0.27
3	0/4	<0.0002	0/4	<0.0006	0/4	<0.0003	0/4	<0.002	0/4	<0.001	0/4	<0.002	1/4	9.6	0/4	0.18	0/4	0.06
4	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.93	0/1	0.19	0/1	0.03
5	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	1.4	0/1	0.18	0/1	0.03
6	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.92	0/1	0.18	0/1	0.03
7	0/2	<0.0002	0/2	<0.0006	0/2	<0.0003	0/2	<0.002	0/2	<0.001	0/2	<0.002	0/2	0.72	0/2	0.22	0/2	0.03
8	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.43	0/1	0.20	0/1	0.04
9	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.88	0/1	0.19	0/1	0.03
10	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.93	0/1	0.17	0/1	0.03
11	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.91	0/1	0.18	0/1	0.03
12	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.8	0/1	0.23	0/1	0.03
13	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.89	0/1	0.18	0/1	0.03
14	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.14	0/1	0.23	0/1	0.04
15	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	10	0/1	0.17	0/1	0.04
16	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.75	0/1	0.15	0/1	0.03
17	0/1	<0.0002	0/1	<0.0006	0/1	<0.0003	0/1	<0.002	0/1	<0.001	0/1	<0.002	0/1	0.27	0/1	0.18	0/1	0.03

(備考) m: 環境基準を超える検体数  
n: 総検体数

4. 年度別水質汚濁の経年変化(表一水-5)

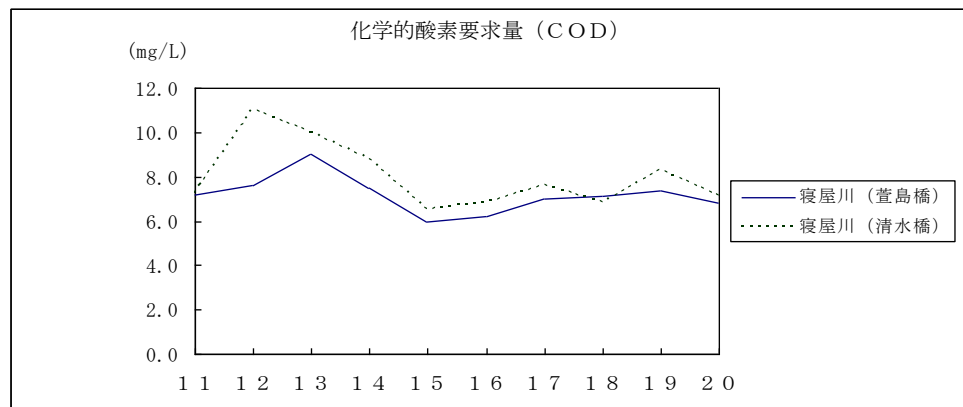
(1)生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)

区 分	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1 寝屋川第11水路 (萱島東交差点地点)	3.2	6.4	6.8	6.1	6.1	5.0	3.3	3.5	3.6	3.5
2 讃良川 (堀溝1号橋)	15	10	5.0	3.5	4.6	3.1	4.4	2.6	1.7	2.5
3 寝屋川 (萱島橋)	3.2	3.8	3.3	2.6	4.4	2.5	2.8	1.9	1.9	1.0
4 友呂岐水路 (新佐伯橋)	5.6	11	5.0	5.0	9.5	4.3	5.2	2.8	2.0	2.3
5 古川 (大久保神田橋)	7.4	4.8	5.0	3.0	5.8	4.3	3.1	1.3	1.4	1.3
6 幹線水路 (天神橋)	2.8	2.5	2.1	2.1	3.9	1.9	3.2	1.5	1.1	1.1
7 寝屋川 (清水橋)	3.6	5.2	4.0	3.5	5.4	3.1	3.4	2.3	2.8	2.3
8 楠根川 (北森橋)	9.0	9.0	11	3.7	9.4	6.2	5.4	7.5	7.4	3.7
9 友呂岐水路 (友呂岐水路橋)	22	33	17	13	18	13	7.1	5.8	4.9	5.9
10 古川水路 (池田秦線交差点)	5.0	6.4	4.8	2.8	5.5	2.7	2.9	1.3	1.7	1.7
11 二十箇水路 (上外島橋)	7.5	9.4	8.0	2.8	7.9	2.2	2.7	1.9	2.3	3.0
12 北谷川 (寝屋川基点直前)	4.6	4.8	4.3	4.6	4.7	2.7	5.7	2.6	3.7	5.1
13 寝屋川第5水路 (古川水路合流直前)	14	15	11	9.8	11	8.6	6.9	3.4	2.9	5.9
14 たち川 (池の瀬町)	—	—	—	—	—	—	4.7	2.0	2.6	1.6
15 宇谷川 (太秦桜が丘)	—	—	—	—	—	—	6.3	8.0	3.6	1.7
16 打上川 (太秦桜が丘)	—	—	—	—	—	—	3.4	2.1	1.8	1.2
17 南前川 (幸町)	—	—	—	—	—	—	3.9	1.7	1.8	3.0



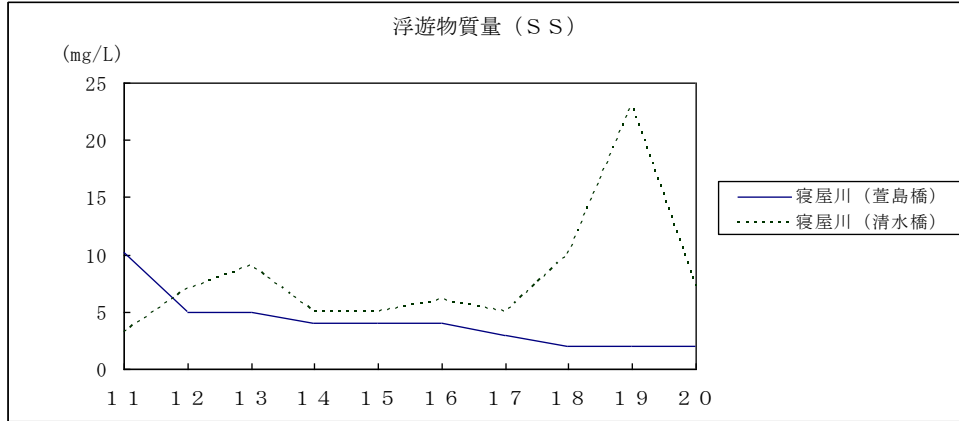
(2)化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)

区 分	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1 寝屋川第11水路 (萱島東交差点地点)	8.9	9.5	12.3	11	8.1	9.2	7.8	15	7.7	8.1
2 讃良川 (堀溝1号橋)	18	13	11	7.8	5.5	6.8	9.5	6.4	6.7	6.5
3 寝屋川 (萱島橋)	7.2	7.6	9.0	7.5	6.0	6.2	7.0	7.1	7.4	6.8
4 友呂岐水路 (新佐伯橋)	9.4	10	9.0	7.4	8.5	6.1	6.9	6.3	5.7	5.2
5 古川 (大久保神田橋)	8.6	8.1	10.2	6.6	5.6	5.5	5.8	4.9	4.5	4.7
6 幹線水路 (天神橋)	4.8	4.6	6.0	4.5	4.5	3.7	5.2	4.8	3.9	4.1
7 寝屋川 (清水橋)	7.3	11	10	8.8	6.5	6.8	7.6	6.8	8.3	7.2
8 楠根川 (北森橋)	13	10	18	6.3	9.8	9.1	9.2	14	15	7.1
9 友呂岐水路 (友呂岐水路橋)	19	19	19	11	14	11	8.1	8.0	7.2	8.1
10 古川水路 (池田秦線交差点)	6.4	8.2	9.5	4.9	5.6	3.9	5.7	4.5	4.6	4.5
11 二十箇水路 (上外島橋)	7.1	9.6	11.3	4.5	8.2	3.9	5.6	4.9	5.1	5.4
12 北谷川 (寝屋川基点直前)	7.1	8.6	9.4	9.6	5.8	6.0	12	6.4	8.9	7.4
13 寝屋川第5水路 (古川水路合流直前)	14	17	14	11	10	9.7	8.2	7.7	6.1	7.2
14 たち川 (池の瀬町)	—	—	—	—	—	—	7.7	5.7	7.2	6.0
15 宇谷川 (太秦桜が丘)	—	—	—	—	—	—	14	12	9.2	13
16 打上川 (太秦桜が丘)	—	—	—	—	—	—	7.5	6.0	6.1	5.0
17 南前川 (幸町)	—	—	—	—	—	—	7.5	5.8	5.4	7.3



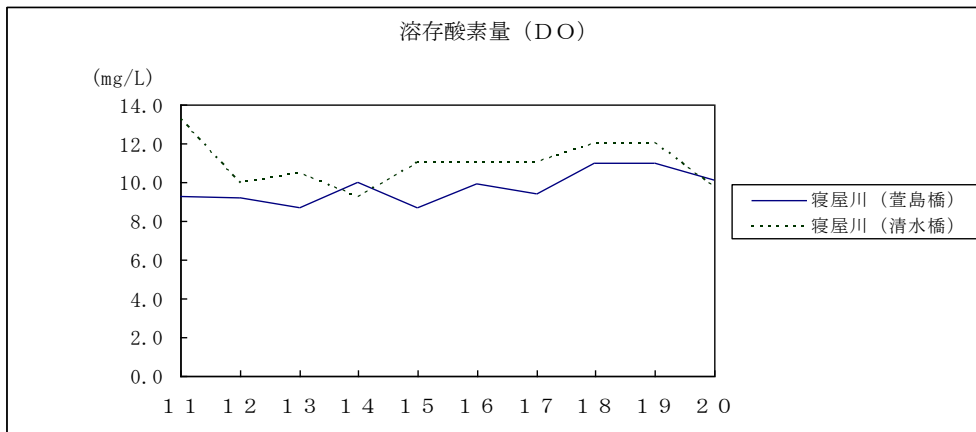
(3) 浮遊物質 (SS) (mg/L)

区分	1 1	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0	
1 寝屋川第11水路 (菅島東交差点地点)	8	17	20	34	34	14	10	29	18	14	
2 讚良川 (堀溝1号橋)	14	11	6	6	6	5	10	3	5	3	
3 寝屋川 (菅島橋)	10	5	5	4	4	4	3	2	2	2	
4 友呂岐水路 (新佐伯橋)	12	14	12	10	10	12	19	7	5	5	
5 古川 (大久保神田橋)	17	16	20	18	18	20	16	12	2	5	
6 幹線水路 (天神橋)	9	15	13	15	15	15	14	7	6	10	
7 寝屋川 (清水橋)	3	7	9	5	5	6	5	10	23	7	
8 楠根川 (北森橋)	12	16	15	4	4	7	10	16	22	6	
9 友呂岐水路 (友呂岐水路橋)	15	25	24	11	11	10	11	6	6	6	
10 古川水路 (池田秦線交差点)	11	19	21	13	13	9	15	8	8	8	
11 二十箇水路 (上外島橋)	9	13	13	10	10	21	20	12	6	6	
12 北谷川 (寝屋川基点直前)	3	8	7	12	12	5	20	11	32	4	
13 寝屋川第5水路 (古川水路合流直前)	10	15	21	31	31	11	14	11	18	9	
14 たち川 (池の瀬町)	-	-	-	-	-	-	-	9	11	25	25
15 宇谷川 (太秦桜が丘)	-	-	-	-	-	-	-	17	13	6	12
16 打上川 (太秦桜が丘)	-	-	-	-	-	-	-	4	2	3	2
17 南前川 (幸町)	-	-	-	-	-	-	-	4	2	2	3



(4) 溶存酸素量 (DO) (mg/L)

区分	1 1	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0	
1 寝屋川第11水路 (菅島東交差点地点)	9.7	8.9	6.4	8.1	6.6	7.2	8.0	6.1	7.7	6.0	
2 讚良川 (堀溝1号橋)	7.9	5.8	9.8	9.5	10	10	10	12	8.6	11	
3 寝屋川 (菅島橋)	9.3	9.2	8.7	10	8.7	9.9	9.4	11	11	10	
4 友呂岐水路 (新佐伯橋)	3.8	3.6	4.0	6.4	5.3	7.2	7.2	4.2	5.5	6.5	
5 古川 (大久保神田橋)	4.3	6.3	6.1	8.7	7.4	8.2	8.4	6.4	7.0	8.2	
6 幹線水路 (天神橋)	9.2	8.9	8.9	9.9	9.1	9.5	8.8	9.3	9.7	9.0	
7 寝屋川 (清水橋)	13	9.9	10	9.2	11	11	11	12	12	10	
8 楠根川 (北森橋)	7.0	7.1	7.1	8.2	8.1	7.6	7.6	8.6	7.7	8.2	
9 友呂岐水路 (友呂岐水路橋)	0.8	1.1	3.3	4.8	2.1	2.2	5.4	6.9	6.2	3.0	
10 古川水路 (池田秦線交差点)	7.0	5.5	6.4	8.6	7.8	8.8	8.4	9.4	9.5	9.4	
11 二十箇水路 (上外島橋)	7.1	6.9	8.0	9.4	8.5	9.4	9.0	9.0	9.7	9.4	
12 北谷川 (寝屋川基点直前)	12	10	8.0	9.4	11	11	13	13	16	13	
13 寝屋川第5水路 (古川水路合流直前)	4.9	4.3	5.6	7.2	6.3	7.5	7.2	7.5	8.1	8.4	
14 たち川 (池の瀬町)	-	-	-	-	-	-	-	10	12	10	11
15 宇谷川 (太秦桜が丘)	-	-	-	-	-	-	-	10	12	10	
16 打上川 (太秦桜が丘)	-	-	-	-	-	-	-	12	18	14	14
17 南前川 (幸町)	-	-	-	-	-	-	-	11	12	11	12



## 第3節 水質汚濁の対策

### 1. 法律・条例に基づく規制

#### (1) 規制の概要

##### ① 水質汚濁防止法による規制

『水質汚濁防止法』は、有害物質や水質悪化を招く汚水・廃液を排出する施設を特定施設として定め、届出制としています。また、これらの施設をもつ工場・事業場（特定事業場）から公共用水域への排水についても規制を行っています。

##### ☆ 有害物質に係る規制

鉛、ヒ素等の有害物質については、特定事業場からの排水に関して、排水量に関係なく、排水基準が適用されています。

##### ☆ その他の項目に係る規制

pH・BOD・COD等については、日平均排水量 50 m<sup>3</sup>以上の特定事業場（大阪府域の場合は、条例により日平均 30 m<sup>3</sup>以上に対象範囲を拡大している）からの排水に関して排水基準が適用されます。

##### ☆ 総量規制

日平均排水量 50 m<sup>3</sup>以上の特定事業場については、濃度規制に加えて、化学的酸素要求量（COD）について「化学的酸素要求量に係る総量削減計画」に基づき総量規制を行っています。また、平成 16 年 4 月 1 日から「化学的酸素要求量、窒素含有量及び磷含有量に係る総量削減計画」に基づき窒素含有量及び磷含有量についても総量規制を行っています。

##### ② 瀬戸内海環境保全特別措置法による規制

『瀬戸内海環境保全特別措置法』は、瀬戸内海の水質保全を目的に時限立法であったものを昭和 53 年 6 月に恒久法制化され、現在に至っています。

この法律の特色は、日最大排水量 50 m<sup>3</sup>以上の工場・事業場が特定施設の新増設または、構造等変更を行う場合に許可制度を採用しており、許可申請時に排水量・汚濁物質等が環境に与える影響について、事前評価を義務付けています。

##### ③ 大阪府生活環境の保全等に関する条例による規制

『大阪府生活環境の保全等に関する条例』は、地域の特性を考慮し、政令で定める基準に従い水質汚濁防止法に基づく特定施設のほか、条例により、届出施設として規制対象施設を追加し、さらに規制項目や濃度基準を強化しています。

瀬戸内海環境保全特別措置法・水質汚濁防止法・大阪府生活環境の保全等に関する条例の体系は（表一水-6）に示すとおりです。

##### ④ 窒素及びその化合物並びに磷及びその化合物に係る削減指導要綱による指導

富栄養化の原因となる窒素及び磷の削減については、『窒素及びその化合物並びに磷及びその化合物に係る削減指導要綱』により法の排水基準より厳しい管理目標値を定め、工場・事業場を指導しています。

(2) 施設設置等の現況

① 届出状況

平成 16 年から平成 20 年までにおける瀬戸内海環境保全特別措置法、水質汚濁防止法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく許可申請及び届出の状況は、(表-水-7~9) に示すとおりです。

② 特定(届出)施設の設置工場・事業場の現況

平成 20 年度末現在の業種別の法律・条例対象の工場・事業場は(表-水-10) に示すとおりです。

(3) 検査指導状況

法律・条例に基づく特定施設からの排水の状況、排水処理施設の稼働状況等に関して立入検査及び採水検査を実施しました。実施状況は(表-水-11) に示すとおりです。

採水検査の結果、排水基準を超過した工場・事業場に対しては、呼び出し等の行政指導を行なうとともに改善計画書を提出させ、排水基準を遵守するよう指導しました。

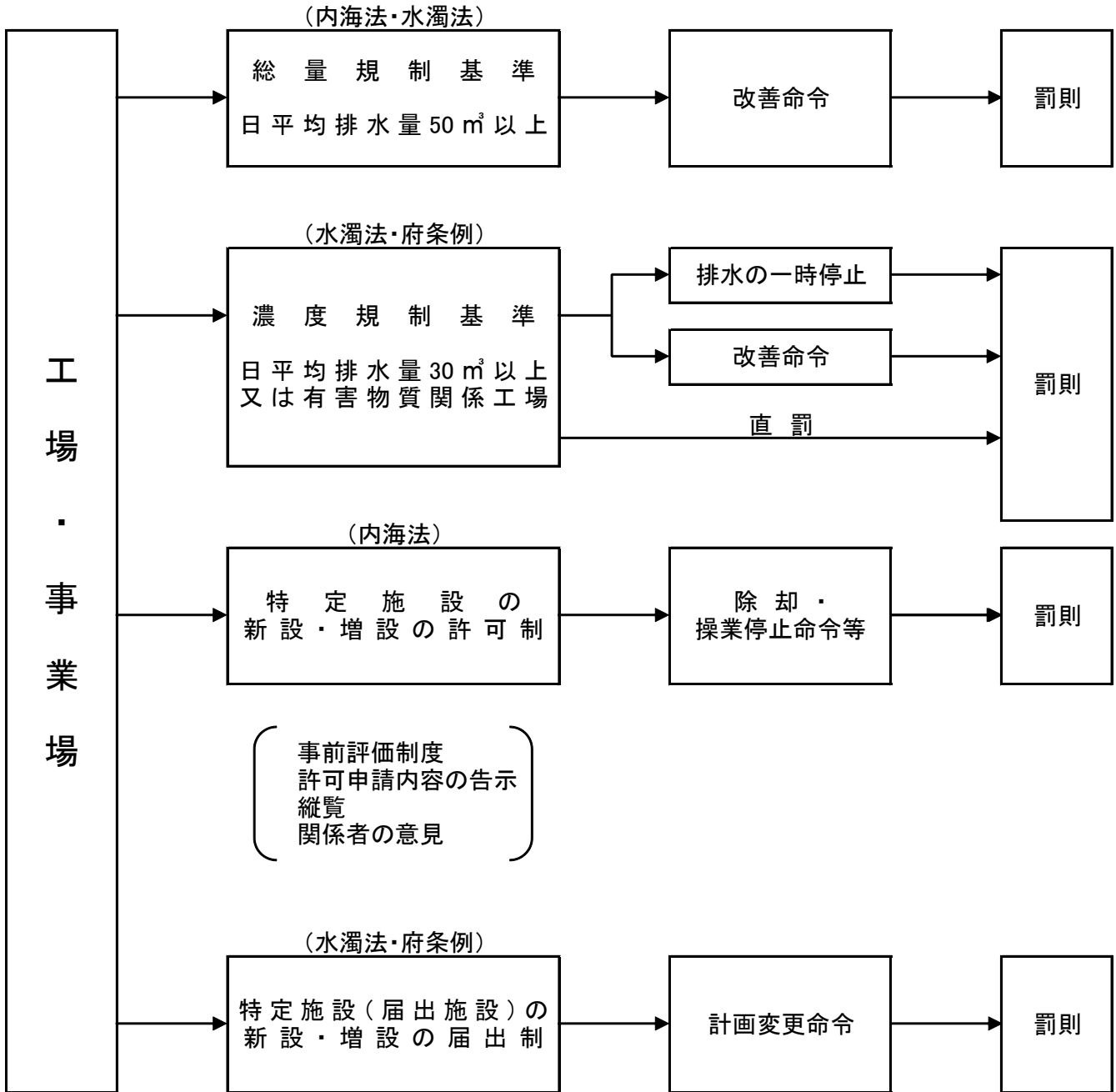
内海法・水濁法・府条例の適用関係

	特定事業場	届出事業場
	水質汚濁防止法に係る特定施設	大阪府生活環境の保全等に関する条例に係る届出施設
日最大排水量が 50 m <sup>3</sup> /日以上	内海法適用 許可制	大阪府条例適用 届出制
日平均排水量が 50 m <sup>3</sup> /日未満	水濁法適用 届出制	

※ 瀬戸内海環境保全特別措置法施行令第 4 条の規定で「下水道終末処理施設」、「地方公共団体が設置するし尿処理施設」、「地方公共団体が設置する廃油処理施設及び廃油処理事業の用に供する廃油処理施設」については、日最大排水量に関らず、水質汚濁防止法適用事業場である。

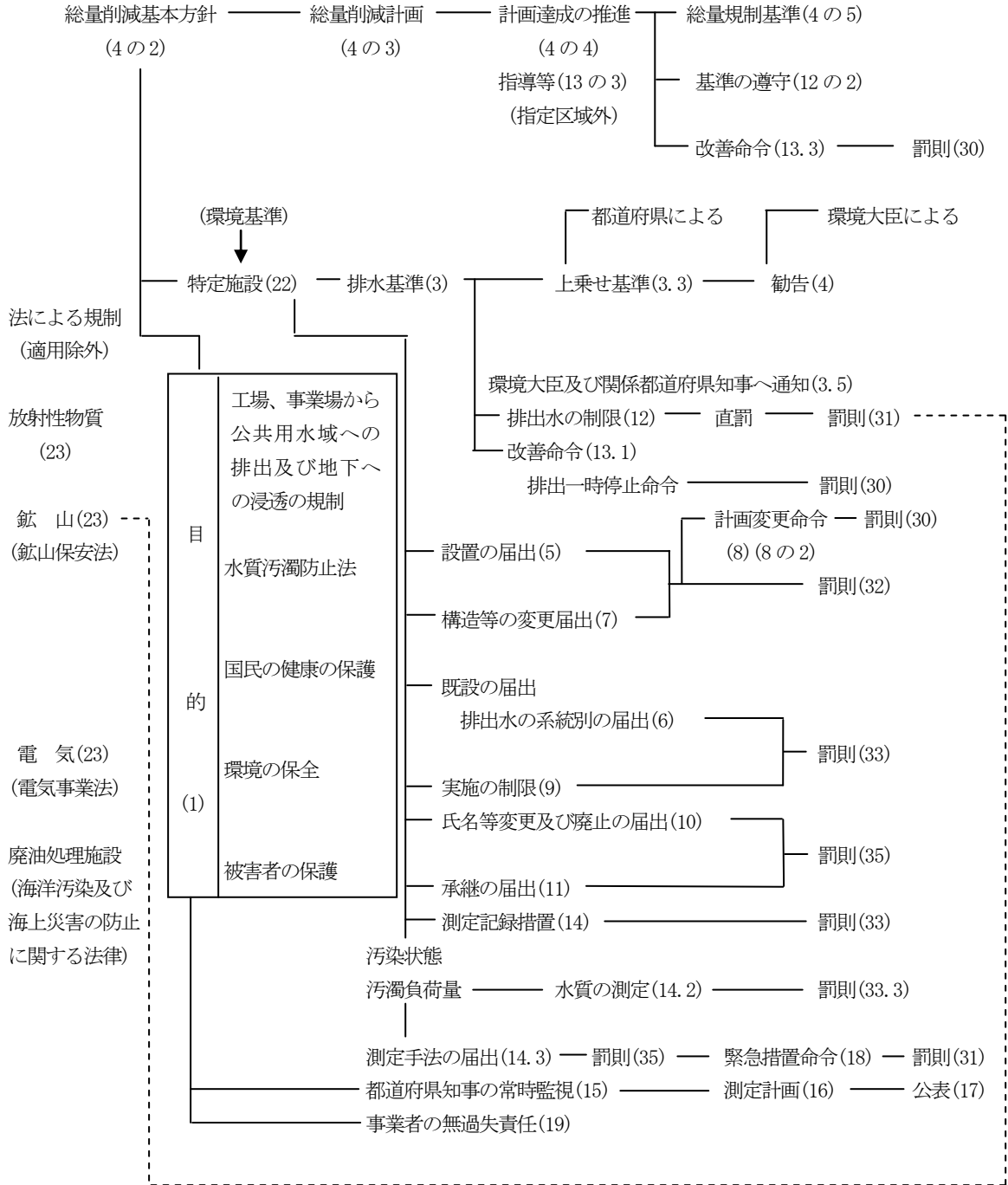
(表一水一6)水質関係法律・条例による規制のしくみ

特定施設等を設置し、公共用水域へ排水水を排出するもの





# 水質汚濁防止法の体系図



注 図に掲げた項目以外に (20) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (34) 等について定めている

注 ( ) は条文である。  
例えば 2.1 は第2条第1項を意味する。

(表一水-7) 瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく申請届出の推移

種 別 \ 年 度	16	17	18	19	20
設 置 許 可 申 請					
使 用 届 出					
構 造 等 変 更 許 可				1	1
構 造 等 変 更 届 出					
氏 名 変 更 届 出	3			1	
排 出 水 質 汚 染 状 態 等 変 更 届 出					
使 用 廃 止 届 出	3				
承 継 届 出					
計	6	0	0	2	1

(表一水-8) 水質汚濁防止法に基づく届出の推移

種 別 \ 年 度	16	17	18	19	20
設 置 届 出	5		4		4
使 用 届 出					
構 造 等 変 更 届 出	5		3	3	5
氏 名 変 更 届 出	1	6	9	5	7
使 用 廃 止 届 出	6	3	8	7	16
承 継 届 出			1	4	1
汚 濁 負 荷 量 測 定 手 法 届 出	4				
計	21	9	25	19	33

(表一水-9) 大阪府生活環境保全等に関する条例に基づく届出の推移

種 別 \ 年 度	16	17	18	19	20
設 置 届 出					
使 用 届 出					
構 造 等 変 更 届 出					
氏 名 変 更 届 出			1	1	
使 用 廃 止 届 出			1	1	
承 継 届 出					
計	0	0	2	2	0

(表一水-10) 業種別特定(届出)工場・事業場数及び規制対象工場・事業場数

(平成21年3月31日現在)

届出の種類 設置許可(届出)		内海法に 係るもの	水濁法に 係るもの	府条例に 係るもの	計	規制対象 工場 事業場数
製 造 業	食料品製造業		9	3	12	
	繊維工業		1		1	
	パルプ・紙・紙加工品製造業			1	1	
	印刷業		4		4	1
	化学工業		2	3	5	
	石油製品・石炭製品製造業			2	2	1
	窯業・土石製品製造業		5		5	
	金属製品製造業		8		8	4
	汎用機械器具製造業		3		3	1
	業務用機械器具製造業		1		1	
	電子回路製造業	1	2		3	2
	輸送用機械器具製造業		2		2	2
	小計	1	37	9	47	11
そ の 他	水道業		2		2	
	道路旅客運送業		1		1	
	機械器具小売業		4		4	
	燃料小売業		19		19	
	学術・開発研究機関		3		3	2
	技術サービス業		1		1	1
	宿泊業	1	4		5	2
	配達飲食サービス業	1		2	3	2
	洗濯業		42		42	14
	写真現像・焼付業		19		19	
	学校教育		1		1	1
	廃棄物処理業		1		1	
	自動車整備業		10		10	1
し尿処理施設	2	1		3	2	
指定地域特定施設		22		22	10	
小計	4	130	2	136	35	
合計	5	167	11	183	46	

(表一水-11) 工場・事業場の立入検査及び採水の実施状況

種 別 \ 年 度	16	17	18	19	20
立入回数	107	90	75	47	36
採水件数	37	53	36	37	19
改善指導件数	4	0	2	1	1

## 2. 生活排水対策

一般家庭の台所・風呂・洗面所また洗濯機の排水等の生活排水は、下水道整備区域や合併浄化槽により処理される場合以外は、そのまま河川・水路等に流されており、公共用水域の汚濁の原因となっています。

生活排水対策については、下水道の整備・促進に努め、平成 20 年度末には人口普及率が 99.7%となっています。

市民の皆さんへの水環境などに関する啓発については、「親と子で見る自然散策と水辺の生物観察会（水質モニタリング）」のイベントの開催、「はちかづきちゃんの生活排水対策～みんなで守ろう寝屋川の河川～」のパンフレットの配布、「エコ・フェスタ」での環境パネルの展示、「広報ねやがわ」及びインターネットホームページへの掲載などを行っています。

## 第5章 騒音・振動



### ◇神田天満宮『千年クス』

神田天満宮のクスは、いつの頃からか「千年クス」と呼ばれ親しまれて、幹の周囲 10 mの巨木で、実に見事なものです。樹齢は一千年以上と推定されています。

昭和 47 年 3 月 31 日に大阪府の天然記念物に指定されています。



## 第5章 騒音・振動

### 第1節 騒音・振動に係る環境基準

#### 1. 騒音に係る環境基準

環境基本法（平成5年法律第91号）第16条第1項の規定に基づき、騒音に係る環境上の条件について「生活環境を保全し、人の健康の保護に資する上で維持されることが望ましい基準」として、環境基準（昭和46年5月25日閣議決定）が定められ、一般地域（道路に面しない地域）及び道路に面する地域のそれぞれについて地域の類型・区分及び時間の区分ごとに基準値を設定し、従来騒音の評価手法として騒音レベルの中央値（LA50）が用いられていましたが、近年国際的に採用されつつある等価騒音レベル（LAeq）に変更され平成11年4月1日に施行されました。（表-騒-1）

（表-騒-1）騒音に係る環境基準

「道路に面しない地域」（単位：dB）

地域の類型	基準値	
	昼間	夜間
AA	50	40
A及びB	55	45
C	60	50

AA：療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域  
 A：専ら住居の用に供される地域  
 B：主として住居の用に供される地域  
 C：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域

「道路に面する地域」

（単位：dB）

地域の区分	基準値	
	昼間	夜間
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60	55
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65	60

◇ 幹線交通を担う道路に近接する空間については、上表にかかわらず、特例として次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

【注】「幹線交通を担う道路」とは、次に掲げる道路をいうものとする。

- ① 道路法（昭和27年法律第180号）第3条に規定する高速自動車国道、一般国道、府道及び市町村道（市町村道にあつては、4車線以上の区間に限る。）
- ② ①に掲げる道路を除くほか、道路運送法（昭和26年法律第183号）第2条第8項に規定する一般自動車道であつて都市計画法施行規則（昭和44年建設省令第49号）第7条第1号に掲げる自動車専用道路

基 準 値	
昼 間 (6:00~22:00)	夜 間 (22:00~6:00)
70デシベル以下	65デシベル以下
備考：個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準（昼間にあつては45デシベル以下、夜間にあつては40デシベル以下）によることができる。	

## 2. 環境騒音

平成20年度の環境騒音測定は、「一般地域」23地点において、昼間、夜間で各2観測時間の測定を行い、「道路に面する地域」4地点においては、昼間、夜間の基準時間帯の騒音レベル測定を行い併せて昼・夜間の交通量調査（10分間）を行いました。

「道路に面しない地域」において、昼間では住居系地域（13地点）、商業系（5地点）、工業系（5地点）で環境基準を達成しています。夜間においては住居系地域（12地点）、商業系（4地点）、工業系（5地点）、で基準を達成しており、夜間（2地点）で達成しない理由として自然音（虫の声等）による影響があるためと考えられます。

「道路に面する地域」については、すべての時間帯において適合した地点は2地点で適合率50%であります。詳細、結果については（表-騒-2）のとおりです。

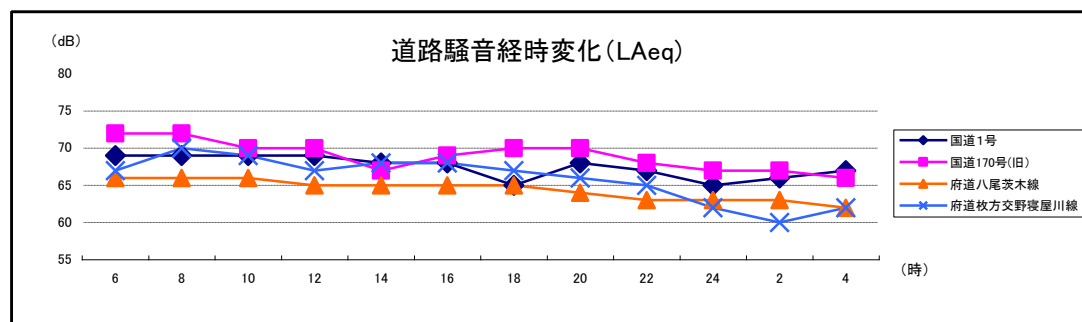
（表-騒-2）

### 「道路に面しない地域」

類 型	用途地域	昼 間		夜 間	
		適合数/地点数	適合率	適合数/地点数	適合率
A・B	住居系地域	13 / 13	100.0%	12 / 13	92.3%
C	商業系地域	5 / 5	100.0%	4 / 5	80.0%
	工業系地域	5 / 5	100.0%	5 / 5	100.0%
合 計		23 / 23	100.0%	21 / 23	91.3%

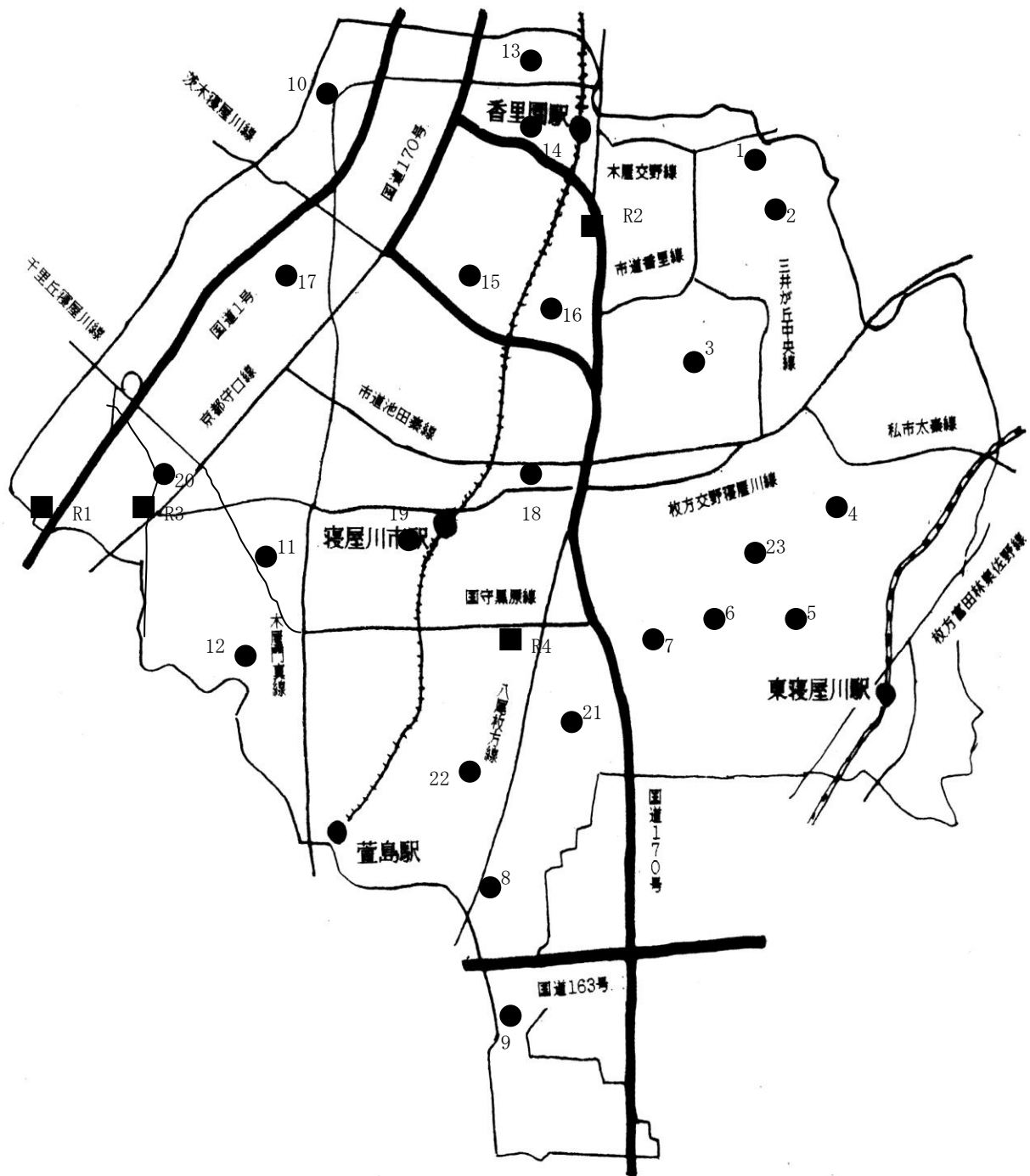
### 「道路に面する地域」

類 型	用途地域	昼 間		夜 間	
		適合数/地点数	適合率	適合数/地点数	適合率
近	住居系地域	2 / 2	100.0%	2 / 2	100.0%
	工業系地域	2 / 2	100.0%	0 / 2	0.0%
合 計		4 / 4	100.0%	2 / 4	50.0%





# 環境騒音測定地点



● 1～23 は道路に面しない地域のポイント

■ R1～R4 は道路に面する地域のポイント

## 平成 20 年度 環境騒音測定結果

### ○「道路に面しない地域」の適合状況

(単位：dB)

No.	測定地点	類型	用途地域	測定期間	昼間				適合状	支配的音源	夜間				適合状	支配的音源
					騒音レベル						騒音レベル					
					LAeq	LA05	LA50	LA95			LAeq	LA05	LA50	LA95		
1	成田東町25-8	A	第一種低層	9月22日	40	44	38	35	○	5,4,1	40	43	40	37	○	5,4,1
2	成田東が丘37-30	A	第一種低層	9月16日	36	40	34	31	○	5,4,6(7)	34	37	33	31	○	5,4,1
3	三井が丘4丁目7-4	A	第一種中高	9月16日	47	52	44	40	○	5,4	39	41	38	36	○	5,4
4	寝屋川公園1981	B	調整区域	9月8日	47	49	47	44	○	5,3,6(7)	42	44	42	40	○	5
5	打上新町17-28	B	第一種住居	9月8日	43	46	41	39	○	5,4,3	37	39	36	35	○	5,4
6	高宮あさひ丘49-2	B	第一種住居	7月7日	42	45	41	39	○	5,4,1	38	41	37	35	○	5
7	高宮あさひ丘12-12	A	第一種低層	7月10日	43	47	41	38	○	5,4,6(7)	38	41	37	35	○	5,2,1
8	讃良東町6-1	B	調整区域	7月14日	51	54	51	49	○	3,6(7)	44	45	43	42	○	3,6(7)
9	堀溝3丁目10-10	A	第一種中高	9月1日	42	45	40	38	○	5,4,(7)	38	40	38	36	○	5,4
10	太間町16-2	B	第一種住居	9月22日	51	53	50	46	○	1,5,4	53	56	52	46	×	1,5
11	高柳3丁目19-25	A	第二種中高	7月17日	47	51	46	43	○	5,4,3,6(7)	40	43	39	36	○	5,1,4
12	上神田2丁目2-2	A	第二種中高	7月17日	45	50	43	38	○	5,1,4	41	45	39	36	○	5,1
13	香里西之町19-2	C	近隣商業	7月24日	45	48	44	42	○	5,4,3,1	44	46	44	43	○	4
14	香里新町2-1	C	近隣商業	7月24日	52	55	51	49	○	4,3,6(7)	46	49	44	42	○	7
15	石津中町41-5	C	準工業	9月4日	46	48	45	43	○	5,4	43	46	43	41	○	5
16	緑町5-8	C	近隣商業	9月4日	48	51	47	45	○	7,5,4,6(7)	44	46	44	42	○	7,5,4,1
17	池中町3-24	C	準工業	7月31日	44	47	44	42	○	5,4,1,6(7)	42	44	42	40	○	5,4,1
18	本町1-1	C	近隣商業	9月11日	58	60	58	56	○	1,7	46	51	44	41	○	7,5,1
19	東大利町2-14	C	商業	9月11日	54	57	49	50	○	1,6(7)	51	55	51	47	×	1,5,6(7)
20	仁和寺本町3丁目18-5	C	準工業	7月31日	51	54	49	43	○	5,1,6(7)	35	38	35	34	○	4,5
21	楠根南町21-1	C	準工業	7月10日	50	53	49	46	○	4,3	39	41	39	37	○	5,4,1
22	下木田町16-50	C	準工業	7月14日	47	50	46	43	○	7,5,3	37	40	36	35	○	4,5
23	太秦東が丘12-1	A	第一種低層	7月7日	37	40	35	33	○	5,4	37	39	36	35	○	5,4

※支配的音源・・・1.自動車音 2.自動車以外の道路音 3.工場・事業所等の音 4.家庭音 5.自然音  
6.特殊音(ア 航空機 イ 鉄道 ウ 建設作業) 7.その他の音 8.不特定音

### ※環境基準

(単位：dB)

区分		昼	夜
A	第一種低層、第二種低層、第一種中高、第二種中高	55	45
B	第一種住居、第二種住居、準住居、調整区域	55	45
C	近隣商業、商業、準工業、工業	60	50

### ○「道路に面する地域」の適合状況

(単位：dB)

No.	測定地点	類型	用途地域	測定期間	昼間				適合状	夜間				適合状	車線数
					騒音レベル					騒音レベル					
					LAeq	LA05	LA50	LA95		LAeq	LA05	LA50	LA95		
1	仁和寺本町6丁目7-2	近	第一種住居	11月25日	68	71	67	52	○	66	71	65	50	×	4
2	田井町7-1	近	第二種住居	11月25日	70	74	68	53	○	67	74	56	40	×	4
3	仁和寺本町4丁目19-7	近	工業	11月25日	65	70	61	57	○	62	67	57	56	○	4
4	昭栄町17-5	近	準工業	11月25日	68	73	65	60	○	62	66	58	56	○	4

LAeq・・・等価騒音レベル LA05・・・90レンジの上端値 LA50・・・中央値 LA95・・・90レンジの下端値

### ○「道路に面する地域」の路線別面的評価結果

No.	路線名	評価結果(全体)									
		評価対象住居等戸数	近接空間				近接空間				
			昼間・夜間とも基準値以下	昼間のみ基準値以下	夜間のみ基準値以下	昼間・夜間とも基準値超過	評価対象住居等戸数	昼間・夜間とも基準値以下	昼間のみ基準値以下	夜間のみ基準値以下	昼間・夜間とも基準値超過
1	一般国道1号	1106	90.7%	7.3%	0.0%	2.0%	134	64.9%	29.9%	0.0%	5.2%
2	一般国道170号	2529	77.2%	10.6%	0.0%	12.3%	910	72.1%	18.1%	0.0%	9.8%
3	八尾茨木線	187	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4	枚方交野寝屋川線	2,777	97.8%	0.1%	0.3%	1.9%	1003	98.9%	0.2%	0.0%	0.9%

### ※環境基準

(単位：dB)

地域の区分	昼間	夜間
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60	55
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65	60

幹線交通を担う道路に近接する空間については、左表にかかわらず特例として次表の基準値の欄に掲げるものとする。

(単位：dB)

昼間	夜間
70	65

「幹線交通を担う道路」  
高速自動車国道、一般国道  
府道、市町村道(4車線以上)

※ 昼間：6:00～22:00  
夜間：22:00～6:00

## 道路交通量

道路名	車線数	道路種別	センサス番号		交通条件観測時刻	騒音測定側の車線 10分間交通量				騒音測定の反対側の車線 10分間交通量				平均走行観測時刻	騒音測定側の車線 平均走行速度	騒音測定側の反対 車線平均走行速度	騒音測定側の反対 車線平均走行速度	当該時間の等価騒音 レベル
			市町村コード	区間番号		大型 I	大型 II	小型	二輪	大型 I	大型 II	小型	二輪					
国道1号	4	3	27215	1004	2:50	13	16	84	8	18	15	71	3	2:50	72	72	67	
					10:00	68	53	212	5	69	43	203	8	10:00	59	59	67	
					15:50	61	54	225	11	57	52	236	9	15:50	53	53	67	
					23:10	15	19	163	13	21	11	123	5	23:10	68	68	66	
国道170号	2	3	27215	1039	2:20	1	0	11	3	0	1	20	4	2:20	59	59	67	
					9:10	2	8	81	12	1	9	72	9	9:10	46	46	70	
					15:20	3	8	83	14	4	5	95	11	15:20	45	45	67	
					22:40	1	2	34	8	2	0	52	4	22:40	56	56	67	
府道 八尾茨木線	2	4	27215	44020	3:10	0	0	4	0	0	1	2	0	3:10	45	45	60	
					10:20	2	3	26	3	3	4	18	1	10:20	40	40	66	
					16:10	1	0	18	2	0	2	15	1	16:10	42	42	65	
					23:30	1	1	7	0	0	3	6	1	23:30	45	45	62	
府道 枚方交野 環屋川線	4	4	27215	44008	0:30	0	2	8	1	0	2	4	2	0:30	48	48	60	
					10:40	3	8	30	3	1	7	35	6	10:40	42	42	69	
					16:30	2	6	39	6	5	8	42	5	16:30	43	43	68	
					23:50	1	1	16	3	0	0	17	2	23:50	48	48	63	

【道路種別】 国土開発幹線自動車道等(高速自動車道路)・・・1 都市高速道路・・・2 一般国道・・・3 都道府県道・・・4  
4車線以上の市町村道・・・5 その他の道路・・・6

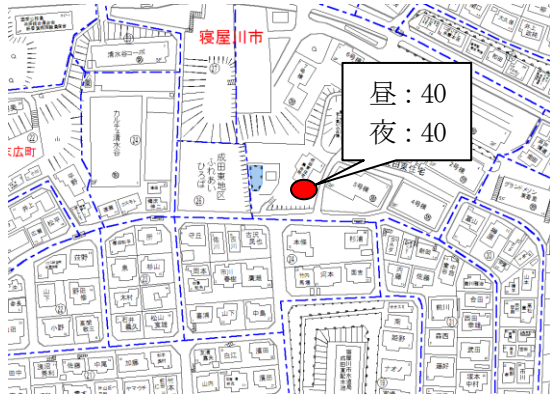


平成 20 年度環境騒音モニタリング調査

「道路に面しない地域」

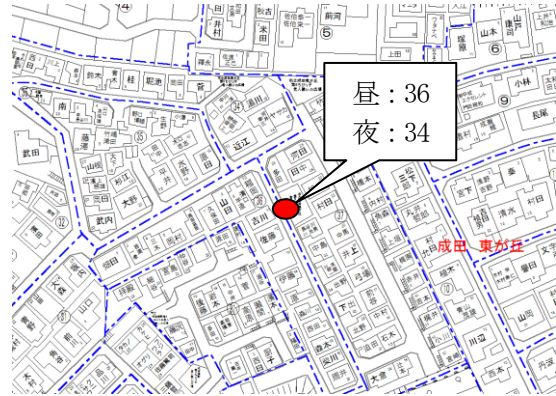
No.1 成田東町 25-8

(第一種低層)



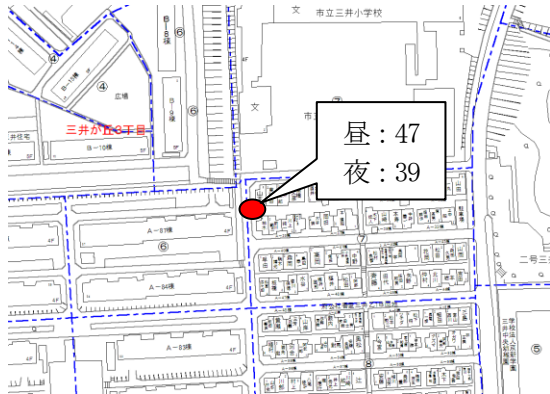
No.2 成田東が丘 37-30

(第一種低層)



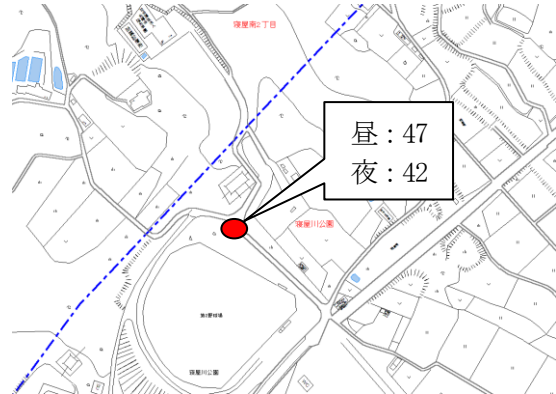
No.3 三井が丘 4丁目 7-4

(第一種中高)



No.4 寝屋川公園 1981

(調整区域)



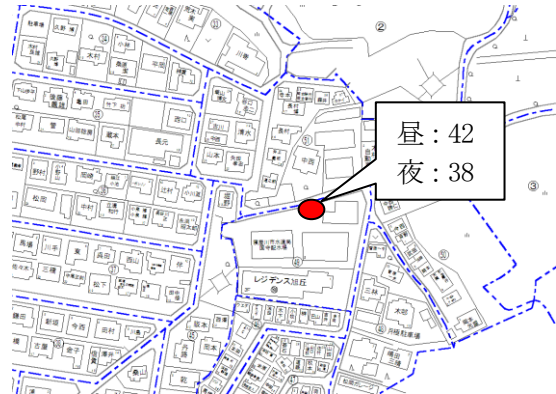
No.5 打上新町 17-28

(第一種住居)



No.6 高宮あさひ丘 49-2

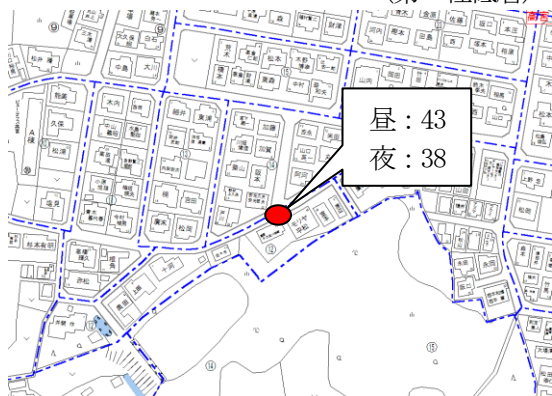
(第一種住居)





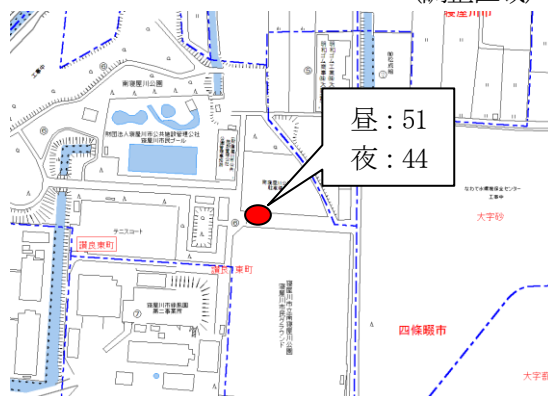
No.7 高宮あさひ丘 12-12

(第一種低層)



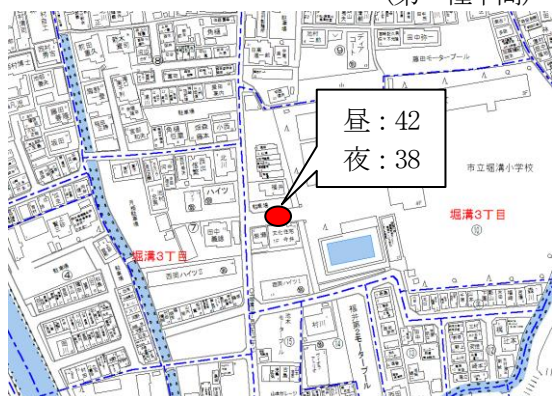
No.8 讃良東町 6-1

(調整区域)



No.9 堀溝 3丁目 10-10

(第一種中高)



No.10 太間町 16-2

(第一種住居)



No.11 高柳 3丁目 19-25

(第二種中高)



No.12 上神田 2丁目 2-2

(第二種中高)



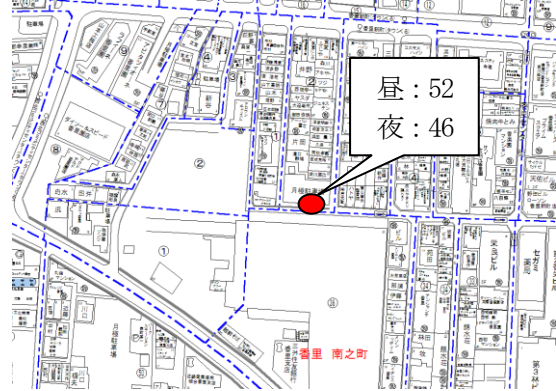
No.13 香里西之町 19-2

(近隣商業)



No.14 香里新町 2-1

(近隣商業)



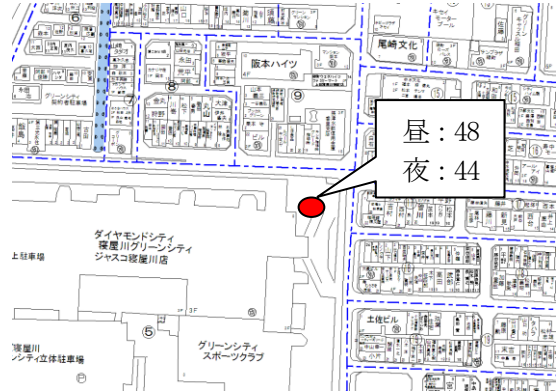
No.15 石津中町 41-5

(準工業)



No.16 緑町 5-8

(近隣商業)



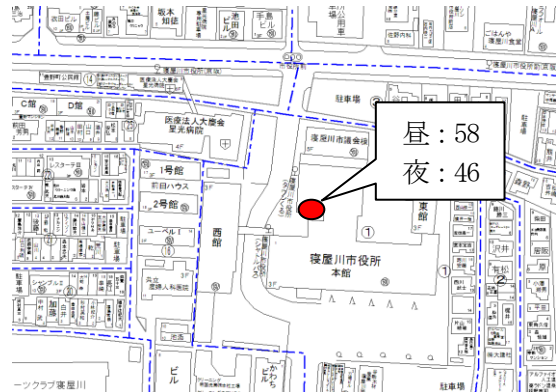
No.17 池田中町 3-24

(準工業)



No.18 本町 1-1

(近隣商業)





No.19 東大和町 2-14

(商業)



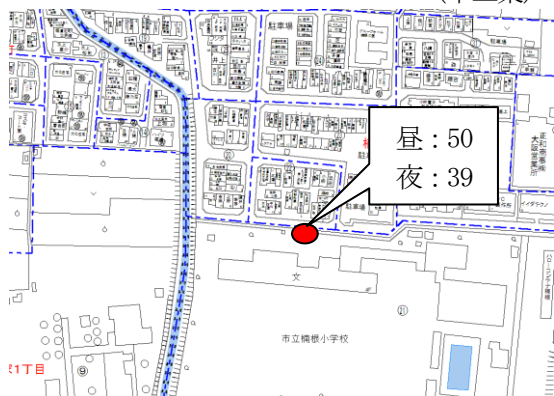
No.20 仁和寺本町 3丁目 18-5

(準工業)



No.21 楠根南町 21-1

(準工業)



No.22 下木田町 16-50

(準工業)



No.23 太秦東が丘 12-1

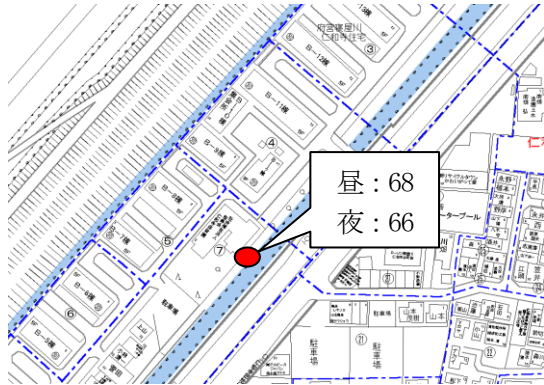
(第一種低層)



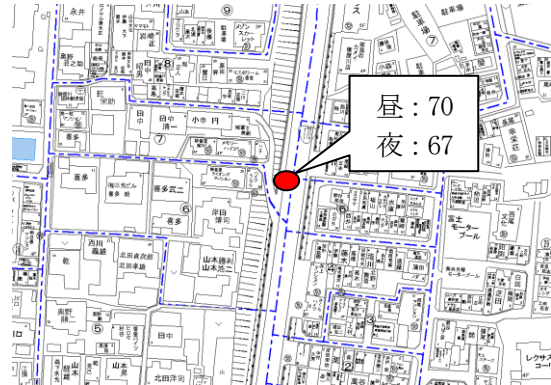
平成 20 年度環境騒音モニタリング調査

「道路に面する地域」

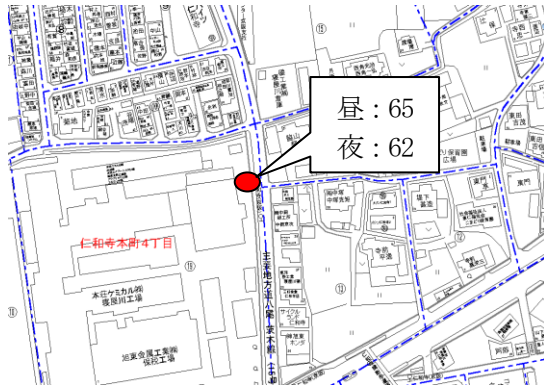
No.1 仁和寺本町 6 丁目 7-2 (第一種住居)  
国道 1 号



No.2 田井町 7-1 (第二種住居)  
国道 170 号



No.3 仁和寺本町 4 丁目 19-7 (工業)  
府道八尾茨木線



No.4 昭栄町 17-5 (準工業)  
府道枚方交野寝屋川線





## 第2節 騒音・振動苦情の現状

騒音・振動問題は、各種の公害の中で比較的日常生活に密接な関係を持っており、特に騒音は、苦情の中で最も多くを占めています。

工場・事業場からの騒音、建設作業騒音、飲食店からの営業騒音、また家庭の日常生活から生じる生活騒音（クーラー、ピアノ、ステレオ等）が社会問題となっていますが、最近においては、飲食店などのカラオケ騒音が苦情の多くを占めており、一向に減少しないのが現状であります。

対策として苦情が発生した加害店舗については、深夜のパトロールを行い、音量、カラオケの使用時間帯の調査をし、文章による指導あるいは立入指導、場合によっては店舗の改善等の指導も行っています。

### (1) カラオケ騒音規制

飲食店などのカラオケ騒音については、大阪府生活環境の保全等に関する条例で午後 11 時から翌日の午前 6 時までカラオケなどの音響機器の使用を禁止しています。

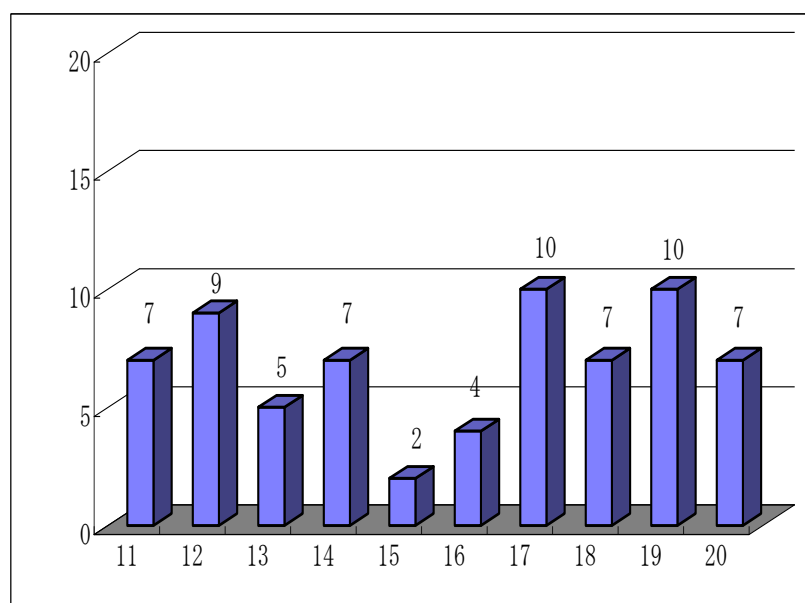
### (2) 生活騒音

日常生活において、発生する音で「うるさい」と感じると生活騒音となります。主に感覚的、心理的なものであり、ペットの鳴き声、マンションの給排水の音、クーラーの室外機の音など一般家庭から生じる音はお互いが加害者になったり、被害者になったりし、感情的なトラブルが原因となるケースが多く、日常生活のルールづくりが生活騒音の防止につながります。

また、原因のほとんどが法・条例で規制できるものでないため、解決が困難であり、できるだけ近隣同士で話し合いをし、解決をしています。場合によっては指導をしています。

### カラオケ苦情

年 度	件 数
平成 1 1	7
1 2	9
1 3	5
1 4	7
1 5	2
1 6	4
1 7	1 0
1 8	7
1 9	1 0
2 0	7



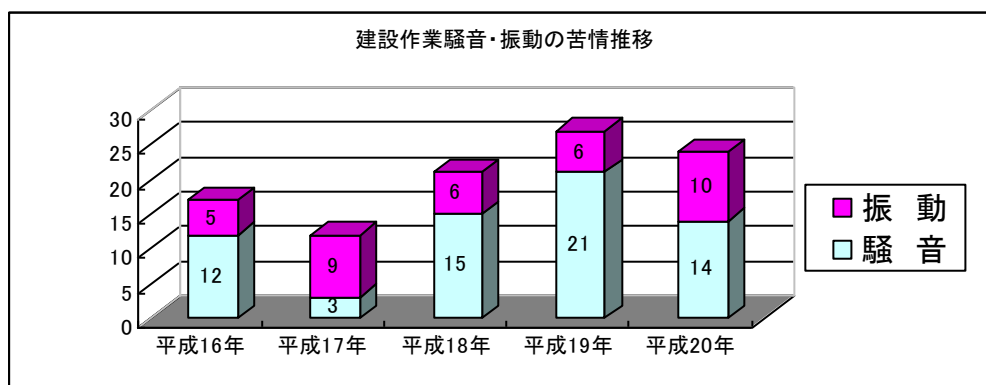
### (3) 建設作業の騒音・振動

建設工事には、建築工事、土木工事、解体工事等があり、ショベル系掘削機等重機を使用する作業に伴い発生する騒音・振動が問題となっています。

建設工事は、法においては一過性であることを考慮し、特定建設作業の指定と騒音・振動の大きさ、作業時間の制約により環境保全を行うとし、騒音・振動レベルが規制基準より小さくても生活環境は、十分でないことで苦情が発生することがあります。また、立地条件により防止策に限界があり、音源の移動、衝撃的な音源が多く、連続性、間欠性、不規則性があり、重機等のオペレータに左右されることが多々あります。

建設作業騒音・振動の苦情推移

区分	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
騒音	12	3	15	21	14
振動	5	9	6	6	10



### (4) 低周波音

人間の耳に聞こえる音の周波数は20～20,000Hzといわれています。

普通の騒音ではこの範囲ですが、1～20Hzの耳に聞こえない低い周波数の騒音が超低周波騒音です。

通常は100Hz以下の騒音は低周波騒音と呼ばれ、両者を共にして低周波騒音としています。

低周波音の発生源は多種多様であり、工場施設、交通機関などからの低周波音が観測されており、さらに車中やビルの中といった生活環境中においても車の走行やビルの空調による低周波音が観測されています。主なもので、大型の送風機、空気圧縮機、ボイラー、ディーゼルエンジンなどがあります。

低周波音は、耳に聞こえない分厄介で理解されにくく、普段身の回りに存在するが気付かれることは少なく、家屋の構造、本人の低周波に対する敏感さにもよります。

低周波音の人の健康に及ぼす影響については、一般に頭痛、不眠、イライラ、耳鳴り、胸の圧迫感によるめまい、吐き気、その他動悸などの自覚症状があり、心理的にも影響を与えます。

### 第3節 法律・条例による規制

#### 1. 工場・事業場に係る騒音の規制

昭和43年6月に騒音規制法、又振動についても昭和51年6月に振動規制法が制定され、工場・事業場から発生する騒音・振動の基準が定められています。大阪府生活環境の保全等に関する条例では、工業専用地域の一部を除く地域を規制地域とし、届出の拡大をはかるとともに工場・事業場から発生する騒音・振動を規制しています。

また、建設作業のうち特に騒音・振動の大きい、くい打ち機・削岩機・バックホウなどを使用する作業については、騒音規制法、振動規制法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例によって特定建設作業として、規制の対象になっており、これらの作業について規制基準が定められており、又作業時間も制限されています。

#### ○騒音規制法に基づく規制基準

#### 騒音規制法第4条第1項

時間の区分 区域の区分		朝 (午前6時～午前8時まで) 夕 (午後6時～午後9時まで) (単位 デシベル)	昼 間 (午前8時～午後6時まで) (単位 デシベル)	夜 間 (午後9時～午前6時まで) (単位 デシベル)
		第一種区域	45	50
第二種区域	50	55	45	
第三種区域	60	65	55	
第四種区域	既設の学校、保育所等の周囲50メートルの区域及び第二種区域の境界線から15メートル以内の区域	60	65	55
	その他の区域	65	70	60

#### 備 考

- 測定点は、工場又は事業場の敷地境界線上とする。ただし、敷地境界線上において測定することが適当でないと認められる場合は、敷地境界線以遠の任意の地点において測定することができるものとする。
- 「第一種区域」、「第二種区域」、「第三種区域」及び「第四種区域」とは、それぞれ次の各号に掲げる地域をいう。
  - 第一種区域 都市計画法（昭和43年法律第100号）第2章の規定により定められた第一種低層住居専用地域及び第二種低層住居専用地域
  - 第二種区域 都市計画法第2章の規定により定められた第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域及び準住居地域並びに同法第8条第1項第1号に規定する用途地域の指定のない地域
  - 第三種区域 都市計画法第2章の規定により定められた近隣商業地域、商業地域及び準工業地域
  - 第四種区域 都市計画法第2章の規定により定められた工業地域
- 「既設の学校、保育所等」とは、学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定する保育所、医療法（昭和23年法律第205号）第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するものであって、第四種区域及びその周辺50メートルの区域内に昭和45年4月1日において既に設置されているもの（同日において既に着工されているものを含む。）をいう。
- 第二種区域内に昭和49年7月1日において既に設置されている特定工場等（同日において既に着工されているものを含む。）については、昭和50年6月30日までの間、昭和46年大阪府告示第1815号の表に掲げる第二種区域の基準を適用する。

○自動車騒音の限度

区域の区分	基準値	
	昼間 (午前6時 ～午後10時まで)	夜間 (午後10時 ～翌日の午前6時まで)
a区域及びb区域のうち一車線を有する道路に面する区域	65デシベル	55デシベル
a区域のうち二車線以上の車線を有する道路に面する区域	70デシベル	65デシベル
b区域のうち二車線以上の車線を有する道路に面する区域及びc区域のうち車線を有する道路に面する区域	75デシベル	70デシベル

上記に掲げる区域のうち幹線交通を担う道路に近接する区域にかかる限度は下記のとおりとする。

基準値	
昼間 (午前6時～午後10時まで)	夜間 (午後10時～翌日の午前6時まで)
75デシベル	70デシベル

㊦「幹線交通を担う道路」

- ① 道路法（昭和27年法律第180号）第3条に規定する高速自動車国道、一般国道、府道及び市町村道（市町村道にあつては、4車線以上の区間に限る。）
- ② 道路運送法（昭和26年法律第183号）第2条第8項に規定する一般自動車道であつて都市計画法施行規則（昭和44年建設省令第49号）第7条第1号に掲げる自動車専用道路
- ③ 「幹線交通を担う道路に近接する区域」とは、次の車線数の区分に応じ道路端からの距離によりその範囲を特定するものとする。
  1. 2車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 15メートル
  2. 2車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路 20メートル

地域類型ごとに当てはまる地域の指定

地域の類型	該当地域
a	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域
b	第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、用途地域の指定のない地域
c	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域

〈自動車騒音の測定方法〉

1. 当該道路のうち原則として交差点を除く部分に係る自動車騒音を対象とし、連続する7日間のうち当該自動車騒音の状況を代表すると認められる3日間について行うものとする。
2. 騒音の評価手法は、等価騒音レベルによるものとする。
3. 測定方法は、原則として、日本工業規格Z8731に定める騒音レベルの測定方法によるものとする。
4. 自動車騒音以外の騒音又は当該道路以外の道路に係る自動車騒音による影響があると認められる場合は、これらの影響を勘案し実測値を補正するものとする。
5. 騒音の大きさは、測定した値を時間の区分ごとに3日間の原則として全時間を通じてエネルギー平均した値とする。

○振動規制法に基づく規制基準

振動規制法第4条第1項

時間の区分 区域の区分		昼 間 (午前6時 ～午後9時まで) (単位 デシベル)	夜 間 (午後9時 ～翌日の午前6時まで) (単位 デシベル)
		第一種区域	60
第二種区域(Ⅰ)		65	60
第一種区域(Ⅱ)	既設の学校、保育所等の敷地の周囲50メートルの区域及び第一種区域の境界線から15メートル以内の地域	65	60
	その他の区域	70	65

備考

- 測定場所は、原則として工場又は事業場の敷地境界線とする。
- 「第一種区域」、「第二種区域(Ⅰ)」及び「第二種区域(Ⅱ)」とは、それぞれ次の各号に掲げる地域をいう。
  - 第一種区域 都市計画法(昭和43年法律第100号)第2章の規定により定められた第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域及び準住居地域並びに同法第8条第1項第1号に規定する用途地域の指定のない地域
  - 第二種区域(Ⅰ) 都市計画法第2章の規定により定められた近隣商業地域、商業地域及び準工業地域
  - 第二種区域(Ⅱ) 都市計画法第2章の規定により定められた工業地域
- 「既設の学校、保育所等」とは、学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校、児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条第1項に規定する保育所、医療法(昭和23年法律第205号)第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館並びに老人福祉法(昭和38年法律第133号)第5条の3第3項に規定する特別養護老人ホームであつて、昭和52年12月1日において既に設置されているもの(同日において既に着工されているものを含む。)をいう。

○振動規制法に基づく道路交通振動の限度

振動規制法第16条第1項

時間の区分 区域の区分	昼 間 (午前6時 ～午後9時まで)	夜 間 (午後9時 ～翌日の午前6時まで)
	第一種区域	65デシベル
第二種区域	70デシベル	65デシベル

備考

- 振動の測定場所は、道路の敷地の境界線とする。
- 振動の測定は、当該道路に係る道路交通振動を対象とし、当該道路交通振動の状況を代表すると認められる1日について、昼間及び夜間の区分ごとに1時間あたり1回以上の測定を4時間以上行うものとする。
- 振動レベルは、5秒間隔、100個又はこれに準ずる間隔、個数の測定値の80パーセントレンジの上端値を、昼間及び夜間の区分ごとにすべてについて平均した数値とする。
- 「第一種区域」及び「第二種区域」とは、振動規制法に基づく道路交通振動の限度に係る区域及び時間の区分に掲げる区域をいう。

## 2. 届出調査状況

騒音規制法・振動規制法、大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づく特定（届出）施設設置事業場数は、次のとおりです。

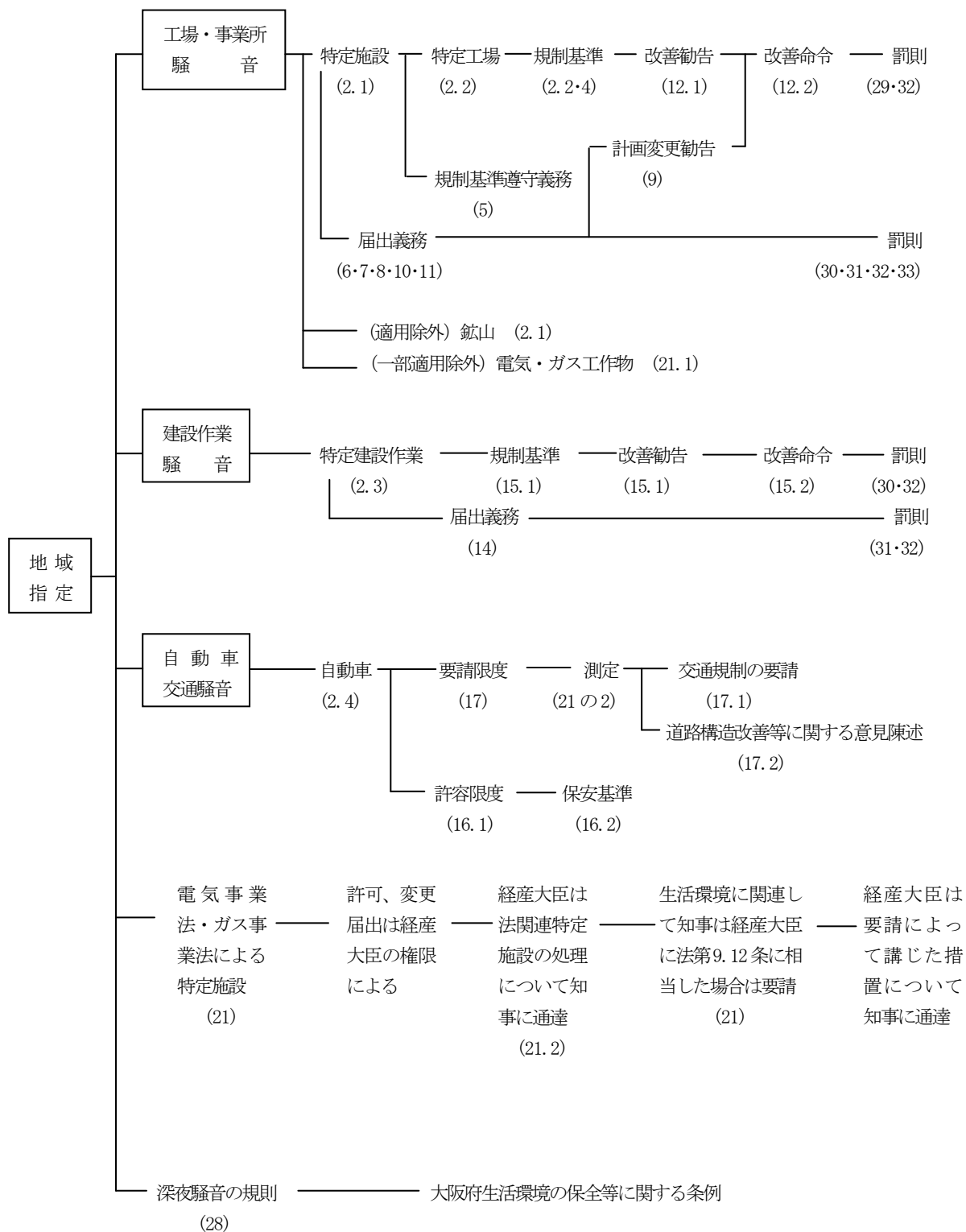
### ○法律・条例関係の届出

種別 対 象	騒音規制法	振動規制法	大阪府条例	
			騒 音	振 動
設 置	2	2	2	
変 更	1	2		
廃 止	2	2		
承 継	2	2		
氏名変更	6	6		
合 計	13	14	2	0

### ○施設設置状況

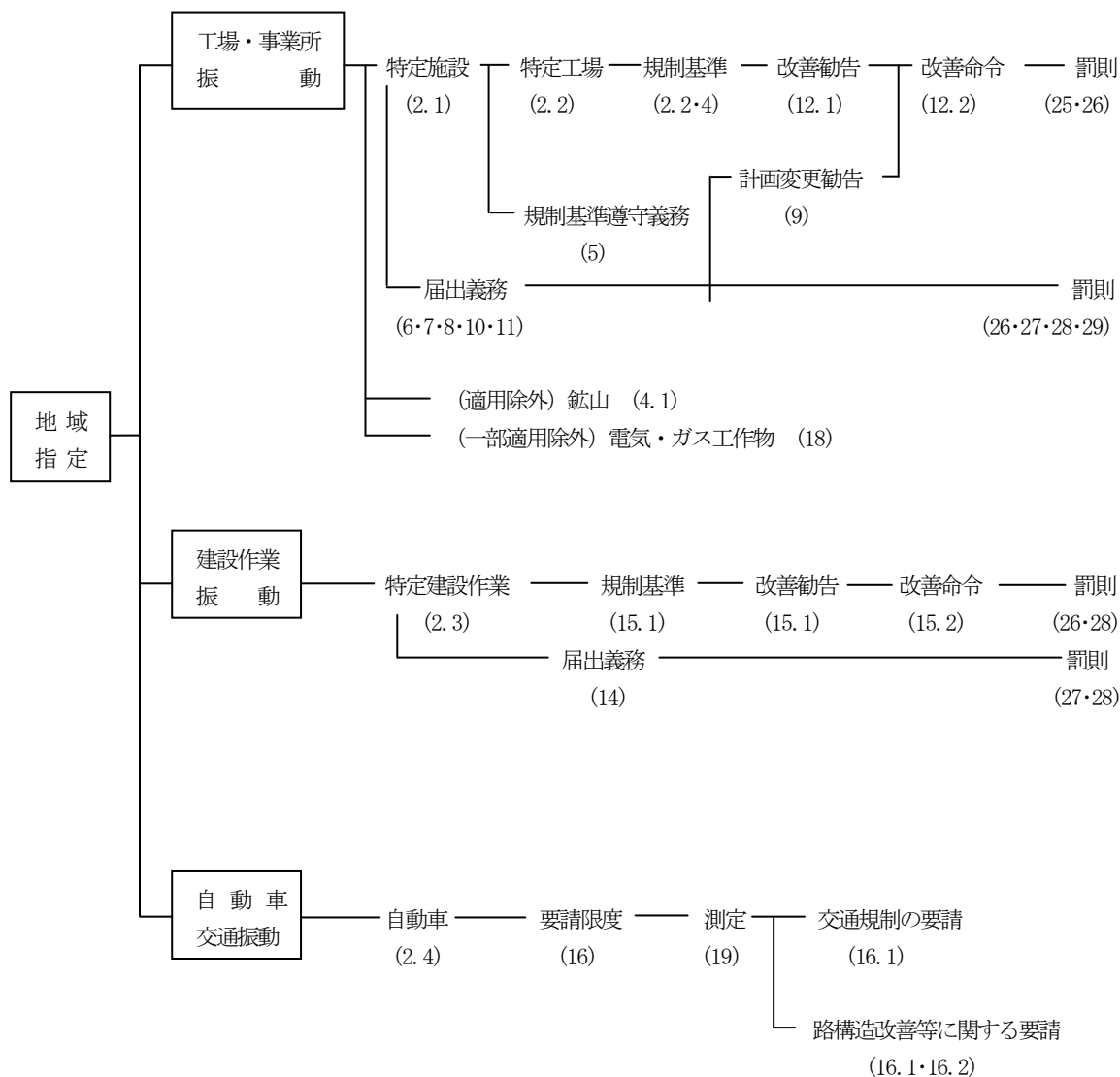
施設の種類 届出の種類	騒音規制法	振動規制法	大阪府条例	
			騒 音	振 動
金属加工機械	132	95	71	44
圧縮機及び送風機	170	78	46	12
粉砕機	8	4	4	7
繊維機械	6		4	1
建設用資材製造機械	21	1	2	2
木材加工用機械	21		14	1
抄紙機	3			
印刷機械	33	15		1
ロール機		1	3	3
合成樹脂成形加工機械	47	25	5	8
鋳造型機	5			
エヤーハンマ				
走行クレーン			4	7
工業用動力ミシン			13	
紙工機械			7	6
遠心分離機				
集じん装置			4	
かくはん機			3	
電気炉			1	
ロータリーキルン				
冷凍機及び空調機			45	
クーリングタワー			38	
スチームクリーナー			1	
石材用の切断機及び切削機				
オイルバーナー			1	

## 騒音規制法の体系図



注 ( )書きは条文です。  
(2.1)は第2条第1項を表します。

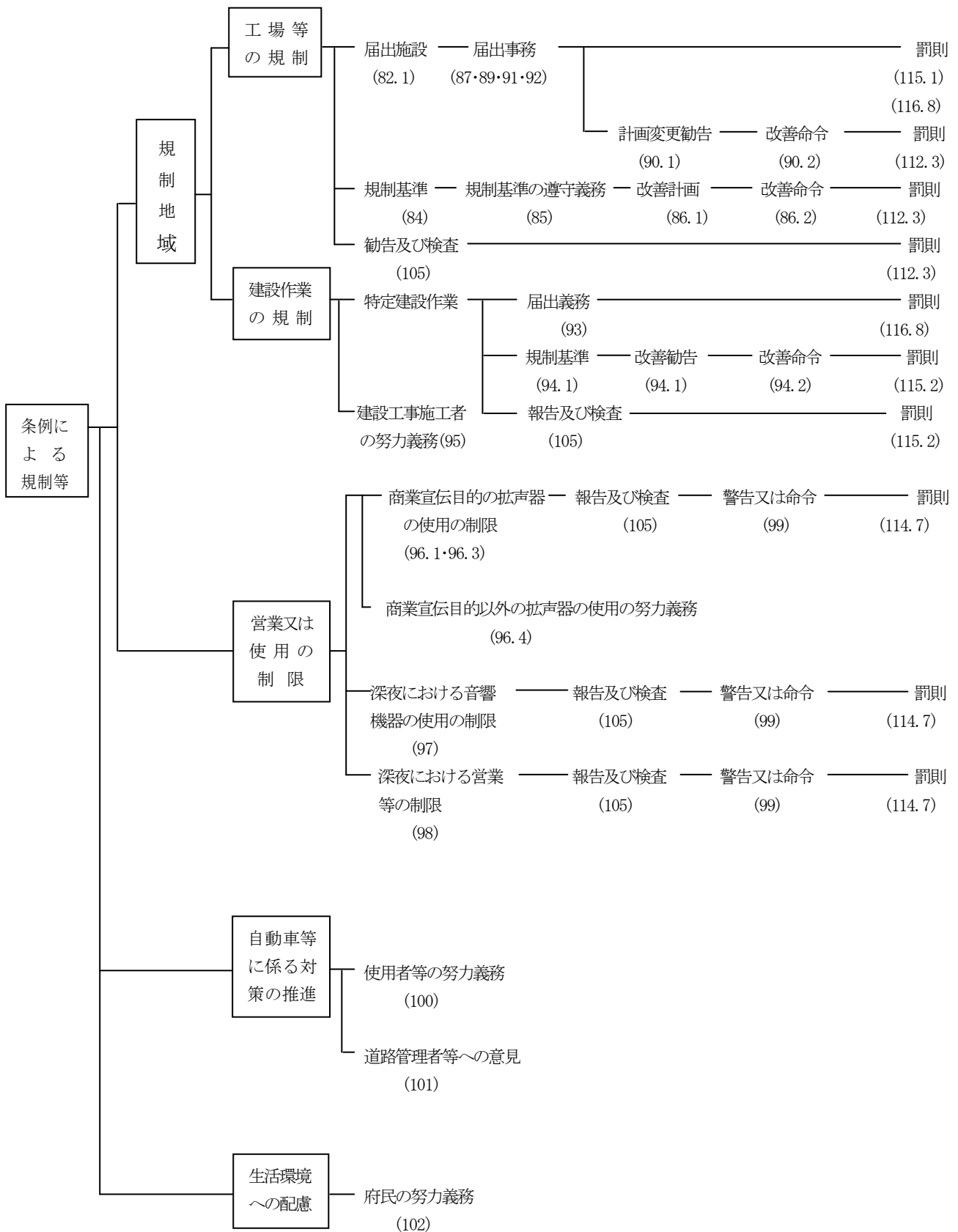
## 振動規制法の体系図



- 注 1. 図に掲げた項目以外に、報告徴収・立入検査(17)、事務の委任(23) 条例との関係(24)等について定めてあります。
2. 図中の( )書きは条文です。  
 (15.1)は第15条第1項の意味です。



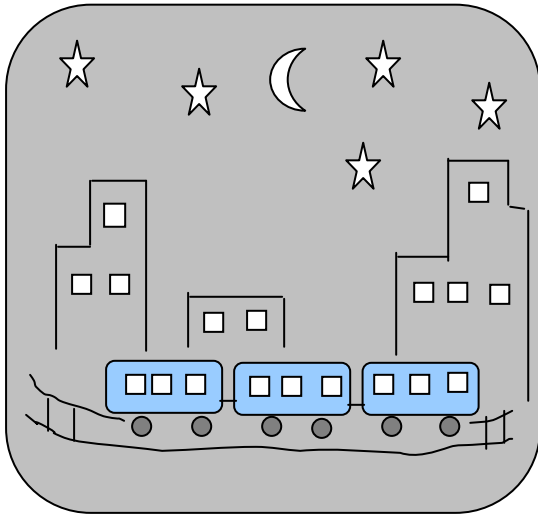
大阪府生活環境の保全等に関する条例による騒音・振動の規制体系図



注 ( )書きは条文です。  
(96.1)は第96条第1項を表します。

○啓発用リーフレット

経営者のみなさんへ



カラオケは11時まで

○深夜における音響機器の使用制限（大阪府生活環境の保全等に関する条例第97条）

・飲食店など営業目的でカラオケ装置を使用する場合は、午後11時から翌日の午前6時までの間、カラオケ装置の使用はしてはいけません。

- ・カラオケ装置から発する音が防音装置を講ずることにより外部に漏れない場合
- ・飲食店等の周囲 50m以内の区域に人の住居の用に供されていない建物及び病院等、特に静穏を必要とする施設がない場合など規則の適用を受けません。

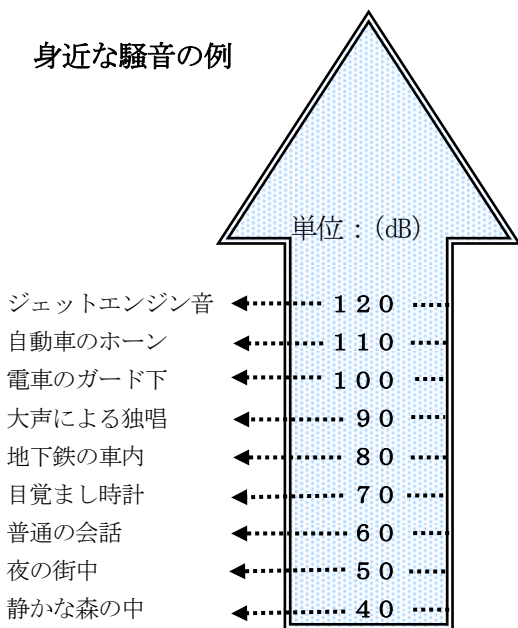
音の大きさの基準を守りましょう！

○騒音の規制基準（騒音規制法第4条）

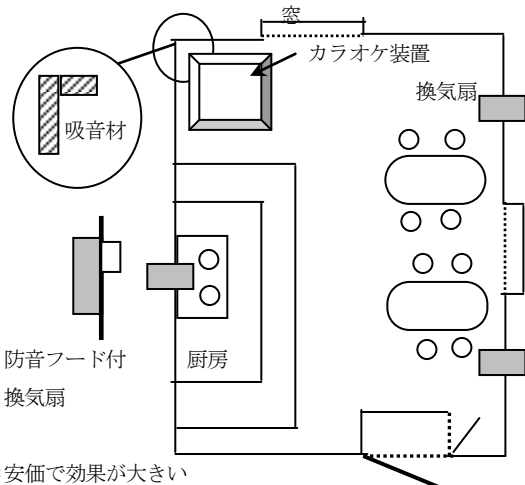
事業場（飲食店等を含む）は、工場と同様にその敷地境界線上で、音の大きさの基準を守らなければいけません。

時間区分 区域区分	昼間	夜間	朝
	am 8:00 pm 6:00	pm 9:00 翌日 am 6:00	{ am 6:00 am 8:00 夕 pm 6:00 pm 9:00 }
第一種低層住居地域	50	40	45
第一・二種中高層、第一・二種住居、準住居地域、調整区域	55	45	50
近隣商業・商業地域、準工業地域	65	55	60
工業地域	70	60	65
工業地域で学校・病院等の周辺など	65	55	60

身近な騒音の例



防音レイアウト



- \* 安価で効果が大い
- \* ドアは防音タイプや二重であれば効果大
- \* 吸音材入り防音壁又はコンクリートブロック等も良い

## 第6章 地盤環境



### ◇椎の社叢〔春日神社内〕

「社叢」とは神社の森のことで、国松地区の氏神である春日神社は樹齢数百年もの巨大なシイの森の中に静かにたたずんでいます。

うっそうとした境内に入ると、シイの勇姿とその荘厳さに圧倒されそうになります。なかでも拝殿横のシイは、周囲が4 mを超えるもので、重量感にあふれ、境内のシイは、昭和56年6月1日に大阪府から天然記念物の指定を受けています。



## 第6章 地盤環境

### 第1節 地盤沈下

#### 1. 地盤沈下の現状

地盤沈下は、地殻変動などの自然現象によるものと、人為的に地下水の過剰汲み上げによるものがあります。

公害として扱われるのは、地下水の過剰な汲み上げによって帯水層の水圧が減圧し、各種の地層が圧密沈下をおこし、知らず知らずのうちに市民生活に影響を与え建物、道路、ガス、水道などの埋設物の破損、井戸の枯渇、河川の氾濫、高潮による災害、取排水施設の機能低下などで、地盤沈下の被害は非常に深刻なものであります。また、一度沈下すると現状に回復することはほとんど不可能で、常に監視してその沈下を防がなければなりません。

大阪府における地盤沈下は、明治18年に当時の陸軍陸地測量部（現在：国土地理院）が実施した水準測量により地盤沈下の徴候が明らかにされたことに始まります。当時、地盤沈下はそれほど大きなものではなかったが、昭和に入り産業が発達するにつれ、工業用水として地下水が多量に汲み上げられてから地盤沈下量も増大しました。

このような経過の中で、昭和31年に工場用水法、昭和37年に建築物用地下水の採取の規制に関する法律が制定され、東京都、大阪府をはじめ宮城県、千葉県、神奈川県など地盤沈下を示している地域における工業用や建築物用の地下水採取が規制されました。その結果、大阪府における地盤沈下は、鎮静化しましたが、現在でも沈下が認められる地域もあります。

#### 2. 寝屋川市の地盤沈下

本市の地盤沈下は、昭和30年代から昭和40年代にかけて、数cmの沈下を続けていましたが、年々減少の傾向をたどり、昭和50年度から平成20年度までの間、平均して1cm以下の沈下または、隆起量でほぼ鎮静化しています。（表―地―2・3）

また、大阪府生活環境の保全等に関する条例及び同施行規則により、地下水採取の規制を受ける地域及び技術的基準は（表―地―1）のとおりです。

（表―地―1）

地 域		寝屋川市域のうち、一般国道 170 号以西で、一般国道 163 号以北の地域	寝屋川市域のうち、一般国道 163 号以南の地域
技 術 的 基 準	揚水機の吐出口の断面積	46 平方センチメートル以下	21 平方センチメートル以下
	ストレーナーの位置	地表面下 180 m 以深	地表面下 350 m 以深

(表一地-2) 東大阪地域代表地点沈下量

(単位：cm)

市名	所在地	年間変動量					累積沈下量
		16	17	18	19	20	
寝屋川市	点野1丁目	未測定	-0.25	未測定	+0.4	未測定	-35.31
枚方市	出口2丁目	未測定	-0.41	未測定	+0.44	未測定	-12.61
守口市	京阪本通2丁目	未測定	-0.23	未測定	+0.63	未測定	-23.05
門真市	下馬伏	未測定	-0.58	未測定	+0.97	未測定	-56.90
大東市	浜町2-12	未測定	-0.53	未測定	+1.29	未測定	-114.89
大東市	灰塚3-7	未測定	-0.85	未測定	+1.33	未測定	-92.69
東大阪市	本庄1240-1	未測定	-0.99	未測定	+0.39	未測定	-84.47
東大阪市	高井田本通1丁目	未測定	-0.11	未測定	+1.19	未測定	-68.48
東大阪市	荒本北30	未測定	欠側	未測定	未測定	未測定	-90.65
八尾市	本町4丁目1	未測定	+0.11	未測定	+0.54	未測定	-42.10

注)「累積沈下量」は昭和39年度からの累積沈下量を示したものです。

(-)は沈下、(+)は隆起を示す。

(表一地-3) 寝屋川市点野1丁目水準点沈下量

寝屋川市 標石番号 府203 所在地：点野1丁目 淀川新橋下流約350m堤防上							
年度	標高 (m)	沈下量 (cm)	累計沈下量 (cm)	年度	標高 (m)	沈下量 (cm)	累計沈下量 (cm)
昭和60年	9.4430	-0.68	-35.17	9年	9.4362	-0.39	-35.85
61年	9.4509	0.79	-34.38	10年	9.4389	0.27	-35.58
62年	9.4500	-0.09	-34.47	11年	9.4430	0.41	-35.17
63年	9.4490	-0.10	-34.57	12年	未測定	-	-35.17
平成元年	9.4447	-0.43	-35.00	13年	9.4399	-0.31	-35.48
2年	9.4464	0.17	-34.83	14年	未測定	-	-35.48
3年	9.4450	-0.14	-34.97	15年	9.4401	0.02	-35.46
4年	9.4431	-0.19	-35.16	16年	未測定	-	-35.46
5年	9.4451	0.20	-34.96	17年	9.4376	-0.25	-35.71
6年	9.4376	-0.75	-35.71	18年	未測定	-	-35.71
7年	9.4410	0.34	-35.37	19年	9.4416	0.4	-35.31
8年	9.4401	-0.09	-35.46	20年	9.4416	0.4	-35.31

\*TP：東京湾中等潮位

資料：大阪府環境管理室

注)「沈下量」欄の平成7年は阪神・淡路大震災の影響を含んだ沈下量である。

## 第2節 地下水汚染

地下水は、温度が一定で清浄な水であることから飲用に利用されるなど身近な水資源として住民に親しまれ、都市用水等として重要な役割を果たしています。しかしながら、近年一部の地域で有機塩素系化合物等による広範囲な地下水汚染が明らかになっています。地下水は、地層の隙間を流れているため地表水に比べ流れが遅いという特性があるため、いったん汚染されるとその浄化が非常に困難であり、地下水汚染対策には、汚染の未然防止を図る観点から近年、法改正等種々の施策が行われています。

平成元年6月に地下水汚染の未然防止を図るため、水質汚濁防止法の一部改正が行われ、新たにトリクロロエチレン、テトラクロロエチレンが有害物質に追加され、有害物質を含む水の地下浸透禁止及び地下水質の常時監視が規定されました。次に、平成5年に水質汚濁に係る環境基準に15項目が追加されたことにより、地下水の監視について23項目の評価基準が定められ、平成9年3月に評価基準は、地下水環境基準となりました。また、平成8年の水質汚濁防止法の改正により地下水を汚染した者に対する地下水浄化措置命令が規定され、地下水浄化に関して法的な規制がかかることになりました。さらに、平成11年2月に3項目が追加され、地下水に関する環境基準は26項目となりました。(地下水の環境基準(表一地-4))

大阪府では、地下水の水質の概況を把握するため地下水使用個所で定期的に地下水の水質調査を実施しており、本市においても実態把握するために同様の調査を行っています。地下水調査には、地下水の水質概況を把握するため、長期的な経年変化を見るために実施する概況調査(2地区)と、様々な調査により発見された汚染について、その範囲を確認するために実施する汚染井戸周辺調査があります。また、確認された汚染の継続的な監視等経年的なモニタリングとして定期的に実施する定期モニタリング調査があります。

平成20年度には、「大阪府地下水質測定計画」に基づき2地区(寝屋南、点野)の井戸水について、地下水の水質汚濁に係る環境基準25項目等について概況調査を行ないましたが、結果は2地区とも環境基準値以下でした。(表一地-5)

定期モニタリング調査については、木田元宮地区及び出雲町地区の事業者が自主的に土壌・地下水調査を実施したところ、揮発性有機化合物による地下水汚染がそれぞれ判明しました。このため、寝屋川市では「大阪府地下水質保全対策要領」に基づき、寝屋川市・大阪府保健所等による「地下水質汚染地区対策会議」を設置し、環境省「土壌・地下水汚染に係る調査対策指針」に従い、汚染井戸周辺地区調査等を行うとともに、事業者を指導しました。調査の結果、汚染は事業場内にとどまっており、周辺への汚染の広がりが無いことが確認されました。現在、事業者による地下水の浄化を行うとともに、地下水汚染の広がりが無いことを確認するため、本市による定期モニタリング調査を毎年2回実施しています。(表一地-6)

(表-地-4) 地下水の環境基準

項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カドミウム	0.01mg/L以下	1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L以下
全シアン	検出されないこと	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下
鉛	0.01mg/L以下	トリクロロエチレン	0.03mg/L以下
六価クロム	0.05mg/L以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下
砒素	0.01mg/L以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下
総水銀	0.0005mg/L以下	チウラム	0.006mg/L以下
アルキル水銀	検出されないこと	シマジン	0.003mg/L以下
P C B	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02mg/L以下
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	ベンゼン	0.01mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下	セレン	0.01mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.02mg/L以下	ふっ素	0.8mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	ほう素	1mg/L以下

(表-地-5) 平成20年度地下水質概況調査結果

(単位: mg/L)

地 区 名	寝屋南	点野	基準値
調 査 日	H20. 8. 18	H20. 8. 18	
カドミウム	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
全シアン	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
六価クロム	<0.02	<0.02	0.05mg/L以下
砒素	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
アルキル水銀	未分析	未分析	検出されないこと
P C B	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
セレン	<0.002	<0.002	0.01mg/L以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.08	<0.08	10mg/L以下
ふっ素	<0.2	<0.2	0.8mg/L以下
ほう素	<0.1	<0.1	1mg/L以下

備考: アルキル水銀は総水銀が検出された場合に測定する。



(表-地-6) 平成20年度地下水質定期モニタリング調査結果

(単位: mg/L)

地区名	木田元宮(井戸A)			基準値
	調査日	H20.8.18	H21.2.16	
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
シス-1,2ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L以下

地区名	木田元宮(井戸B)			基準値
	調査日	H20.8.18	H21.2.16	
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
シス-1,2ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L以下

地区名	出雲町(井戸南側)			基準値
	調査日	H20.8.18	H21.2.16	
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
シス-1,2ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L以下

地区名	出雲町(井戸西側)			基準値
	調査日	H20.8.18	H21.2.16	
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下
シス-1,2ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L以下

地区名	明和1丁目			基準値	
	調査日	H20.8.18	-		年平均
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	-	<0.002	0.02mg/L以下
シス-1,2ジクロロエチレン	0.052	-	-	0.052	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	-	<0.0005	1mg/L以下
トリクロロエチレン	0.21	-	-	0.21	0.03mg/L以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	-	<0.0005	0.01mg/L以下

### 第3節 土壌汚染

土壌汚染は、廃棄物の埋立等により有害物質が直接土壌に混入する場合のほか、事業活動などに伴うばいじん、工場排水などを通じて有害物質が土壌中に蓄積することによって発生します。

一旦、重金属などで汚染が発生すると土壌中で自然に分解することなく残留し、農作物の汚染や地下水汚染の原因となります。特に、最近ではトリクロロエチレンなどの有機塩素系化合物による土壌汚染が原因となる地下水汚染が問題となっています。

そこで、平成3年8月23日「土壌の汚染に係る環境基準」が重金属等10項目について定められ、さらに平成6年2月21日環境庁告示によって土壌環境基準項目が追加され、25項目になるとともに鉛、砒素については基準が強化されました。

平成14年5月には、25項目の特定有害物質を調査対象物質とした「土壌汚染対策法」が公布され、平成15年2月15日施行となりました。土壌汚染対策法は、有害物質を使用している工場・事業場において土壌汚染の有無が不明なまま放置され、住宅や公園のような不特定の人が立ち入る土地利用に供せられることによって生じる、人への健康被害を防ぐことを目的としています。

土壌汚染対策法の施行状況は（表-土-1）のとおりです。

また、大阪府では、土壌汚染対策法に加えて「大阪府生活環境の保全等に関する条例」を改正し、土壌汚染に関する規制等の規定を追加しました。同条例は平成16年1月1日から施行されました。

大阪府生活環境保全等に関する条例の施行状況は（表-土-2）のとおりです。

土壌汚染対策法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例に基づきませんが自主的に調査を行い報告があった件数等は（表-土-3）のとおりです。

（表-土-1）土壌汚染対策法の施行状況

種 別	年 度						累 計
	15	16	17	18	19	20	
有害物質使用特定施設の使用が廃止された件数	2	2	1	2	6	2	15
土壌汚染状況調査の結果報告件数	1	0	1	1	1	2	6
ただし書に基づき確認を行った件数	1	2	0	1	3	2	9
調査命令を発した件数	0	0	0	0	0	0	0
指 定 区 域 の 指 定 件 数	1	0	0	0	1	0	2
指 定 区 域 の 解 除 件 数	0	0	0	0	0	1	1

（表-土-2）大阪府生活環境の保全等に関する条例の施行状況

種 別	年 度						累 計
	15	16	17	18	19	20	
土地の利用履歴等調査の結果報告件数	1	12	14	14	6	10	57
有害物質使用届出施設等の使用が廃止された件数	0	0	1	1	2	1	5
土壌汚染状況調査の結果報告件数	1	2	2	4	1	0	10
ただし書に基づき確認を行った件数	0	0	1	0	1	1	3
管 理 区 域 の 指 定 件 数	0	1	0	1	0	0	2
管 理 区 域 の 解 除 件 数	0	1	0	0	1	0	2

(表一土-3) 自主的な調査の報告件数等

種 別	年 度						累 計
	15	16	17	18	19	20	
土地の利用履歴等調査の結果報告件数	0	7	3	1	1	1	13
土壤汚染状況調査の結果報告件数	1	6	5	4	2	3	21
土壤汚染が判明した件数	1	2	1	2	2	0	8

(表一土-4) 土壤汚染対策法における特定有害物質と指定基準

大阪府生活環境の保全等に関する条例における管理有害物質と指定基準

分 類		項 目	溶出量基準 (指定基準)	含有量基準 (指定基準)	
管 理 有 害 物 質 ( 大 阪 府 条 例 )	(第1種特定有害物質) 揮発性有機化合物	四塩化炭素	0.002mg/L 以下	—	
		1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L 以下	—	
		1,1-ジクロロエチレン	0.02mg/L 以下	—	
		シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L 以下	—	
		1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L 以下	—	
		ジクロロメタン	0.02mg/L 以下	—	
		テトラクロロエチレン	0.01mg/L 以下	—	
		1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L 以下	—	
		1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L 以下	—	
		トリクロロエチレン	0.03mg/L 以下	—	
		ベンゼン	0.01mg/L 以下	—	
	(第2種特定有害物質) 重金属等	カドミウム及びその化合物	0.01mg/L 以下	150mg/kg 以下	
		六価クロム化合物	0.05mg/L 以下	250mg/kg 以下	
		シアン化合物	検出されないこと	50mg/kg 以下	
		水銀及びその化合物	0.0005mg/L 以下	15mg/kg 以下	
		うちアルキル水銀	検出されないこと		
		セレン及びその化合物	0.01mg/L 以下	150mg/kg 以下	
		鉛及びその化合物	0.01mg/L 以下	150mg/kg 以下	
		砒素及びその化合物	0.01mg/L 以下	150mg/kg 以下	
		ふっ素及びその化合物	0.8mg/L 以下	4000mg/kg 以下	
		ほう素及びその化合物	1mg/L 以下	4000mg/kg 以下	
	(第3種特定有害物質) 農薬等	シマジン	0.003mg/L 以下	—	
		チウラム	0.006mg/L 以下	—	
		チオベンカルブ	0.02mg/L 以下	—	
		PCB	検出されないこと	—	
		有機りん化合物	検出されないこと	—	
	ダイオキシン類			—	1000pg-TEQ/g 以下



## 第7章 公害苦情・陳情



### ◇萱島駅のクスの木

京阪電車の萱島駅に駅舎に突き出た巨大なクスの木が大切に保存されています。

高さ 20m、樹齢約 700 年と推定され、京阪電車が高架複々線になるときに、地元住民の人たちの熱意で保護することができました。

近代建築と大樹の見事な組み合わせは、大阪府の「緑の百選」に選ばれています。



## 第7章 公害の苦情・陳情

### 第1節 苦情・陳情状況

本市における公害に関する苦情は、市民生活に密着したものが多く、年々複雑多様化してきています。

平成20年度における騒音・振動に関する苦情は、騒音49件（内7件はカラオケ）、振動16件で、特定建設作業の解体などによるもの、住工混在する地域にある中小規模の工場・事業場などの機械プレスによるもの、また、資材置き場などの開放型事業場によるものなどがありますが、近年は生活様式の多様化及び近隣関係の希薄化により生活騒音が問題となってきています。

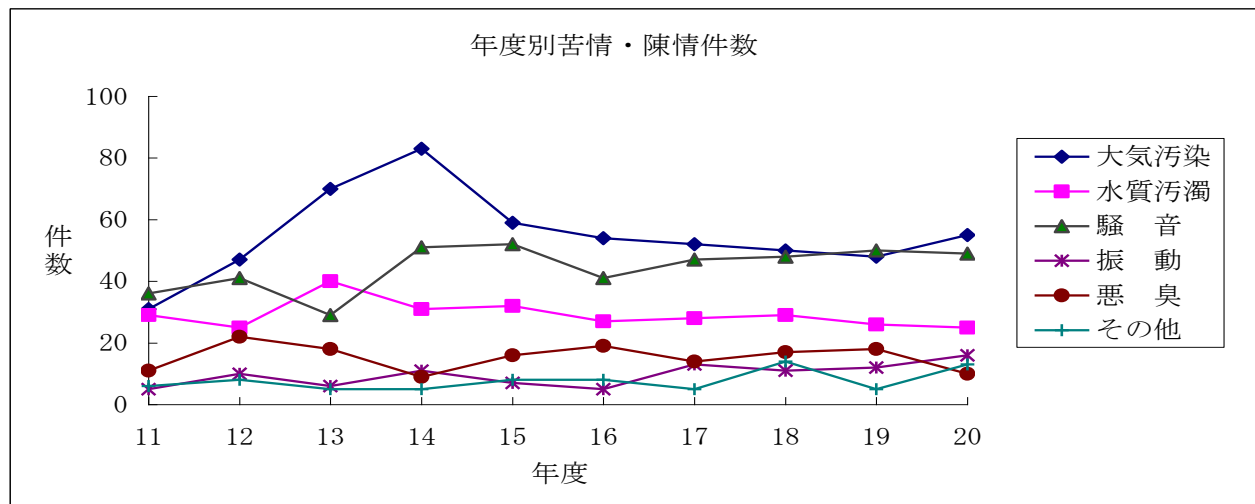
大気・悪臭に関する苦情は、大気55件、悪臭10件で工場・事業場での作業によるものや焼却炉からのススや煙、野焼きなどがあります。

水質に関する苦情は、25件で河川への事業場からの油流出及び不法投棄によるものなどがあります。

(表一公一) 年度別苦情・陳情件数

年 度	大気汚染	水質汚濁	騒 音	振 動	悪 臭	その他	合 計
11	31	29	36(7)	5	11	6	118
12	47	25	41(9)	10	22	8	153
13	70	40	29(5)	6	18	5	168
14	83	31	51(7)	11	9	5	190
15	59	32	52(2)	7	16	8	174
16	54	27	41(4)	5	19	8	154
17	52	28	47(10)	13	14	5	159
18	50	29	48(7)	12	17	15	171
19	48	26	50(10)	12	18	5	159
20	55	25	49(7)	16	10	13	168

※騒音の( )内はカラオケによる苦情



(表一公-2) 平成20年度発生源苦情・陳情件数

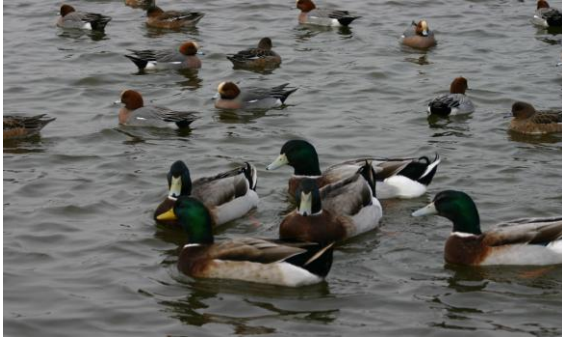
公害の種類 発生源の種類		典型7公害							その他	合計
		大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭		
製 造 業	食料品									
	繊維製品									
	木材家具木製品									
	化学工業・石炭製品									
	窯業土石製品									
	金属製品									
	機械器具									
	その他				8				8	8
小計				8				8	8	
製 造 業 以 外	修理工場									
	建築土木工事	3			17	13		1	34	34
	道路騒音・振動				5				5	5
	牧畜養豚養鶏場									
	下水清掃事業									
	娯楽遊興スポーツ施設									
	家庭生活				3				3	3
	商店飲食店				1			1	2	2
	事務所									
	洗濯・理容・浴場業									
	廃品回収業									
	教育関連施設									
	農作業									
	カラオケ				7				7	7
その他サービス										
その他	46	12		7	2		4	71	11	82
不明	6	13		1	1		4	25	2	27
小計	55	25		41	16		10	147	13	160
合計	55	25		49	16		10	155	13	168

(表一公-3) 年度別工場・事業場等の立入調査件数

年 度	大気立入	水 質 立 入			騒 音	振 動
		立 入	工場採水	計		
16	40	43	38	81	41	5
17	73	70	37	107	47	13
18	71	65	57	122	48	12
19	60	10	37	47	46	12
20	41	17	19	36	54	23



## 第 8 章 環境啓発





## 第 8 章 環境啓発

### 第 1 節 環境啓発と環境学習

#### 1. 環境美化推進

##### (1) 目的

寝屋川市では、市・市民・事業者がそれぞれの責任と役割を果たすことを基本にして、安全で清潔な、みどり豊かなまちづくりを進めるため、「美しいまちづくり条例」を平成 17 年 4 月 1 日から施行しました。

##### (2) 美しいまちづくり条例の規制内容と罰則など

規 制 内 容	対 象 場 所	勧告、命令違反者に対する罰則など
歩行喫煙の禁止	市内の公共の場所 ※周辺に通行する人がなく、他人に危害をあたえるおそれのない場合は除く。	氏名などの公表
空き地・空き家の適正管理	市内の空き地・空き家	氏名などの公表と 5 万円以下の過料
ため池の危険防止	市内のため池	
資材・廃材などの適正管理	市内の公共の場所、他人の所有地、自己の資材・廃材置き場	
飼い犬などペットの放し飼い禁止（警察犬・盲導犬などは除く）	市内の公共の場所、他人の所有地	氏名などの公表
ポイ捨ての禁止		2 万円以下の過料
ペットのフンの放置禁止		
ビラなどの印刷物の散乱禁止		
落書きの禁止		
自動販売機の回収容器の設置	市内の自動販売機設置場所	氏名などの公表

##### (3) 啓発の状況

#### ②その他周知・啓発活動

	平成 19 年度	平成 20 年度
広報紙	特集号(4月15日、10月15日)	特集号(4月15日、10月15日) 推進員募集(6月15日)
出前講座	開催回数：0回 参加人数：0人	開催回数：2回 参加人数：50人
広報（公用車）	10回（6月～3月）	12回（4月～3月）
駅前啓発	ポイ捨て・歩行喫煙禁止啓発 （市内4駅）	ポイ捨て・歩行喫煙禁止啓発 （市内4駅）表A
駅前定点調査	毎月2回（4駅周辺）	毎月2回（4駅周辺）表B
早朝啓発	52回（8,791本）	47回（5,939本）

表A※

年 度	月	参 加 人 数			歩行喫煙中止率		
		職 員	推 進 員	合 計	啓発件数	中止件数	中止率
20年度	4月～3月	271人	428人	699人	572人	458人	80.1%

表B

(単位：本)

年 度	月	寝屋川市駅	香里園駅	萱島駅	東寝屋川駅	合 計
20年度	4月	110	96	33	104	343
	5月	117	106	44	103	370
	6月	112	68	48	92	320
	7月	165	59	56	39	319
	8月	135	96	78	35	344
	9月	119	54	56	35	264
	10月	113	108	51	62	334
	11月	86	75	32	34	227
	12月	122	53	52	55	282
	1月	87	132	49	44	312
	2月	90	67	51	36	244
	3月	88	49	54	30	221
		合計	1,344	963	604	669

※市内4駅ごとに、毎月2回調査を実施した合計本数。

## (3) 空き地・空き家の啓発状況 (苦情件数)

年 度	空き地	空き家	合 計
18年度	22	30	52
19年度	27	40	67
20年度	28	37	65

## 2. エコ・フェスタ

近年、地球温暖化・オゾン層の破壊・酸性雨等地球規模での環境問題がクローズアップされ、国際的な環境問題への対応が求められています。一方、身近な環境問題として、自動車排ガスによる大気汚染、生活排水による水質汚濁、廃棄物の問題等があり、また、自然環境の保護やみどりの回復等、環境保全への対応が求められています。

これらの環境問題は、市民生活や社会のしくみと深い関わりをもっていることから市民とともに考え、環境にやさしい暮らしの実践を図るとともに、花と緑に対する市民意識の高揚を図ります。

平成8年度までは「環境フェア」として、環境保全課が主催し、ごみ減量推進課の協力で寝屋川市のグリーンシティで開催していました。平成9年度より「環境フェア」にかわり、寝屋川市太秦桜が丘の打上川治水緑地で「寝屋川市エコ・フェスタ」を開催し、公園緑地課「花と緑のフェア」・消費生活センター「消費生活展」との合同開催によりイベント規模を拡大しました。また、平成10年度より農業まつりと同時開催により、イベントの一層の活性化と合理化を図りました。

平成18年度	第10回寝屋川市エコ・フェスタ	入場者数約13,000人
平成19年度	第11回寝屋川市エコ・フェスタ	入場者数約20,000人
平成20年度	第12回寝屋川市エコ・フェスタ	入場者数約10,500人



### 3. 水辺の観察会「親子でみる自然散策と水辺の生物観察会」

#### (1) 目的

昭和 63 年に四條畷市、守口市の 2 市で事業を開始し、寝屋川市は、平成元年から参加しています。

河川や海の汚れの原因は、従来工場からの排水が中心でしたが、工場からの排水は、法律や条例により厳しく規制され、現在では、生活排水が汚れの中心になっています。

水辺環境や河川等の水質を改善するためには、各個人の水質保全に対する認識を深めてもらうことが年々重要になってきています。

この「親子でみる自然散策と水辺の生物観察会」(水質モニタリング)は、山間の溪流の水生生物を観察することにより、当市との水質の違いを確認し、水質保全の重要性の認識を深めてもらうため行っています。

開催日 平成 20 年 7 月 25 日

開催場所 四條畷市室池周辺(権現川流域)

開催内容 自然散策と水辺の生物観察(3市共催)

区分	寝屋川市			四條畷市			守口市			合計
	子供	大人	計	子供	大人	計	子供	大人	計	
平成 16 年度	14	9	23	8	4	12	13	9	22	57
平成 17 年度	10	7	17	11	6	17	15	9	24	58
平成 18 年度	(自然災害のため中止)									
平成 19 年度	3	2	5	8	5	13	13	7	20	38
平成 20 年度	8	5	13	7	12	19	4	6	10	42

### 4. こどもエコ・クラブ

21 世紀を担う子どもたちが将来にわたり環境を大切にすることを意識を持ち、環境にやさしい暮らし方を実践していくことが必要です。

環境省では、平成 7 年度から「こどもエコ・クラブ」事業を通じて、子どもたちの地域の中での主体的な環境の学習や実践活動を支援しています。

#### ・登録団体

平成 16 年度	5 団体	175 人	(会員 167 人、サポーター 8 人)
平成 17 年度	0 団体	0 人	(会員 0 人、サポーター 0 人)
平成 18 年度	2 団体	9 人	(会員 5 人、サポーター 4 人)
平成 19 年度	3 団体	17 人	(会員 11 人、サポーター 6 人)
平成 20 年度	2 団体	18 人	(会員 14 人、サポーター 4 人)



## 5. 自然環境教室

### (1) 開催主旨

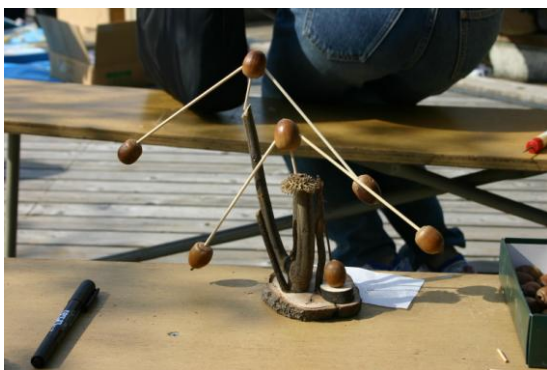
私たちが住む地球は、便利さや快適さ、豊かさを追い求めた結果、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、熱帯雨林の伐採、野生生物種の減少などの地球規模での環境問題が深刻化するとともに、地域においては、自動車による大気汚染や騒音、生活排水による水質汚濁などの都市・生活型公害、更に、廃棄物の増大、水の循環やエネルギー消費の増大など様々な問題を抱えています。

そのため、市民のみなさんと残された寝屋川市内の身近な自然を観察したり、講演会で市民のみなさんに環境問題についての正しい理解と関心を高めていただくために自然環境教室を開催しています。

### (2) 取り組み

#### ・自然観察会

年 度	月 日	行 事	場 所	講 師	参加
17 年度	6 月 4 日	メダカ調査	寝屋川観音橋	新城賢浩さん（水辺に親しむ会）	35 人
	7 月 3 日	寝屋川水辺観察	雨天中止		
	11 月 6 日	ドングリ調査	雨天中止		
	1 月 22 日	野鳥観察会	打上川治水緑地	野鳥の会	58 人
18 年度	6 月 3 日	メダカ調査	寝屋川観音橋	古田泰造さん（水辺に親しむ会）	15 人
	7 月 2 日	寝屋川水辺観察	雨天中止		
	11 月 5 日	ドングリ調査	寝屋川公園	山田 晃さん、渡辺俊之さん （寝屋川市自然を学ぶ会）	113 人
	1 月 21 日	野鳥観察会	打上川治水緑地	野鳥の会	58 人
19 年度	6 月 2 日	メダカ調査	寝屋川観音橋	古田泰造さん（水辺に親しむ会）	20 人
	7 月 1 日	水生生物調査	寝屋川公園内打上川	古田泰造さん（水辺に親しむ会）	51 人
	11 月 4 日	ドングリ調査	寝屋川公園	山田 晃さん、渡辺俊之さん （寝屋川市自然を学ぶ会）	111 人
	1 月 20 日	野鳥観察会	打上川治水緑地	野鳥の会	64 人
20 年度	6 月 7 日	メダカ調査	寝屋川観音橋	古田泰造さん（水辺に親しむ会）	25 人
	7 月 6 日	水生生物調査	寝屋川公園内打上川	古田泰造さん（水辺に親しむ会）	33 人
	11 月 2 日	ドングリ調査	寝屋川公園	山田 晃さん、渡辺俊之さん （寝屋川市自然を学ぶ会）	112 人
	1 月 18 日	野鳥観察会	打上川治水緑地	野鳥の会	46 人



## ★ 今までに確認された野鳥名 ★

平成 17 年 1 月 23 日 (平成 16 年度)						31 種類
カルガモ	マガモ	ヒドリガモ	コガモ	イソシギ	ハクセキレイ	セグロセキレイ
コサギ	アオサギ	バン	ツグミ	ムクドリ	モズ	キジバト
ドバト	ヒヨドリ	スズメ	ホオジロ	ハシブトカラス	コゲラ	ケリ
カワウ	ハシビロガモ	メジロ	アヒル	ハシボソカラス	ゴイサギ	カイツブリ
シジュウカラ	タシギ	イカル				
平成 18 年 1 月 22 日 (平成 17 年度)						29 種類
カルガモ	マガモ	ヒドリガモ	コガモ	イソシギ	ハクセキレイ	セグロセキレイ
コサギ	アオサギ	バン	ツグミ	ムクドリ	モズ	キジバト
ドバト	ヒヨドリ	スズメ	カワセミ	ハシブトカラス	カワラヒラ	ケリ
カワウ	ハシビロガモ	ダイサギ	アヒル	ハシボソカラス	オカヨシガモ	カイツブリ
タシギ						
平成 19 年 1 月 21 日 (平成 18 年度)						32 種類
アオサギ	アヒル	アメリカヒドリ	イソシギ	オオバン	カイツブリ	カルガモ
カワウ	カワセミ	カワラヒワ	キジバト	ケリ	ゴイサギ	コガモ
コサギ	シジュウカラ	スズメ	セグロセキレイ	ダイサギ	タシギ	ツグミ
ドバト	ハクセキレイ	ハシビロガモ	ハシブトカラス	ハシボソカラス	バン	ヒドリガモ
ヒヨドリ	マガモ	ムクドリ	モズ			
平成 20 年 1 月 20 日 (平成 19 年度)						36 種類
アオサギ	アヒル	アメリカヒドリ	イソシギ	ウグイス (声)	カイツブリ	カルガモ
カワウ	カワセミ	カワラヒワ	キジバト	キセキレイ	ケリ	コガモ
コゲラ	コサギ	シジュウカラ	ジョウビタキ	スズメ	セグロセキレイ	ダイサギ
タシギ	ツグミ	ドバト	ハクセキレイ	ハシビロガモ	ハシブトカラス	ハシボソカラス
バン	ヒドリガモ	ヒヨドリ	マガモ	ムクドリ	メジロ	モズ
ユリカモメ						
平成 21 年 1 月 18 日 (平成 20 年度)						32 種類
アイガモ	アオサギ	アオジ	アヒル	アメリカヒドリ	イソシギ	オオジュリン
カイツブリ	カルガモ	カワウ	カワセミ	カワラヒワ	キジバト	ケリ
コガモ	コサギ	ジョウビタキ	スズメ	セグロセキレイ	ダイサギ	タシギ
ツグミ	ドバト	ハクセキレイ	ハシビロガモ	ハシブトカラス	ハシボソカラス	バン
ヒドリガモ	ヒヨドリ	ムクドリ	メジロ			





## 水生生物調査

No.	調査日	河川・水路	いきものの種類と数			
			メダカ	カダヤシ	藻	その他の生物
1	平成 18 年 6 月 3 日	寝屋川	10<	10<	エビモ	ドジョウ・モリゴ・アメンボ・ブルーギル・アメリカザリガニ・ヨシノボリ・クサガメ・ヤゴ・ギンブナ・タニシ・シジミ・モノアラガイ・ヨコエビ
2	平成 18 年 8 月 23 日	対馬江 農業用水路		10<	ハゴロモ・ミズヒキモ・オオカナダモ・ササバモ	アメンボ・ドジョウ・フナ・カダヤシ・ツチガエル・ヤゴ・ウシガエル・オタマ・モリゴ・タウナギ・タニシ
3	平成 18 年 9 月 20 日	寝屋川起点	10<	100<	アオミドロ	アメリカザリガニ・アメンボ・ドジョウ・カダヤシ・ヤゴ・モリゴ・タウナギ・タモロコ・ドンコ
4	平成 19 年 5 月 15 日	打上川	100<	3<	コカナダモ・ササバモ・アオミドロ	ウシガエル・ツチガエル・アマガエル・アメリカザリガニ・アメンボ・ドジョウ・ヤゴ・オイカワ・タニシ・コブナ
5	平成 19 年 5 月 23 日	打上川	100<	5<	コカナダモ・ササバモ・アオミドロ	ウシガエル・アメリカザリガニ・アメンボ・ヤゴ・オイカワ・マルタニシ・コブナ・モツゴ・スジエビ
6	平成 19 年 6 月 2 日	打上川治水緑地		5<		ギンブナ・モツゴ・ブルーギル・ミドリガメ (アカミミガメ)
7	平成 19 年 6 月 2 日	寝屋川	5<	5<	オオカナダモ・アオミドロ	クサガメ・オイカワ・ギンブナ・タウナギ・ドジョウ・ヤゴ・カワトンボヤゴ・ヨシノボリ・アメリカザリガニ
8	平成 19 年 7 月 1 日	打上川	50<	5<		ウシガエル・オタマジャクシ・フナ・オイカワ・ヨシノボリ・アメンボ・シジミ・アメリカザリガニ・ヒル・ヒメタニシ・コオイムシ
9	平成 20 年 6 月 7 日	寝屋川	10<	10<		オイカワ・ギンブナ・ドジョウ・モツゴ・ヨシノボリ・アメンボ・ヤゴ・ウシガエル・オタマジャクシ・シジミ・タニシ・アメリカザリガニ・スジエビ・ミシシッピーアカミミガメ
10	平成 20 年 7 月 6 日	打上川	10<	10<		オイカワ・フナ・タモロコ・ドジョウ・ヌマムツ・ブラックバス・ブルーギル・コオイムシ・ヤゴ・ウシガエル・ウシガエル・オタマジャクシ・トノサマガエル・オタマジャクシ・ヌマガエル・ヌマガエル・オタマジャクシ・シジミ・アメリカザリガニ・ミシシッピーアカミミガメ



・自然環境講演会

年 月 日	場 所	講 師	参加
平成 16 年 2 月 21 日	市立総合センター	立川亨一さん（寝屋川市環境保全審議会委員） 本多政雄さん（ねや川水辺クラブ）	36 人
平成 17 年 2 月 19 日	市立総合センター	杉本 博さん（寝屋川市自然を学ぶ会）	38 人
平成 18 年 2 月 18 日	市立総合センター	新城賢浩さん（水辺に親しむ会）	27 人
平成 19 年 2 月 17 日	池の里市民交流センター	山田 晃さん（寝屋川市自然を学ぶ会）	28 人
平成 21 年 2 月 21 日	市立総合センター	内藤 薫さん（水生生物センター）	22 人

6. 出前講座

講座を通じて、市民のみなさんが将来にわたり環境を大切にする意識を持ち、環境にやさしい暮らし方を実践していただくために出前講座を開催します。

(1) 出前講座内容

- ① 私たちの住むねやがわの環境
- ② あなたが主役 環境にやさしい生活行動（地球と仲よくする方法）
- ③ 環境家計簿記入講座（家庭から地球温暖化防止対策を進めよう）
- ④ 美しいまちをめざして

(2) 開催状況

年度	出 前 講 座 内 容	開催回数	参加人数
H16	私たちの住むねやがわの環境	4 回	93 人
	生活排水対策「私たちが河川を汚している」	1 回	12 人
	あなたが主役環境にやさしい生活行動（地球と仲よくする方法）	8 回	269 人
合 計		13 回	374 人
H17	私たちの住むねやがわの環境	2 回	39 人
	あなたが主役環境にやさしい生活行動（地球と仲よくする方法）	2 回	58 人
	美しいまちづくり	4 回	280 人
合 計		13 回	374 人
H18	私たちの住むねやがわの環境	1 回	25 人
	あなたが主役環境にやさしい生活行動（地球と仲よくする方法）	3 回	66 人
	美しいまちづくり	10 回	260 人
合 計		14 回	351 人
H19	私たちの住むねやがわの環境	0 回	0 人
	あなたが主役環境にやさしい生活行動（地球と仲よくする方法）	0 回	0 人
	環境家計簿記入講座（家庭から地球温暖化防止対策を進めよう）	4 回	110 人
	美しいまちをめざして	1 回	78 人
合 計		5 回	188 人
H20	私たちの住むねやがわの環境	0 回	0 人
	あなたが主役環境にやさしい生活行動（地球と仲よくする方法）	2 回	61 人
	環境家計簿記入講座（家庭から地球温暖化防止対策を進めよう）	3 回	91 人
	美しいまちをめざして	5 回	162 人
合 計		10 回	314 人

## 第2節 公害防止融資

### 【寝屋川市公害防止資金融資あっせん】

#### 1. 利用資格

公害防止対策を行うべき工場、事業場が市内にあり、市内において1年以上引き続き同一事業を営んでいる小規模事業者

小規模事業者とは 資本の額若しくは出資の総額が300万円以下、または常時使用する従業員の数20人（商業又はサービス業に属する事業として営むものについては、5人）以内の事業者です。

#### 2. 資金使途

公害を防止するために必要な機械、器具及び装置並びに工作物の設置、改善等の必要が認められるもの（原則として未契約、未着工に限る）

#### 3. 融資条件

限度額	400万円以内（無担保）	
利率	年2.10%（H19.4.1現在）・年2.00%（H19.10.1現在） ただし、市は、「寝屋川市公害防止施設等設置資金利子補助規則」に基づき利子を補助します。	
期間及び償還方法	5年以内とし、償還は1年据え置き、1ヶ月ごと又は6ヶ月ごとに元金均等分割返済	
保証人	個人の申込人	府下に在住する人（家族除く）1名以上
	法人の申込人	代表者及び社外から1名以上
信用保証料	融資金額	保証料率
	大阪府中小企業信用保証協会が定める額。 ただし、市は融資あっせんを受けた人が支払った信用保証料に相当する額を補給します。	

※なお、市は借り入れにより生じる利子を補助する。

#### 4. 寝屋川市公害防止資金融資あっせん状況

年度	営業種目	貸付金額	融資使途
平成 1	金属プレス業	4,000,000	騒音・振動防止
平成 2	自動車整備業	1,000,000	汚水処理施設
平成 3	自動車整備業	1,000,000	油水分離槽設置
	自動車解体業	3,360,000	油水分離槽設置
平成 4	金属加工業	4,000,000	防音壁設置
平成 5	金属プレス業	3,500,000	低騒音プレス購入
平成 9	自動車解体業	1,200,000	浮遊油回収装置設置
	食品小売業	3,700,000	騒音防止



## 第9章 廃棄物（ごみ・し尿）



### ◇茨田堤碑

太間公園近くの淀川堤防に「茨田堤」の石碑があります。

『古事記』『日本書紀』には、仁徳天皇時代に「茨田堤」という堤防を淀川左岸の低湿地に築いたと書かれています。

わが国最初の河川築堤工事といわれ、河内ばかりでなく、遠くは武蔵国などからも人夫を集めた国家的大事業だったようです。

『日本書紀』では、2ヶ所の切れ目をつなぐことができず、武蔵強頸が人柱となり、河内人茨田連杉子は「ひさご」を流し助かったとされています。2ヶ所の切れ目は強頸絶間、杉子絶間と呼ばれ、市内には、この「絶間」がなまった「太間」という地名があります。



## 第9章 廃棄物（ごみ・し尿）

### 第1節 ごみの現状と取り組み

#### 1. ごみ処理事業の沿革

昭和24年 1月24日	寝屋川町の清掃条例に基づき特別清掃地域 (現在の東大利町の商店街) 付近を重点に収集開始 大八車
昭和26年 5月 3日	市制施行 (人口 31,061人)
昭和27年 4月 1日	一般家庭のごみ処理手数料徴収
昭和37年 8月25日	固定炉完成 (30t/8h) (三輪自動車による収集開始)
昭和40年 3月24日	人口10万人突破
昭和42年 7月17日	寝屋川市ごみ処理対策委員会規定制定
昭和42年11月28日	全連続燃焼式機械炉建設工事着工
昭和43年 6月 1日	一般家庭と事業所を大別 (事業所ごみの委託収集開始)
昭和43年 9月30日	機械炉完成 (180t/24h)
昭和45年 3月31日	第2事業所改造 (5t/8h) バッチ炉
昭和45年 4月 1日	一般家庭ごみ収集の手数料無料化実施 廃棄物の処理及び清掃に関する法律制定
昭和45年 5月 1日	人口20万人突破
昭和46年11月	一般家庭ごみの週2回収集実施
昭和47年 3月31日	市清掃条例廃止 市廃棄物の処理及び清掃に関する条例制定
昭和47年10月	破砕機建設工事着工
昭和48年 6月10日	破砕機完成 (75t/5h)
昭和48年12月 6日	ごみ最終処分地購入 (枚方市大字穂谷)
昭和49年 9月 1日	粗大ごみの月2回収集完全実施
昭和50年 4月 5日	人口25万人突破
昭和53年 9月 1日	新炉建設工事着工

昭和 54 年 6 月 31 日	寢屋最終処分地火災により、3ヶ月間粗大ごみ収集を中止
昭和 54 年 9 月 22 日	粗大ごみ収集から不燃ごみ収集に変更
昭和 55 年 9 月 30 日	新炉完成（現クリーンセンター） 全連続燃焼式機械炉（180t/24h×2基）
昭和 55 年 10 月 1 日	機構改革（清掃第1課→業務第1課：清掃場→施設課）
昭和 56 年 1 月	分別収集モデル地区4自治会選定、資源ごみ収集実施
昭和 57 年 11 月 1 日	有価物選別装置着工
昭和 58 年 2 月 28 日	有価物選別装置完成
昭和 58 年 4 月 1 日	機構改革（業務第1課→クリーンセンター）
昭和 63 年 6 月	燃焼設備及び燃焼ガス冷却設備整備（国庫補助対象事業）
平成 2 年 12 月	ダイオキシン類発生防止等ガイドラインの策定
平成 3 年 5 月 15 日	機構改革（保健衛生部→環境事業部：環境事業総務課新設）
平成 3 年 12 月 5 日	破碎施設等建設工事着工
平成 4 年 7 月 1 日	一般廃棄物処理計画策定要綱制定
平成 5 年 3 月 31 日	一般廃棄物処理基本計画策定に係る基礎調査報告書作成
平成 5 年 4 月 1 日	市民へのコンポスト容器の貸し出しを開始
平成 5 年 8 月 3 日	環境衛生問題審議会へ「一般廃棄物処理基本計画試案」を諮問
平成 6 年 2 月 21 日	環境衛生問題審議会答申
平成 6 年 3 月 22 日	破碎施設等建設工事竣工
平成 6 年 6 月 1 日	一般廃棄物処理基本計画策定
平成 7 年 4 月 1 日	「寢屋川市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例」施行 「平成7年度一般廃棄物処理基本計画」告示
平成 7 年 6 月 16 日	「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」 （容器包装リサイクル法）制定
平成 7 年 9 月 25 日	寢屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議設置
平成 7 年 12 月 15 日	クリーンカレンダー様式変更 B4判→A3判、収集区域毎に両面印刷



平成 8 年 4 月 20 日	機構改革により環境事業部から環境部に名称変更 ごみ減量推進課・環境保全課・クリーン業務課・ クリーン施設課・緑風園の 5 課に
平成 9 年 1 月	ダイオキシン類の削減のための新ガイドラインを策定
平成 9 年 4 月	ダイオキシン類の排出濃度調査結果発表 (1,150 施設)
平成 9 年 10 月 1 日	子供会等への資源集団回収活動報奨金の開始
平成 9 年 12 月 1 日	大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律改正、施行 排出抑制の必要な物質としてダイオキシン類が指定、排出濃度 基準が決定・施行される。現有施設のダイオキシンの排出量は 平成 14 年 12 月 1 日から 1 ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> 以下に規制。 また、ダイオキシン類の発生抑制のため、施設の構造及び維持管理基準が強化され る。
平成 10 年 1 月 21 日	透明袋によるペットボトル分別収集実施 (集合住宅を中心とした 72 地域・14,971 世帯)
平成 10 年 4 月 10 日	大気汚染防止法の一部改正公布、平成 10 年 7 月 1 日施行 (ばいじんの排出基準の強化、測定頻度の指定)
平成 10 年 7 月 1 日 (契約日)	焼却炉のダイオキシン対策工事実施 (平成 10~11 年度で実施) (プッシュ・炉下コンベア・空冷壁段落部・E P・活性炭噴霧 装置・2 次ガス冷却塔設置)
平成 10 年 12 月 15 日	クリーンカレンダー様式変更 (A3 版→B3 版)
平成 11 年 1 月 1 日	ごみ袋の透明・半透明化及びペットボトルの全戸収集開始
平成 11 年 4 月 1 日	生ごみ処理機等購入費の補助を開始 (コンポスト容器の貸し出しから購入費補助へ切替)
平成 12 年 1 月	乾電池分別収集開始
平成 12 年 4 月 1 日	容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律 完全施行
平成 12 年 8 月 1 日	蛍光灯・スプレー缶分別拠点収集開始
平成 12 年 10 月 1 日	市立小学校 3 校 (第五・国松緑丘・宇谷) へ生ごみ処理機を設置 し、生ごみの堆肥化をモデル実施
平成 13 年 2 月	プラスチック製容器包装分別収集モデル実施 (集合住宅約 13,000 世帯を対象)
平成 13 年 3 月	一般廃棄物処理基本計画 (第 2 次分) 策定

平成 13 年 4 月	特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）施行
平成 13 年 9 月	飛灰処理設備改修工事実施 （セメント固化から薬剤処理へ成型固化システムを変更）
平成 14 年 1 月	プラスチック製容器包装分別収集全戸実施
平成 14 年 3 月	寝屋川市循環型社会実践行動計画策定
平成 15 年 4 月 1 日	大阪府循環型社会形成推進条例の施行（一部除く）
平成 15 年 10 月 1 日	資源の有効な利用の促進に関する法律の改正施行に伴い、パソコンを市の収集品目から除く。
平成 16 年 6 月 1 日	北河内 4 市リサイクル施設組合設立
平成 18 年 4 月 1 日	事業系一般廃棄物の収集運搬を許可制に移行
平成 18 年 6 月	（仮称）北河内 4 市リサイクルプラザ建設工事着工
平成 19 年 4 月 1 日	焼却施設運転管理業務を業者に委託
平成 20 年 2 月 1 日	北河内 4 市リサイクルプラザ（かざぐるま）稼動
平成 20 年 4 月 1 日	古紙・古布分別収集開始 資源集団回収活動報奨金制度の変更 （①対象品目の追加：アルミ缶 ②報奨金単価の引上：3 円/kg→ 4 円/kg）
平成 21 年 1 月 1 日	寝屋川市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部改正 （資源物の所有権について明記）

## 2. ごみ減量・資源化の推進

国において、廃棄物・リサイクル対策を総合的・計画的に推進するため、「循環型社会形成推進基本法」をはじめとした、リサイクル関連法等を制定するなど、循環型社会の構築に向けた法整備が行われてきました。

本市においても、ごみの発生抑制・再使用・資源化をさらに推進するため「寝屋川市一般廃棄物処理基本計画」（平成 13 年 3 月）、「寝屋川市循環型社会実践行動計画」（平成 14 年 3 月）に基づき 4 R の啓発・周知に努めるとともに、市民・事業者・行政が自らの役割と責任を果たし、協働して取組み、ごみの発生抑制・分別収集の徹底等、ごみの減量化を推進していきます。

### (1) 一般廃棄物処理基本計画

市では平成 13 年 3 月にごみの減量・リサイクルを基本に、ごみの発生抑制・資源化から収集・運搬、中間処理、最終処分までの一般廃棄物処理行政全般に係る基本方針として、市民、事業者、行政がごみの減量に向けてのそれぞれの役割と責任を果たし協働して取組むこととした一般廃棄物処理基本計画を策定しました。

#### 基本理念

「行動する寝屋川市から、エコスタイルの発進」  
環境低負荷・資源循環を迫及する暮らしと事業活動  
それが、寝屋川市のエコスタイルです。

### (2) 循環型社会実践行動計画

ごみは迅速に集めて、燃やして、埋めるといった方式で単純に解決できると考えられてきました。しかしながら、資源問題や最終処分地の不足、ごみ処理の過程から発生するダイオキシン類に見られるように、今や環境問題として総合的にごみ問題を考えなければならない時代へと移り変わっています。

このことから、一般廃棄物処理基本計画に定めている基本理念を具体化するため、市民・事業者・行政が取組むべき重点的な行動計画が、三者の代表者による「寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議」において「寝屋川市循環型社会実践行動計画」（平成 14 年 3 月）として策定されました。

#### 循環型社会実践行動の 5 つの原則

- ごみとなるものを安易に作らない、使わない。
- ものを大切に使い切り、ごみにしない。
- ものを捨てないで、生かして使う。
- ごみをもう一度、資源として使う。
- 資源循環のために、再生品を使う。

行動計画は平成 17 年度までを前期（先行実施期間）、平成 22 年度までを後期（普及期間）とし、計画の進行管理を実施し、時期に応じて修正・見直しをしていくこととされています。

### (3) リサイクル関連法への対応

#### ① 容器包装リサイクル法

平成 12 年 4 月に完全施行された「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律（容器包装リサイクル法）」に基づき、平成 11 年 1 月からペットボトル、平成 14 年 1 月からプラスチック製容器包装の分別収集を開始してまいりましたが、平成 20 年 4 月より、古紙・古布を新たな分別収集に加えるとともに、北河内 4 市リサイクルプラザの稼働に伴い、ペットボトルとプラスチック製容器包装を同時収集に変更いたしました。

#### ② 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）

平成 13 年 4 月から家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）がスタートしました。この法律では特定の家電（テレビ・エアコン・冷蔵庫及び冷凍庫・洗濯機）がリサイクルの対象となっており、廃棄物処理をせず、メーカーにより再資源化することを義務付けしています。

### 3. 具体的な取組み

#### (1) 透明ごみ袋の推進（平成 11 年 1 月から実施）

市民のごみに対する意識の向上とごみの発生抑制、分別の徹底、作業時の危険防止を主な目的として平成 11 年 1 月からごみ袋の透明化を実施しています。

#### (2) 乾電池の分別収集（平成 12 年 1 月から実施）

使用済乾電池の適正処理とリサイクル及び最終処分量の減量化を図るために、分別収集を実施しました。

#### (3) 蛍光灯・スプレー缶拠点回収（平成 12 年 8 月から実施）

家庭から排出される蛍光灯やスプレー缶は、不燃ごみとして収集し、処理処分しておりましたが、蛍光灯については、その再生利用やリサイクルを図るため、またスプレー缶については、残留ガスの噴出による収集車両の火災事故を未然に防ぐため、地域毎に回収箇所を設置し、拠点回収を実施しました。

#### (4) ペットボトル・プラスチック製容器包装の分別収集

容器包装リサイクル法に基づき、ごみの減量とリサイクルの推進を図るために平成 11 年 1 月からペットボトル、平成 14 年 1 月からプラスチック製容器包装の分別収集を実施してきましたが、平成 20 年 2 月に北河内 4 市リサイクルプラザが稼働したことにより、平成 20 年 4 月からペットボトル・プラスチック製容器包装を同時収集に変更いたしました。

これにより、以前は 4 週に 1 回の収集頻度であったペットボトルも週 1 回収集することとなり、より排出しやすいものとなりました。

(5) 資源集団回収活動報奨金交付制度（古紙等回収活動助成）

子供会・自治会等の団体が自主的に行う資源回収活動に対し、報奨金を交付することにより活動を支援し、市民一人ひとりがごみ問題に対する意識の向上とごみの減量及び資源化を促進していくための制度です。

平成20年度に制度を変更し、報奨金単価を3円/kgから4円/kgに引き上げ、対象品目にアルミ缶を追加した。

○登録団体数・・・297団体（平成21年3月31日現在）

○報奨金単価・・・1kg当たり4円

○資源集団回収量実績

区 分	平成18年 1～6月	平成18年 7～12月	平成19年 1～6月	平成19年 7～12月	平成20年 1～6月	平成20年 7～12月
新聞紙	3,136,585kg	3,201,767kg	3,095,756kg	3,216,923kg	2,915,749kg	2,836,494kg
雑 誌	729,273kg	681,367kg	697,549kg	635,940kg	627,923kg	560,385kg
段ボール	283,930kg	299,675kg	294,191kg	302,627kg	288,365kg	353,295kg
古 布	134,532kg	128,750kg	138,682kg	133,482kg	146,227kg	144,314kg
牛乳パック	-	-	-	-	2,384kg	4,950kg
雑 紙	-	-	-	-	56,288kg	111,331kg
アルミ缶	-	-	-	-	24,997kg	61,030kg
合 計	4,284,320kg	4,311,559kg	4,226,178kg	4,288,972kg	4,061,933kg	4,071,799kg

(6) 環境にやさしいエコ・ショップ

エコ・ショップとは、簡易包装の推進等の環境にやさしい取組みを行うことを宣言し、実践している販売店で、市内で 12 店舗が登録しています。

取組み状況

- ①包装紙、袋等の簡素化など簡易包装の推進
  - ②紙、プラスチック等の使い捨て容器を使用した製品の販売の自粛
  - ③あき缶・びん等不要となった容器の回収
  - ④再生品を使用したエコマーク商品の販売
  - ⑤広告チラシ、事務用品等紙の使用量の抑制
  - ⑥再生紙等再商品の利用促進
  - ⑦販売品の修理サービスへの積極的な取組み
  - ⑧地域集団回収への協力
  - ⑨消費者に対し、ごみの減量化・リサイクルの呼びかけをしている
  - ⑩そのほか、店の創意工夫によるごみの減量化・リサイクルの推進
- \* なお、取組み内容については、店舗により異なります。

エコ・ショップ店	場 所	取り組んでいる事業
イオン(株)ジャスコ寝屋川店	緑町 5-8	①②③④⑤⑥ ⑧⑨
ヨシハラ薬局	田井西町 29-11	①②③ ⑧⑨⑩
イズミヤ(株)東寝屋川店	打上元町 16-3	①②③④⑤⑥⑦ ⑨⑩
(株)ワカバ	池田本町 4-14	①②③④⑤⑥ ⑧⑨⑩
(株)万代寝屋川店	東大利町 7-21	① ③ ⑥ ⑧⑨⑩
(株)万代萱島店	萱島東 2 丁目 12-33	① ③ ⑥ ⑧⑨⑩
(株)オークワ寝屋川店	寝屋 1 丁目 4-1	①②③④⑤⑥ ⑨⑩
(株)平和堂アル・プラザ香里園	日新町 5-5	① ③④⑤⑥ ⑨
イズミヤ(株)寝屋川店	早子町 23-1-104	①②③④⑤⑥⑦ ⑨⑩
(株)大近ラッキー寝屋川店	早子町 23-2B-112	③④⑤⑥ ⑧⑨⑩
100円ショップワカバ	池田本町 4-11	③④ ⑧ ⑩
(株)平和堂フレンドマート東寝屋川店	打上中町 9-5	① ③④⑤⑥ ⑨

(平成 21 年 3 月 31 日現在)

#### 4. ごみ処理の状況

##### ごみ排出量・処理費用の推移

区 分	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
(1) 人口 (年度末現在)	247,163 人	245,380 人	244,189 人	243,232 人	243,351 人	
(2) 世帯 (年度末現在)	102,571	103,101	103,701	104,344	105,493	
(3) 市全体のごみ量	82,813 t	82,285 t	80,242 t	76,634 t	72,581 t	
内 訳	(A) 可燃ごみ	69,220 t	68,784 t	66,960 t	64,160 t	56,588 t
	(B) 古紙・古布	—	—	—	—	3,362 t
	(C) 不燃ごみ	2,700 t	2,867 t	2,856 t	2,486 t	2,651 t
	(D) 臨時ごみ	1,370 t	1,347 t	1,500 t	1,455 t	1,075 t
	(E) 資源ごみ	2,756 t	2,572 t	2,465 t	2,312 t	2,190 t
	(F) 廃プラスチック	3,650 t	3,572 t	3,702 t	3,735 t	4,417 t
	(G) ペットボトル	575 t	560 t	565 t	564 t	
	(H) 持込みごみ	2,542 t	2,583 t	2,194 t	1,922 t	2,298 t
(4) 1 日に出るごみ量 = (3) / 日数	約 227 t	約 225 t	約 220 t	約 209 t	約 199 t	
(5) 市民 1 人 1 日当たり = (4) / (1)	約 918 g	約 919 g	約 901 g	約 859 g	約 817 g	
(6) 年間の処理費用	約 36.5 億円	約 36.6 億円	約 32.6 億円	約 31.4 億円	約 29.1 億円	
(7) 1 日の処理費用 = (6) / 日数	約 1,003 万円	約 1,003 万円	約 893 万円	約 858 万円	約 797 万円	
(8) 1 t 当たりの処理費用 = (6) / (3)	約 44,500 円	約 44,500 円	約 40,600 円	約 41,000 円	約 40,100 円	
(9) ごみ袋 1 つ当たり = (8) / 1000 × 5kg	約 223 円	約 223 円	約 203 円	約 205 円	約 201 円	
(10) 市民 1 人当たり = (6) / (1)	約 14,920 円	約 14,920 円	約 13,350 円	約 12,910 円	約 11,960 円	
(11) 一世帯当たり = (6) / (2)	約 35,500 円	約 35,500 円	約 31,440 円	約 30,100 円	約 27,580 円	

※ 他市依頼分は除く。

※ 整数化していません。

※ 平成 20 年度より、古紙・古布の分別収集開始。

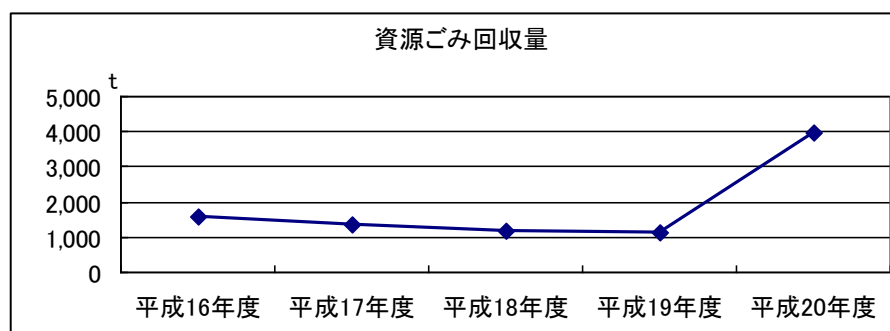
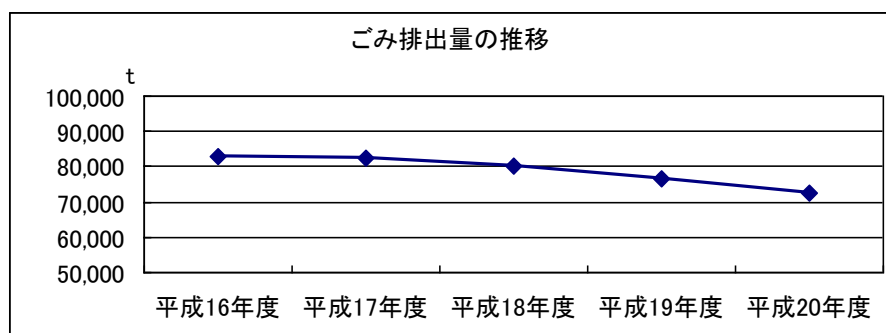
※ 平成 20 年度より、混合収集開始のため廃プラスチックとペットボトルは合計量。

## 資源ごみ回収状況

区 分	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
1. 収集量 (t)	2,756	2,572	2,465	2,312	5,552	
2. 回収量 (t)	1,594	1,370	1,181	1,114	3,974	
内 訳	びん (t)	937	737	624	605	524
	内 白ガラス	401	387	309	297	255
	茶ガラス	276	278	235	225	201
	混合ガラス	260	72	80	83	68
	アルミ (t)	136	131	100	82	73
	スチール (t)	521	502	457	427	366
	再生紙・布 (t)	—	—	—	—	2,934
	硬質プラ (t)	—	—	—	—	16
	その他有価物 (t)	—	—	—	—	61
	3. 売却額 (円)	4,211,839	4,575,370	3,833,531	16,612,311	56,709,672
内 訳	びん (円)	283,249	276,070	255,876	245,721	213,465
	内 白ガラス	210,680	203,208	185,370	178,386	153,084
	茶ガラス	72,569	72,862	70,506	67,335	60,381
	混合ガラス	0	0	0	0	0
	アルミ (円)	3,407,500	3,546,990	2,800,840	7,399,800	9,155,640
	スチール (円)	521,090	752,310	776,815	8,966,790	11,870,475
	再生紙・布 (円)	—	—	—	—	34,556,712
	硬質プラ (円)	—	—	—	—	47,310
	その他有価物 (円)	—	—	—	—	866,070

※ 消費税及び地方消費税の額を含む。

※ 平成 20 年度より、収集量は資源ごみと古紙・古布の合計量。





## 5. クリーンセンターの現状

### (1) 施設概要

- ① 施設名称 寝屋川市クリーンセンター（焼却施設）  
 完成日 昭和55年9月30日  
 処理能力 360 t/日（180 t/日×2基）  
 処理対象物 可燃ごみ  
 焼却炉形式 全連続燃焼式ストーカ炉  
 フロー図 図一廃一1参照
- ② 施設名称 寝屋川市クリーンセンター（破砕施設等）  
 完成日 平成6年3月22日  
 処理能力 破砕75 t/日・切断7 t/日・手選別25 t/日  
 処理対象物 粗大ごみ、不燃ごみ、資源ごみ  
 フロー図 図一廃一2参照

### (2) 排ガス測定結果（平成20年度）

#### ① 一般項目

測定項目	排出基準	測定日					
		6/6	7/18	9/12	12/19	1/17	3/17
ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	0.08	0.031	0.038	0.071	0.065	0.053	0.066
硫黄酸化物 (Nm <sup>3</sup> /h)	7.8	<0.08	<0.07	<0.06	<0.06	0.38	<0.06
窒素酸化物 (ppm)	250	62	53	54	65	66	59
塩化水素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	700	7	17	9	7	64	9

※ 排出基準は「大気汚染防止法」、「大阪府生活環境の保全等に関する条例」によります。

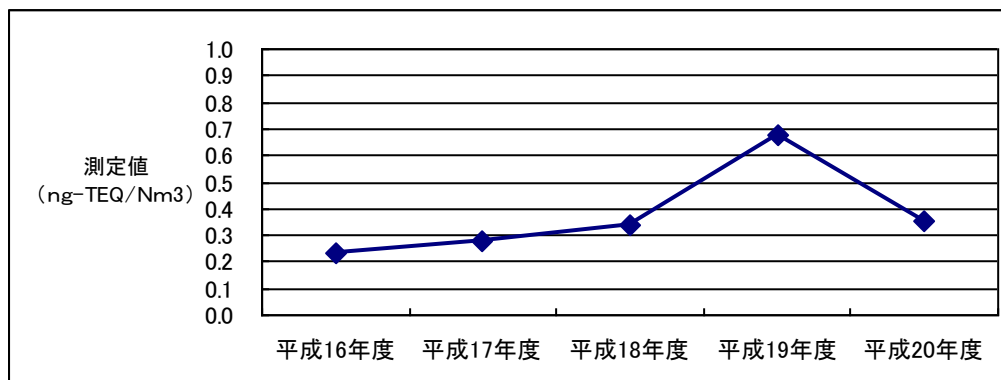
※ 上記の数値はO<sub>2</sub> 12%換算値です。（硫黄酸化物を除く）

②ダイオキシン類（単位：ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>）

測定日	平成16年12月 (平成16年度)	平成17年11月 (平成17年度)	平成18年9月 (平成18年度)	平成20年3月 (平成19年度)	平成21年1月 (平成20年度)
測定値	0.23	0.28	0.34	0.68	0.35

※ 排出基準 1 ng-TEQ/Nm<sup>3</sup>以下

※ コプラナーPCBを含む。



6. 北河内4市リサイクルプラザ

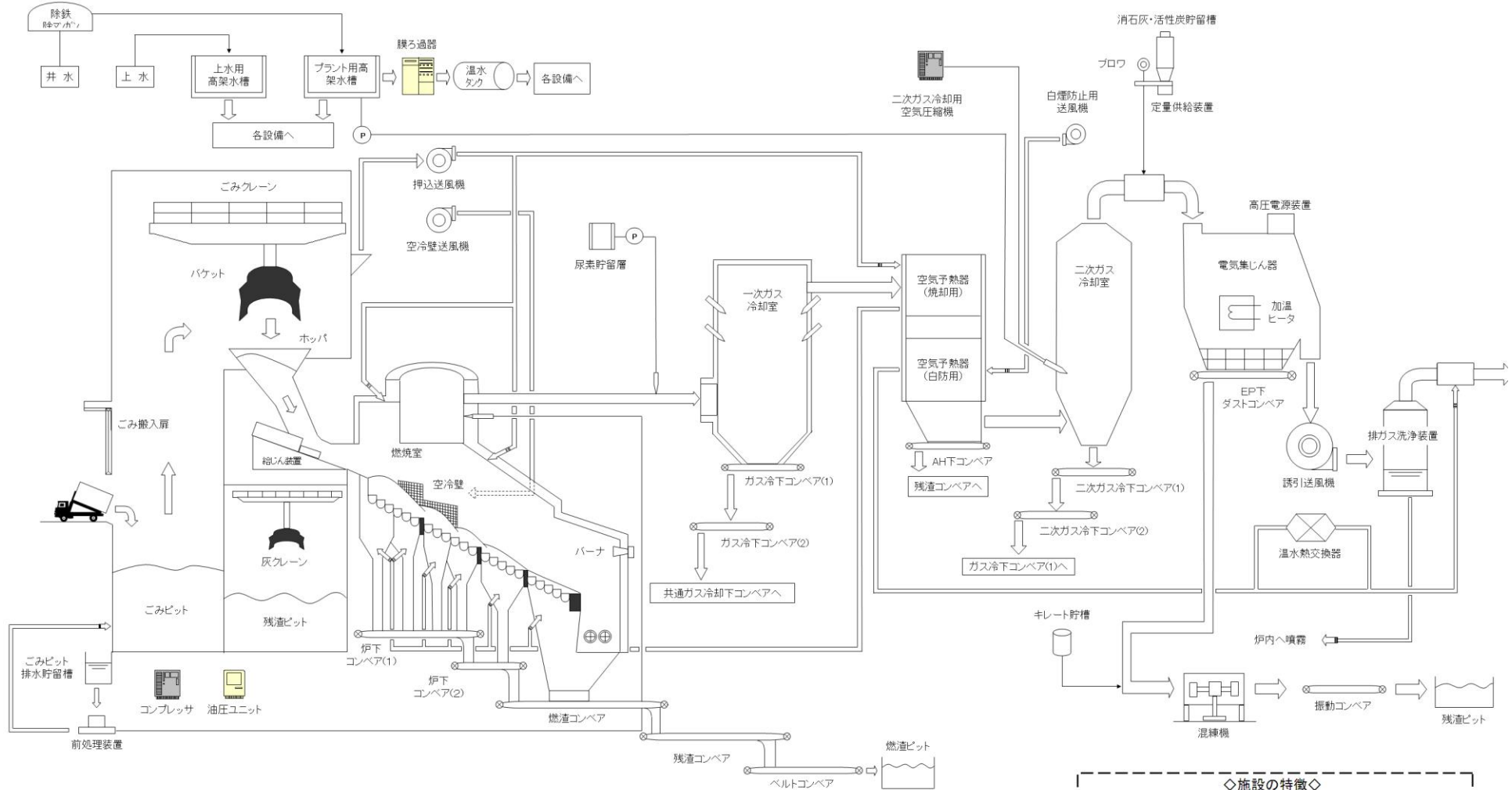
枚方市、寝屋川市、四條畷市、交野市の4市で、循環型社会をめざして、ペットボトルとプラスチック製容器包装のリサイクルに共同で取り組むため、平成16年6月1日に設立された北河内4市リサイクル施設組合により、建設が進められておりました北河内4市リサイクルプラザ（かざぐるま）が、平成20年2月1日から稼動しています。

本施設において、ペットボトルとプラスチック製容器包装を選別し、圧縮梱包した後、指定法人(財)日本容器包装リサイクル協会へ引き渡しリサイクルしています。

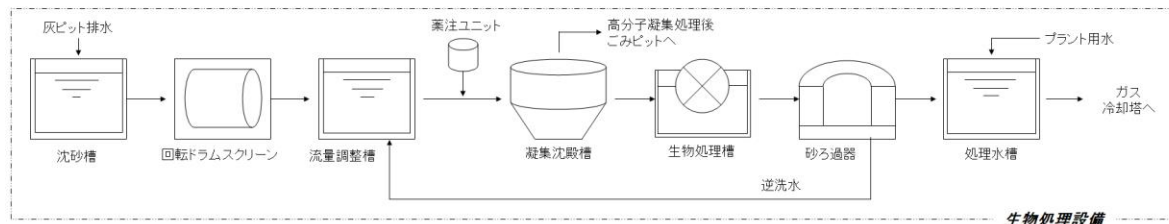
施設概要

名 称	北河内4市リサイクルプラザ（かざぐるま）
所 在 地	寝屋川市寝屋南一丁目7番1号
完 成 日	平成19年12月31日
処 理 能 力	53t/日
処 理 対 象 物	ペットボトル、プラスチック製容器包装
処 理 概 要	選別・圧縮梱包

(図一廃-1) 可燃ごみの処理

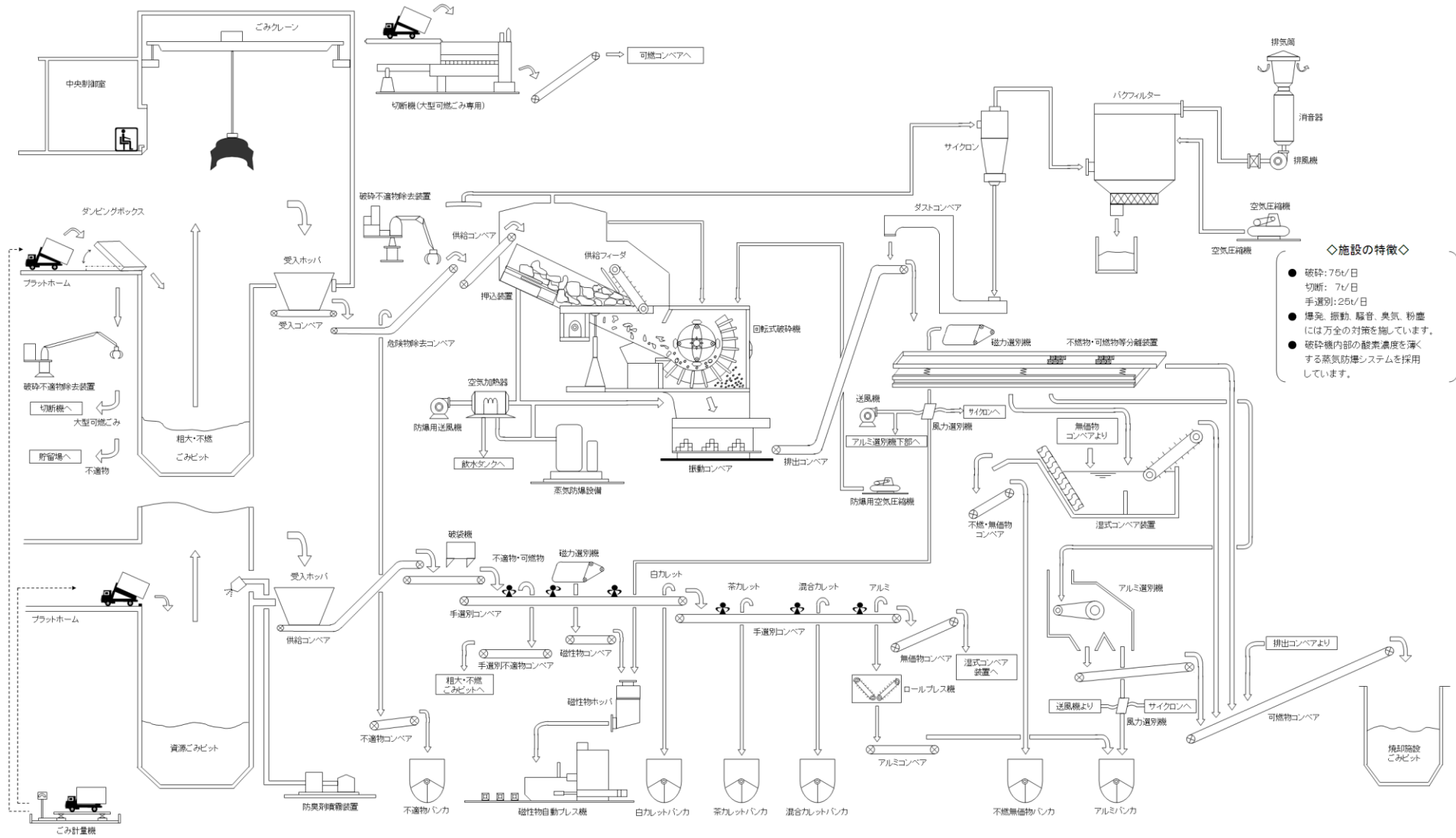


103



- ◆施設の特徴◆
- 焼却能力 180t/日×2基  
竣工 昭和55年9月
  - 電気集塵器でチリを取り、排ガス洗浄装置で有害ガスを取り除きます。
  - におい、排水を外に出さないシステムを採用しています。
  - ダイオキシン類対策に伴う燃焼管理等の徹底(燃焼温度900℃以上)を図っています。
- 燃焼主灰及び飛灰は、重金属処理剤にて重金属の溶出防止処理をした後、埋立処分しています。

(図一廃—2)粗大・不燃・資源ごみの処理



◇施設の特徴◇

- 破砕: 75/日
- 切断: 7/日
- 手選別: 25/日
- 爆発、振動、騒音、臭気、粉塵には万全の対策を講じています。
- 破砕機内部の酸素濃度を薄くする蒸気防爆システムを採用しています。

## 第2節 し 尿

本市のし尿処理は、昭和39年に処理能力54kℓ/日の緑風園第1事業所の操業を開始し、昭和43年に140kℓ/日に改造増設しました。その後人口増による能力不足になり昭和47年に新たに150kℓ/日の緑風園第2事業所を建設し合計290kℓ/日の能力としました。しかし公共下水道の進捗によるし尿処理量の減少に伴い、平成2年には緑風園第1事業所を一部縮小し合計220kℓ/日としました。また浄化槽汚泥の増加に対応するため、平成4年に緑風園第2事業所に浄化槽汚泥処理施設を建設し、150kℓ/日のうち55kℓ/日を浄化槽汚泥専用とし、さらに平成9年には緑風園第1事業所を閉鎖し第2事業所（現在の緑風園）のみで市全域のし尿等を処理しておりました。

年々処理量の減少傾向がつづき、処理能力に対し3分の1程度まで減少しており安定した生物処理が困難な状況となっていました。

平成19年度以降、放流水質の面で現有施設での対応が厳しくなったことから、これらの課題に対応するために処理方式を変更し、搬入されたし尿及び浄化槽汚泥を一次処理（前処理）して分離液を下水道法に定められている水質基準まで希釈した後に公共下水道へ放流しています。

平成20年度末現在、し尿くみとり人口は6,299人（3,153世帯）で総人口に占める割合は約2.58%、浄化槽人口は747人で約0.31%となっています。

し尿収集処理量は6,424kℓ/年で、その内訳は、し尿3,575kℓ/年、浄化槽汚泥2,849kℓ/年となっています。

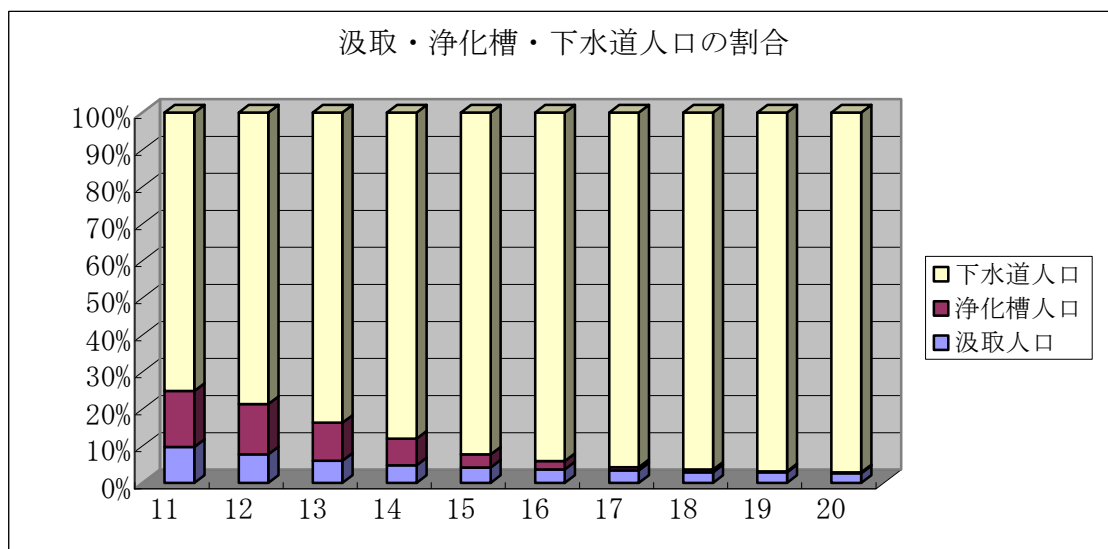
### 施設概要

- |      |         |  |
|------|---------|--|
| 1. 名 | 称       | 寝屋川市緑風園（旧第2事業所）  |
| 2. 所 | 在 地     | 寝屋川市讃良東町7番1号   |
| 3. 敷 | 地 面 積   | 14,026 m <sup>2</sup>  |
| 4. 処 | 理 能 力   | 日平均 34.5kℓ /日<br>（し尿 15.2kℓ ・ 浄化槽汚泥 19.3kℓ）<br>日最大 69.0kℓ /日 |
| 5. 処 | 理 方 式   | 徐さ+希釈放流  |
| 6. 処 | 理 フ ロ ー | 別図のとおり   |

（表一廃－4）汲取り・浄化槽・下水道人口の推移

〔単位：人〕

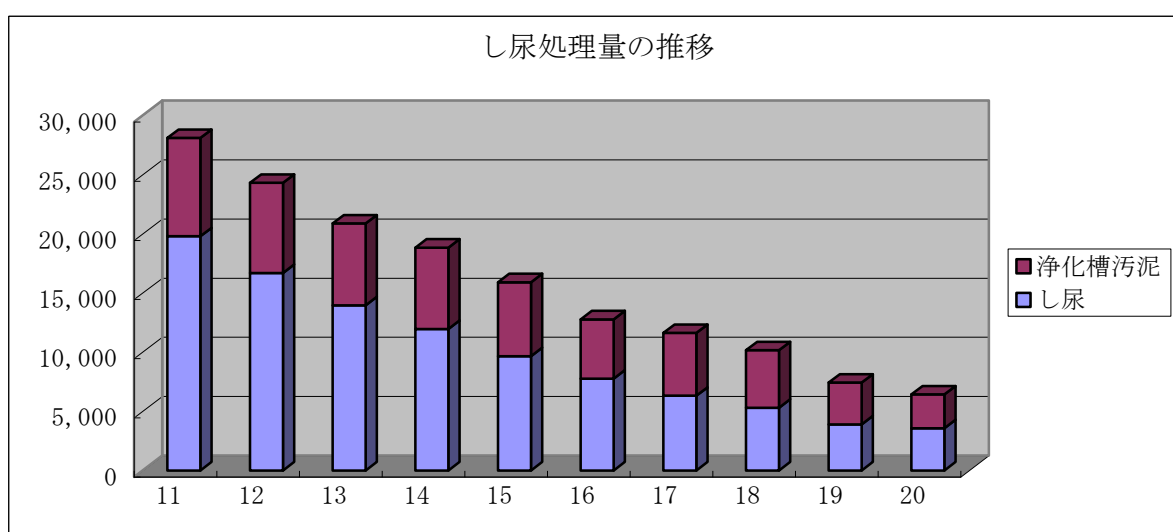
年 度	総人口	汲取人口	浄化槽人口	下水道人口	自家処理
平成 11	254,178	24,690	38,346	190,942	200
12	253,478	19,505	34,383	199,390	200
13	251,639	15,000	25,799	210,640	200
14	250,667	11,944	18,063	220,660	0
15	248,796	10,285	8,771	229,740	0
16	247,163	9,008	5,609	232,546	0
17	245,753	8,397	2,004	235,352	0
18	244,189	7,036	1,747	235,406	0
19	243,232	6,886	786	235,560	0
20	243,351	6,299	747	236,305	0



(表一廃-5) し尿処理量の推移

[単位:k0]

年 度	し 尿	浄化槽汚泥	計
平成 11	19,784	8,307	28,091
12	16,682	7,625	24,307
13	13,950	6,917	20,867
14	11,950	6,880	18,830
15	9,652	6,246	15,898
16	7,772	4,991	12,763
17	6,320	5,302	11,622
18	5,303	4,860	10,163
19	3,902	3,522	7,424
20	3,575	2,849	6,424



(表一廃－6) 緑風園下水道放流水水質測定結果 [平成20年度]

測定項目	単位	水質基準	測定結果(平均値)
水素イオン濃度(PH)		5~9	7.0
生物学的酸素消費量(BOD)	mg/ℓ	600	93
化学的酸素消費量(COD)	mg/ℓ	—	120.4
浮遊物質(SS)	mg/ℓ	600	194.2
全窒素(T-N)	mg/ℓ	240	37.2
全磷(T-P)	mg/ℓ	32	4.7

基準値は、下水道法及び寝屋川市下水道条例による。

測定回数：年12回

(表一廃－7) 緑風園臭気測定結果(第1号規制 敷地境界線)

測定項目	規制基準値 (ppm)	測定結果	
		A地点	B地点
アンモニア	1	0.1 未満	0.1 未満
		0.1 未満	0.1 未満
メチルメルカプタン	0.002	0.001未満	0.001未満
		0.001未満	0.001未満
硫化水素	0.02	0.001未満	0.001未満
		0.001未満	0.001未満
硫化メチル	0.01	0.001未満	0.001未満
		0.001未満	0.001未満
二硫化メチル	0.009	0.001未満	0.001未満
		0.001未満	0.001未満

規制基準値は、悪臭防止法による。

測定日：上段 H20. 9. 1測定

下段 H21. 3. 2測定

(表一廃－8) 緑風園臭気測定結果 (第2号規制 気体排出口)

測定項目	規制基準値 (m <sup>3</sup> N/h)	測定結果	備考
アンモニア	97	0.1未満	
硫化水素	1.9	0.001未満	
メチルメルカプタン	0.19	0.001未満	悪臭防止法で規制されていないが、参考として測定
硫化メチル	0.97	0.001未満	
二硫化メチル	0.87	0.001未満	

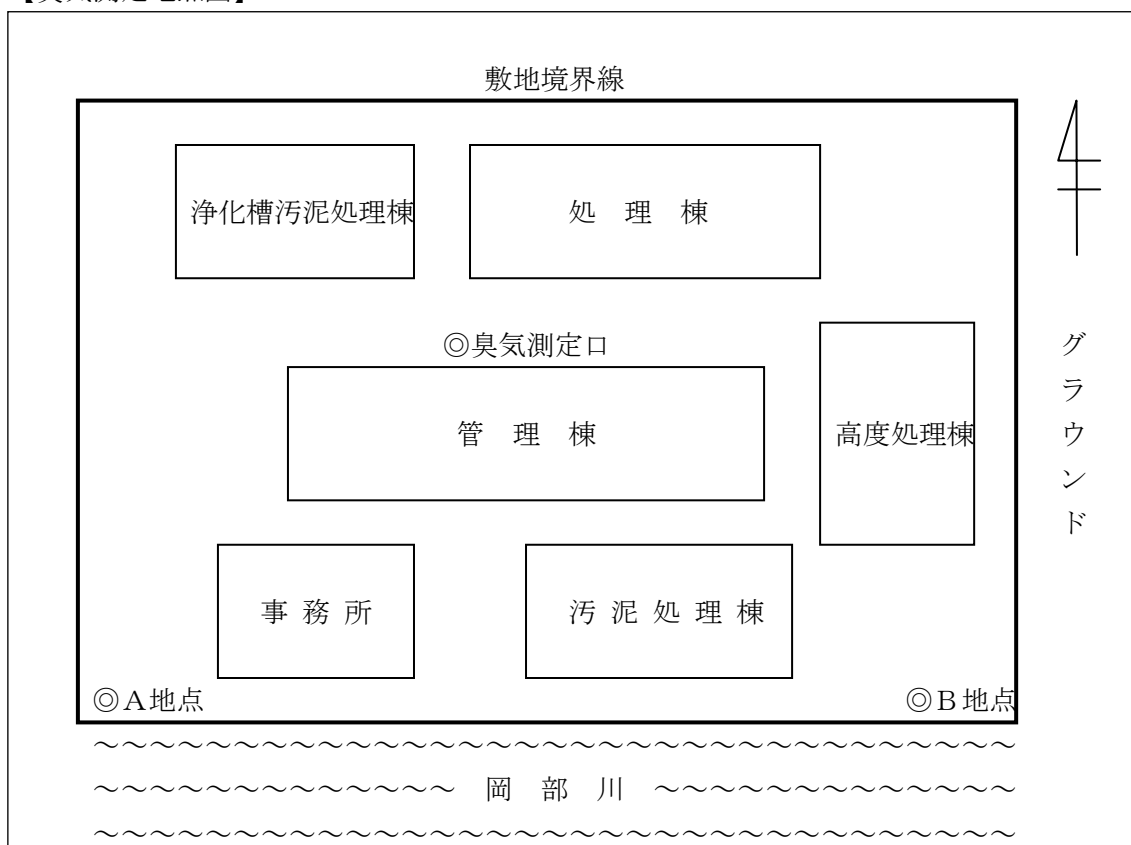
規制基準値は、悪臭防止法施行規則で定める換算式により、排出口における規制基準の算出による。

測定日 : H20. 9. 1測定

緑風園排ガス測定結果 [平成20年度]

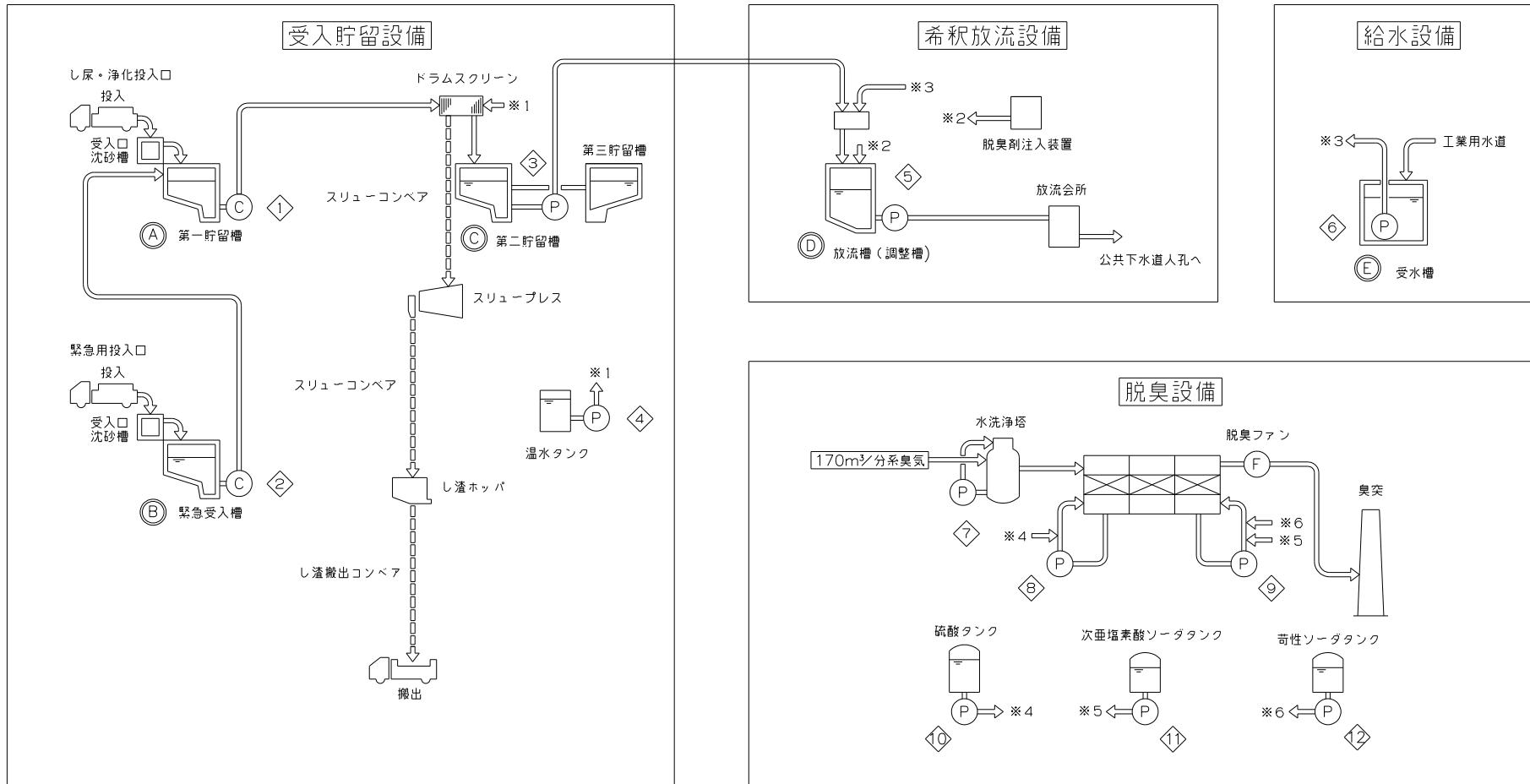
平成19年度より公共下水道に処理水を放流する処理方式を変更しているため、焼却炉は不用となったため排出ガスは発生しておりません。

【臭気測定地点図】





# 公共下水道放流フローシート



109

## 凡 例

①	破砕機ポンプ	⑥	希釈ポンプ	⑪	次亜塩素酸ソーダ注入ポンプ	Ⓒ	第三貯留槽(予備槽)
②	破砕機ポンプ	⑦	循環ポンプ	⑫	苛性ソーダ注入ポンプ	Ⓓ	放流槽
③	移送ポンプ	⑧	酸循環ポンプ	Ⓐ	第一貯留槽	Ⓔ	受水槽(工業用水)
④	温水洗浄ポンプ	⑨	アルカリ循環ポンプ	Ⓑ	緊急用受入槽		
⑤	放流ポンプ	⑩	硫酸注入ポンプ	Ⓒ	第二貯留槽		



# 第10章 地球環境





## 第10章 地球環境

### 第1節 地球環境問題

今日の環境問題は、依然として発生している公害や、生活排水による水質汚濁や自動車排ガス等の都市・生活型公害だけでなく、人口の増加、社会経済活動の拡大により、温室効果ガスによる地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨等地球規模にまで広がり、その影響が将来の世代にまで及ぼされるものとなっています。

このため、国はオゾン層保護法（昭和63年）、環境基本法（平成5年）、環境基本計画の策定（平成6年）、地球温暖化対策の推進に関する法律（平成10年）等様々な取組を始めました。

寝屋川市でも、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく温室効果ガスの排出量の削減と排出抑制のため「寝屋川市役所温暖化対策実行計画」を平成13年2月に策定し、環境政策の基本的な考え方や長期的な目標を示して、施策の方向性を明らかにする「寝屋川市環境基本計画」を平成14年2月に公表しました。

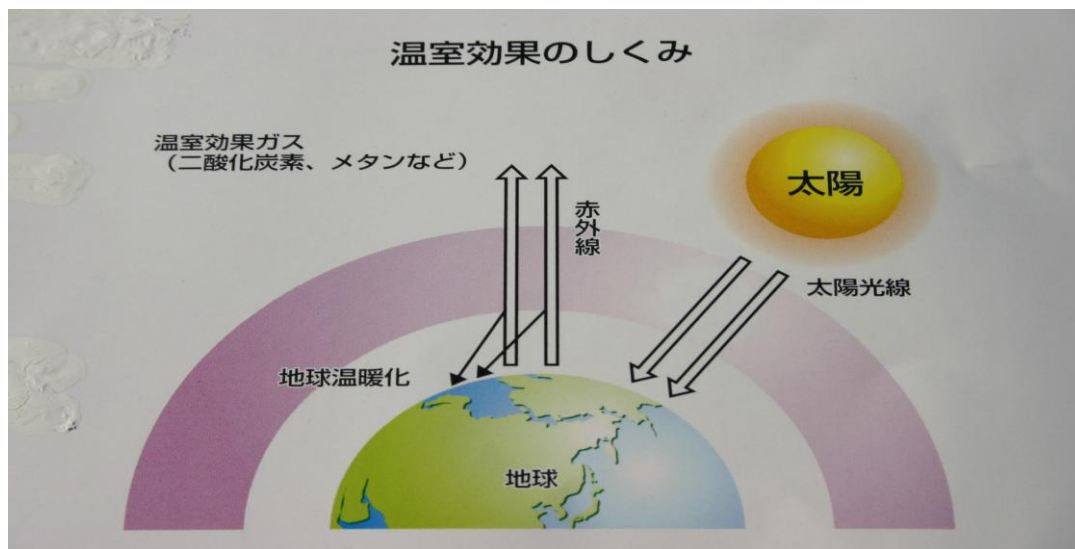
### 第2節 地球温暖化防止

#### 1. 地球温暖化

大気中の二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素などの「温室効果ガス」は、太陽光により温まった地表から放出される赤外線を吸収し、再び放射することにより、地表と大気を温めて熱を宇宙空間に逃がしにくくしています。このようにして地球は生物の生存に適した微妙な気温に保たれているのです。

しかし、近年の人間活動によって、この温室効果ガスが大量に大気中に排出されるようになり、その結果、大気中の温室効果ガスの濃度が高まり、地表面付近の気温が徐々に上昇しています。この現象を「地球温暖化」といいます。

(図－地球－1)



## 2. 地球温暖化防止対策について

平成9年12月に開催された地球温暖化防止京都会議では二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、ハイドロフルオロカーボン（HFC）、パーフルオロカーボン（PFC）、六フッ化硫黄の6種類のガスを温室効果ガスとし、平成20年から平成24年までに平成2年（HFC等は平成7年）の排出量から先進国全体で少なくとも5%、中でも日本は6%、アメリカは7%、EUは8%削減することで合意しました。また平成10年10月に「地球温暖化対策の推進に関する法律」が制定され、温室効果ガスの排出抑制のための実行計画の策定が国だけでなく、地方公共団体にも義務づけられ、事業者にも努力を求めることになりました。これを受けて寝屋川市は、温室効果ガスの排出量の削減に取り組むために平成13年2月に「寝屋川市役所温暖化対策実行計画」の策定し、エアコンの適正温度管理、重油から電気への切り替え、廃プラスチックの分別収集などを促進し、一定の成果をあげています。

平成17年から新たに「第2期寝屋川市役所温暖化対策実行計画」を策定し、なお一層の温暖化対策に取り組んでいます。

## 3. 第2期寝屋川市役所温暖化対策実行計画温室効果ガス排出量調査結果

平成16年度を基準年として、平成17年から21年の間で温室効果ガス総排出量の6%削減を目標に取り組んでいます。

※第1期寝屋川市役所温暖化対策実行計画から電気やガス等二酸化炭素換算係数を変更し、調査対象も小中学校などを追加しています。

### 温室効果ガス別比較

		CO <sub>2</sub>	CH <sub>4</sub>	N <sub>2</sub> O	HFC	総排出量
H17年度	排出量	29,969 t	2 t	1,316 t	3 t	31,290 t
H18年度	排出量	28,813 t	2 t	1,296 t	3 t	30,114 t
H19年度	排出量	27,902 t	1,693 t	1,232 t	3,783 t	29,140 t
H20年度	排出量	25,010 t	1,536 t	1,108 t	3,686 t	26,123 t
	H20/H16	85.3%	82.0%	84.2%	121.2%	85.2%

### 活動区分別比較

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H20/H16
燃料の使用	3,088 t	2,834 t	2,650 t	2,506 t	79.7%
電気の使用（施設）	5,669 t	5,982 t	5,883 t	5,568 t	97.6%
電気の使用（事務所等）	4,136 t	4,025 t	4,054 t	4,025 t	99.0%
廃棄物の処理	17,688 t	16,599 t	15,896 t	13,404 t	79.0%
自動車の使用	705 t	670 t	652 t	616 t	81.2%
その他	4 t	3 t	4 t	4 t	91.6%
温室効果ガス総排出量	31,290 t	30,114 t	29,140 t	26,123 t	85.2%

グリーン購入法に基づく調達率

平成20年度 特定調達物品 調達実績調査表 (平成20年4月1日～平成21年3月31日迄)						
品目及び 選択基準	種 類		総 数	グリーン商品 (枚数・個数・台 数)	グリーン商品以 外 (枚数・個数・台 数)	グリーン商品 調達率
1. コピー用紙 「古紙配合率 100%・白色度 70%以下」	コ ピ ー 用 紙		7,911,600	※	※	※
文具類 (単価契約物品) 合 計			42,401	42,401		100%
3. 衛生用紙類 「古紙配合率 100%」	トイレットペーパー		77,000	77,000		100%
4. 公用車(軽バ ン)「京阪神6府 県市指定排出ガ ス車(LEV-7)の 「超低排出ガス レベル」と同等 の車」	軽 バ ン		23			
5. 制服(冬服) 及び作業服「再 生PET樹脂から 得られるポリエ ステル50%以上 (エコマーク認 定相当品)のも の」	制 服	制 服 ( 冬 服 )	52	52		100%
		制 服 ( 夏 服 )	93	93		100%
		作 業 服	310	310		100%
6・クリーン業 務課の収集作業 従事者の作業用 Tシャツ「再生 PET樹脂から得 られるポリエス テル100%のも の」	T シ ャ ツ					

※ 平成20年度のコピー用紙について、「古紙配合率100%、白色度70%以下」であるという選択基準であったが、製紙会社の古紙配合率偽装により、実配合率が不明なものが存在するため、実績調査の対象からはずしています。

### 第3節 オゾン層の破壊

#### 1. オゾン層の破壊

エアコン、洗浄剤等で使用されているクロロフルオロカーボン（CFC）等は化学的に安定なため、大気中に排出されると地表近くの対流圏ではほとんど分解されず、成層圏まで達し、太陽の紫外線により分解されて生じる塩素原子等によりオゾン層が破壊されます。このため有害な紫外線の地上への到達量が増大し、人の健康や生態系に悪影響を及ぼすものです。

南極上空では、毎年南極の春にあたる9月から11月頃にかけて成層圏のオゾンが著しく少なくなる「オゾンホール」と呼ばれる現象が起きており、1998年（平成10年）には過去最大規模のオゾンホールが確認されています。また北半球高緯度地域においても、平成9年の冬から春にかけて、顕著なオゾン量の減少が確認されています。

しかし、平成7年末のCFC等の生産全廃により、南極上空のCFC等の対流圏中濃度の増加率の低下が始まっており、北半球中緯度地域（北海道上空）の対流圏でもCFC濃度の増加がほとんど止まっており、CFC等に由来する対流圏中の塩素等の濃度は平成7年には減少に転じたことが確認されています。ただ過去に生産されたCFC等が機器のなかに相当量残っており、廃棄される際に回収し、破壊処理することがオゾン層の保護のために必要になります。またCFC等の代替物質であるHFC等は温室効果が大きいことから排出抑制が必要になります。

#### 2. オゾン層の保護対策

オゾン層の保護のために、「ウィーン条約」（1985年）、「モントリオール議定書」（1987年）が締結され、国際的な取組が進められており、日本でも昭和63年にオゾン層保護法が制定され、生産規制、排出抑制、使用の合理化を実施するとともに、環境基本法、国の環境基本計画、地球温暖化対策の推進に関する法律等でも取組を進めています。モントリオール議定書はその後平成9年までに4回改正され、規制が強化されています。

大阪府でも平成6年9月に「大阪府フロン回収検討協議会」を設置して回収モデル事業を実施し、続いて平成8年3月には同協議会を改組して「大阪府フロン対策協議会」を設置、市町村の回収事業を支援しています。

平成13年4月に施行された家電リサイクル法により、平成13年度以降は、冷蔵庫からのフロンを回収していません。



## 第4節 環境保全の取組

### 1. 環境基本計画

環境をとりまく情勢は近年大きく変わり、人口の増加、社会経済活動の拡大により、環境が本来持っていた復元力を超えた、資源の採取、化学物質の生産、廃棄物の排出等による環境の汚染が大きな問題になっています。

このため国は、平成5年にそれまでの公害対策基本法に代えて、環境基本法を制定し、環境の保全について基本理念を定め、国、地方公共団体、事業者、国民の責務を明らかにするとともに、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進することによって健康で文化的な生活の確保と人類の福祉に貢献することにしました。また環境の保全に関して、同法第15条で国の環境基本計画の策定、公表を定め、第7条では地方公共団体は、その区域の自然的社会的条件に応じた施策を策定し、実施する責務を有することとされました。

### 2. 環境基本計画の策定

環境基本法に基づく国の環境基本計画は平成6年12月に策定され、大阪府も平成8年3月に大阪府環境総合計画を策定しています。府内では平成15年度末で17市が策定済となっています。

寝屋川市でも平成11年度から本市における環境政策の基本的な考え方と長期的な目標を示して、施策の方向を明らかにする「環境基本計画」の策定に取り組むことになり、平成11年10月には庁内検討委員会を発足、その後、環境保全審議会で継続的に審議を行い、平成14年2月に「寝屋川市環境基本計画」を公表しました。



# 第11章 化学物質



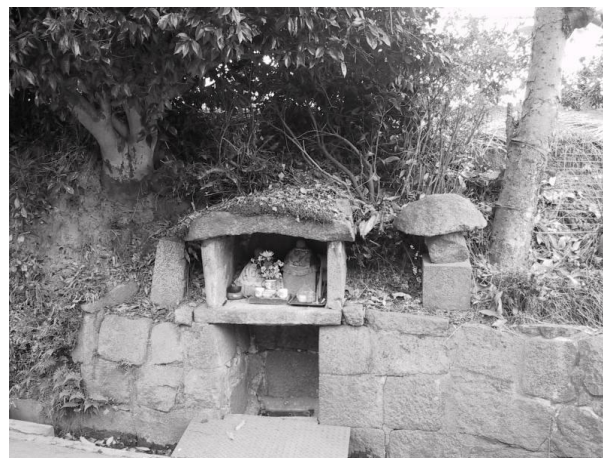
○ 国松町



○ 湯屋が谷



○ 田井町



○ 打上元町

## ◇弘法井戸

弘法大師にまつわる話しは全国各地にあります。

弘法大師（空海）は水なき所に池を掘り、橋なき所に橋を架け、貧しいものには食を得る方法を教え、病む者のためには良医になったといわれています。

弘法井戸は、市内4ヶ所（国松町、湯屋が谷、田井町、打上元町）あり、日照りが続いても涸れるようなことはなかったと語り継がれています。



# 第 1 1 章 化 学 物 質

## 第 1 節 ダイオキシン類

ダイオキシン類は、毒性が強い化学物質です。また、有機塩素化合物の生産過程や廃棄物の焼却過程で非意図的に生成されるので、その発生源は多岐にわたっています。

ダイオキシン類による環境汚染は、大気、水、土壌等の複数の環境媒体にまたがる問題であり、健康への影響を未然防止する観点から総合的な検討を進める必要があります。

### (1) ダイオキシン類とは

ポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン (PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン (PCDF) コプラナーポリ塩化ビフェニル (コプラナーPCB) をまとめてダイオキシン類と呼んでいます。

ダイオキシン類には、PCDDには 75 種類、PCDFには 135 種類、コプラナーPCBには 13 種類の異性体があり、それらの毒性は異なるため 2, 3, 7, 8-四塩化ジベンゾーパラージオキシン (2, 3, 7, 8-TCDD) の毒性を 1 として、毒性等価係数 (TEF) を用いて 2, 3, 7, 8-TCDDの毒性に換算し、毒性の強さを (TEQ) として表示します。

### (2) ダイオキシンの性状

無色無臭、常温で固体であり、水に溶けにくく脂肪などに溶けます。

### (3) ダイオキシンの毒性

発ガン性、生殖毒性、催奇形性、環境ホルモン様作用など幅広い毒性を持つことがわかっています。

### (4) ダイオキシンの発生

ダイオキシンの発生は、大半が燃焼工程からのものであり、主な発生源はごみ焼却施設、産業廃棄物焼却施設、金属精錬施設から発生します。

## 1. 発生源対策

### (1) 焼却施設

焼却施設の排出ガス中のダイオキシン類濃度基準 (表一化一 1) が定められています。

(表一化一 1) ダイオキシン類濃度基準

[単位 : ng-TEQ/N m<sup>3</sup>]

区 分		廃棄物焼却の規模 (焼却能力)		
		50kg/時以上 2 t/時未満	2 t/時以上 4 t/時未満	4 t/時以上
濃度基準	新 設	5	1	0.1
	既 設	10	5	1

新設とは、H.12.1.16以降に設置されたもの。

既設とは、H.12.1.15以前に設置されたもの。

(2) ダイオキシン類対策特別措置法

ダイオキシン類による環境汚染の防止やその除去等を図り、国民の健康を保護することを目的とし、そのための施策の基本とすべき基準が決められました。

(平成 12 年 1 月 15 日施行)

耐容 1 日摂取量	4 pg-TEQ/kg 体重/日 *生涯摂取し続けても健康に影響がない体重 1 kg あたりの 1 日摂取量
大気環境基準値	0.6 pg-TEQ/m <sup>3</sup>
水質環境基準値	1 pg-TEQ/l
土壌環境基準値	1000 pg-TEQ/g

2. ダイオキシン類調査

(1) 大気中のダイオキシン類濃度調査

市内の成田局（成田町）で春季、夏季、秋季、冬季に大気環境中のダイオキシン類濃度測定を実施し、結果は大気環境基準値を下回っていました（表一化-2）。

(表一化-2)

[単位：pg-TEQ/m<sup>3</sup>]

測定日	調査結果	年平均	大気環境基準
平成 20 年 5 月 15 日～22 日	0.029	0.030	0.6
平成 20 年 8 月 21 日～28 日	0.020		
平成 20 年 10 月 23 日～30 日	0.034		
平成 21 年 1 月 15 日～22 日	0.051		

(2) 河川中のダイオキシン類濃度調査

市内の南水苑町にある南水苑橋で、寝屋川の水質および底質のダイオキシン類濃度を調査した結果、環境基準値を下回っていました（表一化-3）。

(表一化-3)

[単位：水質 pg-TEQ/l]

調査地点	測定日	調査結果	環境基準
寝屋川（南水苑橋）水質	平成 20 年 11 月 5 日	0.14	1.0
寝屋川（南水苑橋）底質	平成 20 年 11 月 5 日	1.7	150

(3) 土壌中のダイオキシン類濃度調査

市内の都市公園のうち成田公園、三井公園、木屋元町公園で土壌のダイオキシン類濃度を調査した結果、土壌の環境基準値を大幅に下回っていました（表一化-4）。

(表一化-4)

[単位：土壌 pg-TEQ/g]

調査地点	測定日	調査結果	土壌環境基準
池田 1 号公園	平成 20 年 11 月 5 日	1.5	1000
高柳栄町公園		1.5	
初本町公園		1.3	

## 第2節 アスベスト

アスベストは石綿（「いしわた」又は「せきめん」）とも言われ、天然に存在する繊維状の物質です。アスベストは軟らかく、耐熱・対磨耗性に優れているため、ボイラー暖房パイプの被覆、自動車のブレーキ、建築材など広く利用されていました。

しかし、アスベストを多量に吸収すると、15～40年の長期間を経た後に「肺がん」や「中皮腫」を発症するおそれがあると言われており、平成17年6月に石綿製品使用製品を製造していた工場の周辺に長期間居住していた住民に中皮腫発症者が存在することが公表されたことから、アスベストによる健康被害に対する不安・懸念が高まっています。WHO（世界保健機構）では、アスベストを肺がん物質と断定し、日本でも大気汚染防止法により、1989年に「特定粉じん」に指定され、使用制限されるようになりました（吹付け石綿は昭和50年に施工の原則禁止、成形板は平成16年10月に製造禁止）。

（財団法人環境情報普及センターEIC ネット参照）

（大阪府環境管理室：大阪府生活環境の保全等に関する条例運用マニュアル参照）

大気汚染防止法を所管している大阪府では、平成20年10月21日から11月12日の間に府域4地点で調査を行ないました。各調査地点におけるアスベスト濃度の平均値はN.D.（※1）～0.063本/Lでした。寝屋川市域の測定は、行われていません。

また、アスベストを含む建築材料を使用した建築物や工作物の解体・改造・補修の作業にあたっては、法令によりアスベストの飛散防止措置をとることが規定されています。

大阪府ならびに寝屋川市は、一定規模以上のアスベストの解体現場に立入し、適正に除去されているかを確認しております。

世界の都市部の一般環境中の石綿濃度は1本～10本/L程度であり、この程度であれば、健康リスクは検出できないほど低い。（※2）

（※1）N.D.（Not Detected）は、検出下限値0.057本/L未満を示す。

（※2）WHOの環境保健クライテリア

## 石綿に係る主な規制の推移

	規 制 内 容
昭和 46 年 4 月	「特定化学物質等障害予防規則（特化則）」の制定（昭和 46 年 5 月施行） （製造現場等における集じん装置の設置等の予防対策措置）
昭和 50 年 9 月	「特定化学物質等障害予防規則（特化則）」の改正（昭和 50 年 10 月施行） （石綿の吹付け作業の原則禁止）
平成元年 6 月	「大気汚染防止法」の改正（平成元年 12 月施行） （特定粉じんとして石綿が指定され、石綿製品工場の敷地境界における石綿粉じん濃度の規定）
平成 6 年 10 月	「大阪府生活環境の保全等に関する条例」の改正（平成 6 年 11 月施行） （法規制対象外の施設を規制対象に）
平成 7 年 1 月	「労働安全衛生法施行令・同規則」の改正（平成 7 年 4 月施行） （アモサイト（茶石綿）、クロシドライト（青石綿）の製造禁止）
平成 8 年 5 月	「大気汚染防止法」の改正（平成 9 年 4 月施行） （建築物の解体作業等に対する規制措置）
平成 15 年 10 月	「労働安全衛生法施行令」の改正（平成 16 年 10 月施行） （石綿含有製品（建材・摩擦材等）の製造等の禁止）
平成 17 年 2 月	「石綿障害予防規則」の制定（平成 17 年 7 月施行） （建築物等の解体等の作業におけるばく露防止対策）
平成 17 年 10 月	「大阪府生活環境の保全等に関する条例」の改正（平成 18 年 1 月施行） （届出対象の拡大、事前調査の義務付け、作業実施基準の強化等）
平成 17 年 12 月	「大気汚染防止法施行令及び施行規則」の改正（平成 18 年 3 月施行） （特定建築材料の追加、作業基準の強化等）
平成 18 年 2 月	「石綿による健康等に係る被害の防止のための大気汚染防止法の一部を改正する法律」の制定（平成 18 年 10 月施行） （大気汚染防止法：工作物の解体等作業の飛散防止対策） （建築基準法：吹付けアスベスト等の使用規制） （廃棄物の処理及び清掃に関する法律：アスベスト廃棄物の熔融による無害化処理を促進・誘導） （地方財政法：地方公共団体が行う公共施設に係るアスベストの除去に要する経費を地方債の特例対象）
平成 18 年 7 月	「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」の改正（平成 18 年 10 月施行） （石綿含有率 0.1%超の廃棄物（廃石綿等を除く）を「石綿含有廃棄物」と定義） （建築物等の解体等に伴う石綿含有廃棄物の飛散防止措置）
平成 18 年 8 月	「労働安全衛生法施行令及び石綿障害予防規則」の改正（平成 18 年 9 月施行） （アスベストの製造禁止等：対象を石綿含有率 0.1%超に拡大） （作業者のばく露防止措置の充実、封じ込め、囲い込み作業に係る措置）
平成 18 年 9 月	「大阪府生活環境の保全等に関する条例」の改正（平成 18 年 10 月施行） （規制対象の拡大：石綿含有率 0.1%超に拡大）

（大阪府環境管理室：大阪府生活環境の保全等に関する条例運用マニュアル参照）



# 資料 公害用語の解説



## 公害用語

### 【あ行】

#### ◇亜鉛：Zn

亜鉛化合物

塩化亜鉛、炭酸亜鉛、酸化亜鉛等があり、防錆、電池、ボイラーの防食等の用途がある。亜鉛は、生物にとって必須元素であるが、多量に摂取すれば障害を起こす。

また、不純物として含まれるカドミウムも問題となっている。

#### ◇アルキル水銀（R-Hg）

水俣病の原因とされており、アルキル水銀を含む魚介類を長期に摂取すると、慢性中毒となり、知覚、聴力、言語障害、視野の狭さく、手足のマヒなどの中枢神経障害などを起こして死亡する場合もある。主な原因は、化学工場、乾電池製造など。

#### ◇暗騒音

ある音を測定対象とした場合、対象の音以外の音に対し「暗騒音」という。

#### ◇アスベスト（石綿）

天然に産する鉱物群を繊維状にしたもので、高い張力と柔軟性を持つ、絹糸状光沢の特異な繊維状集合を成すものの俗称である。耐熱性、防織性、経済性等に優れていることから、建築物の耐火被覆材、保温材等に使われている。しかし、繊維が肺に突き刺さったりすると肺がんや中皮腫の原因になることが明らかになり、WHO（世界保健機関）ではアスベストを発ガン物質と断定。このため、大気汚染防止法や大阪府条例などでアスベストの飛散防止対策を講じている。

#### ◇硫黄酸化物（SO<sub>x</sub>）

硫黄分を含む燃料の燃焼により発生する物質をいい、主なものとしては、二酸化硫黄（SO<sub>2</sub> 亜硫酸ガス）と三酸化硫黄（SO<sub>3</sub> 無水硫酸）とがあり、大気汚染の原因の部分には、亜硫酸ガスによるもの

のと考えられている。刺激性が強く1～10ppm程度で呼吸器機能に影響を及ぼし、ときには感冒症候群、気管支喘息、咽喉頭炎などの障害を起こしたりもする。

主な発生源は重油燃焼ボイラー、硫黄製造工場、ごみ焼却場などがある。

#### ◇一酸化炭素（CO）

空気と混合拡散しやすい無色無臭の気体で炭素又は炭素化合物が不完全燃焼するか炭酸ガスが赤熱した炭素と接触するときに発生するもので、血液中のヘモグロビンと結合し酸素の呼吸を阻害し、ひどいときには窒息に至る。

主な発生源は、自動車排ガスで、不完全燃焼によって発生する。

#### ◇塩化水素（HCl）

無色の刺激性の強いガス体で、空気より重く、水に溶解すると塩酸となり金属溶解性が強く腐食性物質としてあらわれる。人体に対し腐食性毒として働き、5ppmで鼻粘膜に明確な刺激がある。

#### ◇オゾン（O<sub>3</sub>）

紫外線・X線等の短波光線が酸素分子に反応すると発生する。特有の青色の気体で熱・光によって分解されやすく強い酸性があり、吸引すると呼吸困難等を起こす。対流圏（地上付近）のオゾンは、オキシダントの主成分であり、成層圏のオゾンは、太陽からの有害紫外線を遮断している。

### 【か行】

#### ◇化学的酸素要求量（COD）

水中の有機物を酸化剤で酸化したときに消費する酸素量を表したものである。酸化剤として、一般的に過マンガン酸カリウムが使われる。

#### ◇カドミウム（Cd）

塩化カドミウム、酸化カドミウム、炭酸カドミウム等があり、摂取すると肝臓や腎臓に蓄積し、機能障害を起こす。

また、カルシウムが失われて骨軟化症を起こすこともある。主な発生源は、メッキ工場、電子機器製造業、電池の製造業など。富山県神通川流域に発生したイタイタイ病はカドミウムが原因である。

#### ◇環境アセスメント（環境影響評価）

環境に影響を及ぼす恐れのある事業の計画案の決定に先立ち、社会的に開かれた手続きのもとでその影響の程度等を事前に調査、予測評価し、計画案の決定に反映させる手続きのこと。

#### ◇光化学オキシダント（O<sub>x</sub>）

大気中の窒素酸化物、炭化水素等が太陽からの強い紫外線を浴びると光化学反応を起こし、酸化性物質が発生する。光化学オキシダントとは、これらの酸化性物質の総称で目に痛みを覚えたり、呼吸器等に悪影響を及ぼしたりする。

#### ◇公共用水域

水質汚濁防止法では、河川、湖沼、港湾、沿岸海域、その他の公共の用に供される水域及びこれに接続する公共溝渠、灌漑用水路、その他公共の用に供される水路、ただし、公共下水道及び流域下水道で終末処理場を設置しているものを除く。

#### 【さ行】

#### ◇シアン（CN）

青酸カリで知られる有害な物質で、シアンが作用すると組織内窒息を起こして死亡する。通常は数秒ないし数分で中毒症状が現れ、頭痛、めまい、けいれんなどを起こして死亡し、少量摂取の場合は、耳鳴り、おう吐などを起こす。主な発生源は、メッキ工場、製鉄所、化学工場など。

#### ◇振動レベル

振動の加速度を d B で表した加速度レベルに振動感覚補正を加えたもので単位は「d B（デシベル）」をもちいる。

通常、振動感覚補正回路をもつ公害用振動レベル計により測定した値である。

地震の震度でみると人体に振動を感じない「震度 0」は 55 d B 以下であり、「震度 1」が 55～65 d B に相当する。

#### ◇水素イオン濃度（pH）

水質の酸性やアルカリ性の程度を示す指標であって、pH 7 は中性を、それ以上は、アルカリ性、それ以下は酸性を示す。水道水として望ましい水質は pH 6.5～8.5 までの範囲である。

#### ◇生物化学的酸素要求量（BOD）

河川中の汚染物質が水中の微生物により酸化され、炭酸ガスなどに分解される時、微生物が必要とする酸素量をいい、数値（mg/L）が大きいほど水質汚濁の著しいことを示す。

#### ◇シアン化合物

青酸カリ（KCN）、青酸ソーダ（NaCN）等の総称。一般に無色の結晶で、空気中で分解し、シアン化水素を発生する。主な発生源は、金属精錬、メッキ工場、有機合成等です。摂取すると頭痛、吐き気、失神、呼吸困難、けいれん等の症状が現れ、死亡する。

#### ◇騒音

「好ましくない音」の総称。主観的なものであるため、受ける影響も個人差があり、人によって大きく異なるものである。数値で示す場合、音の大きさを d B（デシベル）で示す。主な騒音には、工場騒音、建設騒音、自動車騒音などがある。

#### ◇総水銀（T-Hg）

総水銀とは、アルキル水銀など有機水銀と無機水銀の総称。有機水銀に比べて無機水銀は、一応人体には、無毒とされているものの、自然界で有機水銀化するとの見解があることから、一括して規制されている。

#### ◇総量規制

一定地域内の汚濁（汚染）物質の排出総量を環境保全上許容できる限度にとどめるよう、工場等の汚染（濁）物質の許容排出量を定めて規制する方法を言う。

寝屋川市において、大気関係では窒素酸化物・硫黄酸化物、水質関係では化学的酸素要求量、窒素、りんについて総量規制が実施されている。

#### 【た行】

##### ◇大腸菌群数 (E. Coli)

大腸菌とは、人等動物の腸管内の常在菌である。本来有害なものではないが、水中に検出されることは、し尿汚染の可能性が強く、有害な病原菌の存在の可能性があるので、水質汚濁の指標とされている。大腸菌群とは、グラム陰性、無芽胞性のかん菌で乳糖を分解して、ガスを発生するすべての好気性及び通性嫌気性の菌の総称である。

##### ◇炭化水素 (HC)

炭素と水素からなる化合物の総称。光化学スモッグの原因の一つとされており、炭化水素の一種であるメタンは地球温暖化の一因にもなっているといわれている。人為的発生源は、印刷、塗料、金属の脱脂、クリーニング用溶剤、接着剤等の工場、自動車の排気ガス等がある。

##### ◇ダイオキシン類

ポリ塩化ジベンゾジオキシン (PCDD)・ポリ塩化ジベンゾフラン (PCDF) 及びコプラナー PCB の総称。物の燃焼等の過程で非意図的に生成する物質であり、一般毒性、発ガン性、生殖毒性など多岐にわたる毒性がある。ダイオキシン類特別措置法等により、規制している。

##### ◇窒素 (N)

肥料の三要素の一つで、リンとともに湖沼など閉鎖性水域の富栄養化の原因物質である。水中には、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素有機窒素等いろいろな形態で存在し、海域及び湖沼では、全窒素として環境基準が設定されている。

##### ◇窒素酸化物 (NO<sub>x</sub>)

窒素の酸化物の総称で、自動車の排気ガス、重油・石炭、ボイラー等の燃焼過

程で発生し、一酸化窒素 (NO) 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) が大部分をしめており NO は、刺激性はないが血液中のヘモグロビンと結合して、酸素の供給を阻害し、中枢神経に作用する。NO 粘膜刺激性があり、呼吸器に影響を与える。

##### ◇中央値・90%レンジ

騒音測定 of データ処理する場合、累積度数曲線を用いるが、累積度数が 50% をきる点のレベルを騒音レベルの中央値という。累積度数の 5% から 95% までの値を 90% レンジといい、前者を下端値、後者を上端値という。変動の激しい騒音は、この中央値と変動幅を表す 90% レンジで表すことにより、ほぼその状況を判断することができる。

##### ◇低周波音

人の耳では聞き取りにくいような低い周波数の空気振動のことを言う。低周波空気振動は、騒音と比べ、障壁による遮音効果や解析による減衰が小さく、身体的影響等についても未知な部分が多い。

##### ◇テトラクロロエチレン

脱脂洗浄剤、ドライクリーニング溶剤、フロン 113 の原料、医薬品や香料などに用いられる有機塩素化合物。無色透明の液体で水に溶けにくく、揮発性があり、燃えにくい。また、水より重く、有機物含有量の多い土壌には吸着するが一般的には、吸着しにくく僅かに浸透する。生分解性は低く土壌中では、酸素のない嫌気状態でゆっくり分解する。

##### ◇1,1,1-トリクロロエタン

金属の常温洗浄、蒸気洗浄やドライクリーニング用溶剤に用いられる有機塩素化合物。無色透明の芳香臭のある液体で、燃えにくく揮発性があり、水に溶けにくく、また水より重く、有機物含有量の多い土壌に吸着するが、一般には吸着しにくい。生分解性は低く大気中では比較的安定しており、オゾン層破壊の原因物質のひとつと考えられている。

#### ◇1,1,2-トリクロロエタン

溶剤、塩化ビニリデンの原料、接着剤やラッカーなどの生産に用いられる有機塩素化合物。無色の液体で水に溶けにくく揮発性があり、水より重く、土壤に吸着されにくく成分解性は低い。

#### ◇トリクロロエチレン

機械器具部品の脱脂洗浄剤や溶剤などに用いられる有機塩素化合物。無色透明の液体で水に溶けにくく、揮発しやすい。水より重く、有機物含有量が多い土壤には吸着するが、一般には吸着しにくく、地下に浸透する。生分解性は低く、土壤中では、酸素のない嫌気状態でゆっくり分解する。

#### 【な行】

#### ◇鉛 (Pb)

酸化鉛、塩化亜鉛、有機鉛化合物等がある。大量に体内に入ると急性中毒を起こし、腹痛、おう吐、下痢、尿閉等が現れ、激しい胃腸炎などで死亡することもある。少量の場合は、食欲不振、頭痛、全身倦怠、貧血などを起こす。主な用途は、顔料、鉛電池などがある。

#### 【は行】

#### ◇ヒ素 (As)

一般に毒性が強く、おう吐、下痢、脱水症状、にんにく臭の呼吸、よだれなどを起こし、多量に摂取すると血便血圧降下、けいれんなどにより死亡し長期にわたって少量ずつ摂取すると知覚障害、皮膚障害、肝臓肥大、貧血などを起こし、循環器障害で死亡する。

#### ◇浮遊物質 (SS)

水中に浮遊する物質をいい、一定の量の水をろ紙でこし、乾燥してその重量を測ることとされており、数値 (mg/L) が大きいほど水質汚濁が著しい。

#### ◇浮遊粒子状物質 (SPM)

大気中に浮遊する粒子状の汚染物質で、その粒径が  $10\mu\text{m}$  以下のものをいい、砂塵や燃えかすの炭素等であるといわれ、

鉄や鉛などの重金属も含まれている。粒径が小さいため気管、気管支、肺にまで達し、沈着するため影響が大きい。

#### ◇ポリ塩化ビフェニル (PCB)

熱安定性、電気絶縁性、不揮発性のためその使用範囲は、熱媒体、絶縁油、コンデンサー、ノーカーボン紙などに用いられた。カネミ油症事件の原因物質で、大きな社会問題となったため、現在製造を中止している。

#### 【や行】

#### ◇溶存酸素量 (DO)

水に溶けている酸素量をいい、一般数値 (mg/L) が小さいほど水質汚濁の著しいことを示す。魚の生息には  $5\text{mg/L}$  以上が必要といわれている。

#### 【ら行】

#### ◇六価クロム ( $\text{Cr}^{6+}$ )

大量に摂取すると、おう吐、腹痛、けいれん、ショック、昏睡、尿毒症などを起こし死に至る。皮膚に触れると皮膚炎、浮腫等が起こる。染料、染色皮革、メッキ工場などで使用されている。

#### 【単位】

1kg	:1キログラム	$=1\times 10^3\text{g}$	
1g	:1グラム	$=1\times 10^0\text{g}$	
1mg	:1ミリグラム	$=1\times 10^{-3}\text{g}$	1000分の1
1 $\mu\text{g}$	:1マイクログラム	$=1\times 10^{-6}\text{g}$	100万分の1
1ng	:1ナノグラム	$=1\times 10^{-9}\text{g}$	10億分の1
1pg	:1ピコグラム	$=1\times 10^{-12}\text{g}$	1兆分の1
1ppm	:		100万分の1
1ppb	:		10億分の1
1ppt	:		1兆分の1

---

## ねやがわしの環境

平成21年度版  
(平成20年度報告)

平成22年3月発行

編集発行 寝屋川市環境部環境政策課

☎572-8555

大阪府寝屋川市本町1番1号

☎072-824-1181 (代表)

kankyou@city.neyagawa.osaka.jp

---